

ISSN 1348-4222

Annual Report of Teacher & Curator Training Course

of

Kogakuin University

工学院大学

教職課程 学芸員課程 年報

第 28 号

Tokyo Japan, 2025

はじめに

工学院大学教職課程・学芸員課程では、教育研究活動の記録と情報公開を目的として本年報を発行しています。本号においては、2025年度工学院大学教師会の報告、各教員の報告、文部科学省による課程認定大学等の実地視察関連資料、各種データの記事を掲載しました。

教職課程・学芸員課程の運営にあたっては、教職課程科の教員のみならず、各専門学科の教員のみなさま、非常勤講師のみなさま、事務職員のみなさまの協力が不可欠です。多くのみなさまのおかげで、ひとまずは無事に年度を終えることができる見通しです。本当にありがとうございました。

非常勤講師のみなさまの動向について。

三浦登先生（教育実習指導等）は本年度をもって定年退職されます。先生は本学卒業生でもあり、後輩に向けた厳しくも温かい指導が学生たちに慕われているのを私たちは目にしました。本多満正先生（技術教育の理論と方法）、小野江隆先生（学校経営論）は、事情により本年度をもって退職されることになりました。内田徹先生（技術教育の理論と方法）は今年度のみ、いわばリリーフとして授業を担当いただきました。みなさんありがとうございました。どうぞお元気で。

今年度から外池彩萌先生に教育課程論を、竹内麻子先生に教育心理学をご担当いただいています。

さて、先ほど少し触れましたが、2025年度は文部科学省による本学の実地視察がありました。前回の実地視察は2004年度でしたから、約20年ぶりとなります。この原稿を執筆している時点では、本学の実地視察に関する文科省の報告書はまだ発表されていないようですが、本学教職課程の取り組みはおおむね評価されたといつてよいようです。特に、工学院大学教師会の取り組みが実地視察当日の講評でも特色ある取り組みとして評価されたことは特筆すべきことだと思います。詳しくは本文の記事をご覧ください。

やや私事ですが、今年度から教職課程科の科長を務めることになりました。不十分な点が山ほどあったかと思うと汗顔の至りです。来年度もどうぞよろしく願います。

（教職課程科長（学芸員課程兼務）尾高 進）

目次

はじめに	…………尾高 進	1
—2025 年度教師会報告—	…………安部 芳絵	3
大月 理央 山岸 和樹 山川 泰宏 岩崎 賢司 堀内 宏基 早川 和希 森田 賢 松田 悠 小淵 一樹		
中学校の教育課程における道徳教育の位置づけと教科外教育との関係性について —「特別活動」「総合的な学習の時間」との関係性を中心に—	…………浜野 兼一	15
定時制工業高校における教育実践とその課題 —教職課程「工業教育の理論と方法」の充実を目指して—	…………竹谷 尚人	25
教師としての自己概念を育成する「教育原論」の可能性	…………澤田 俊也	33
「職業指導」においてとりあげるべき教育目標＝内容	…………尾高 進	39
「情報と職業」でとりあげるべき教育目標＝内容	…………尾高 進	53
生活困窮家庭の中学生と学習性無力感 東京都世田谷区学習・生活支援の拠点事業におけるユーススタッフのかかわり	…………安部 芳絵	63
総合的な学習(探究)の時間のプラン作成におけるテーマ設定に関して	…………内山 宗昭	71
【文部科学省教職課程実地視察関連資料】		81
教職課程・学芸員課程ニュース第 73 号・第 74 号		91
教職課程・学芸員課程行事日誌 (2025 年度)		117
教職課程・学芸員課程データ		119

現職教員と教職学生が出会う場としての「教師会」

2025 年度教師会報告

安部芳絵（教職課程科幹事）

2025 年 12 月 26 日（金）16:00 から 17:45 まで、工学院大学新宿キャンパス 0542 教室ほか 5・6 階フロアを使って工学院大学教師会を開催した。1 年生から院生まで、そして教師となった卒業生だけでなく企業に就職した卒業生も合わせて 100 名を超える参加があった。



教師会では、教職課程科の尾高進先生からの挨拶のあと、9 名のゲストスピーカーの先生方を中心に教職ワールドカフェを実施した。ワールドカフェのファシリテーター・タイムキーパーは学部 4 年生である。各グループの話し合い後は、いったん 0542 教室に集まり、まとめのセッションにて全体の共有を行った。締めは、本学卒業生である三浦登先生からの閉会の挨拶があった。

教師会終了後は、1F アトリウムにて懇親会を実施した。学生からは、「去年来てよかったので、今年も参加しました。」（2 年生）、「お話をうかがって、私も先輩たちのようにになりたい、教師になりたいと改めて感じました」（3 年生）といった声があった。また、卒業生からは、「学部生から元気をもらいました」、「大学に戻ってくると、自分をふりかえることができます。明日からまたがんばります」、「教員の本当の楽しさを学生たちに伝えられたらと思います」といった声があった。教師会は、教職課程科教員にとって、卒業生の成長を目にすることのできる貴重でうれしい時間でもある。なにより、「また来年!」と仰ってください先生方・卒業生がいることは、大変心強い。

工学院大学教職課程は学科を超えたヨコのつながりと、学部 1 年生から卒業生までのタテのつながりを大切にしてきた。教師会は、「教師になりたい、でも不安」という学生にとっては背中を押してくれる先輩と出会える場、卒業生にとっては同期や在学生から元気をもらえる場となっている。ひとりでは大変だけれど、仲間と共に教師をめざすことで乗り越えていける、そんな教職課程をめざしていきたい。



年末の大変お忙しい中、ゲストスピーカーとして参加して下さった諸先生方、卒業生のみならず、在校生のみなさんに改めて感謝するとともに、2025 年度工学院大学教師会の報告としたい。

なお、当日の配付資料を次ページより掲載する。

2025年度工学院大学教師会

日時:2025年12月26日(金)16:00-17:45 0542 教室ほか

15:30 受付開始

16:00 開会

あいさつ 教職課程科 尾高進先生

本日の趣旨説明<ワールドカフェの方法>

参加者は4グループになって①~④の教室をまわります。

各グループでファシリテーターとタイムキーパーを決めてください。

ファシリテーターは、各グループの進行をお願いします。

タイムキーパーは、30分たったら、次の数字のゲストのところへ移動を促します。

例)グループ①→②→③ ④→①→②

参加者は、ゲストスピーカーの先生方にたくさん質問してみてください。

気づいたことは適宜メモしておいてください。最後にまとめのセッションがあります。

16:15-17:20 教職ワールドカフェ 30分×2グループ(途中5分休憩)

16:15-16:45 セッション1

16:45-16:50 移動

16:50-17:20 セッション2

① 大月理央先生(私立千葉英和高等学校・理科) 0542教室

山岸和樹先生(神奈川県立川崎工科高等学校・工業)

山川泰宏先生(東京都立小山台高等学校・数学)

② 岩崎賢司先生(横浜市立浦島丘中学校・数学) 0611教室

堀内宏基先生(神奈川県立横浜修悠館高等学校・情報科)

③ 早川和希先生(横浜市立笹下中学校・理科) 0615教室

森田賢先生(東京都立青山高等学校・情報)

④ 松田悠先生(中央区立晴海中学校・理科) 0652教室

小淵一樹先生(東大和市立第四中学校・技術)

17:25-17:45 まとめのセッション

*0542教室に戻ってきてください。

あいさつ 三浦登先生

閉会

18:00 懇親会(1階アトリウムへ移動)

*飲み物・食べ物を片手に、まだ話せていない先生や卒業生、お話ししたい人とじっくりお話ししてください。

19:30 閉会

教職課程関連行事

1月13日(火) 少年院見学

2月12日(木) 14-16時 教員採用試験キックオフ講座 新宿A0514教室

大月理央(材料科)です！

- 東京都出身、千葉県在住です。
- 工学部応用化学科(2011-2015)、大学院化学応用学専攻(2015-2017)出身です。
- 卒業後は…
非常勤1年→常勤3年(千葉県 私立中高一貫)▶常勤1年→専任教諭(現在勤務校)
- 専門は化学です。
- 前任校は吹部、今の学校では3年間バドミントン、現在は茶道部の顧問を任されています。ゼーんぶ未経験です。
- 校務分掌は生徒会指導(4年)→研究研修(1年目)です。
- 現在は対話やらファシリテーションやらの特訓中！



愛と平和を大切に



本日はどうぞよろしくお願いいたします！

1日の仕事量にどのくらいですか？

就業時間は8:30-17:30、授業は1日、45分間×2-4コマくらいです。
でも完全下校は19:00なので、大抵部活や委員会が19時まで生徒対応、それ以降に自分の仕事(日誌、出席整理、授業準備等…)をします。日中の空き時間もありますが、遅刻生徒の対応とか急遽欠勤になった先生の授業代行が入ったりとかで潰れることも多いです。



職場の人間関係にどうですか？

良好…か…？
ドラマで見ると、ドロドロの派閥とかはないです。管理職もとても寛容！
ただ「みんな」でとても仲良し!!かという、それなりに仲良しグループがあるので、その輪の中にいればアットホームだし、輪から外されてたらちょっとやりづらそうだなあ…という感じです。私は半々。
学校によってはドロドロ派閥とか、管理職との確執とかもあるらしい？



生徒対応に自信がありません…。反抗的生徒とかわっていますか？

めっちゃいます!!! 自信は私もずっとないです!!!
当たり前のこと(スカートの下にジャージ履くとか、掃除当番だから掃除しろとか)言っただけでめちゃくちゃ睨まれたりするの、えっ!?!? ってなることが1日5回くらいあります(笑)。
まあでも「人と人が共に過ごしている」のが学校という場なので、共にいれてない、って思ったタイミングで声をかけ続けるしかないよなあと思ってます。とは言いつつちゃんといちいち傷ついています。

部活にどうですか、大変ですか？

まあそれなりに…
拘束時間が長いのは苦ではないタイプなので、残業とか休日出勤とか、そんなのはあまり気にしないのですが(自分の時間が欲しい方はここが苦しいかも…)、自分の好きなもの、得意なものがあてがわれるわけではないので、「何していいかわかんないよなあ」という状態のままだに、一番しんどいかもしれない。…で、週5のバド部顧問時間も週1の茶道部顧問の今も、「部活」というものへの負担は個人的に一緒になあ、という感じですか。



授業の工夫とか何かしていますか？

「教える時間」<「学ぶ時間」になるように…
本校の方針が「教わる」から「自ら学ぶ」へ、なので、それが実現できるように日々模索中です。
「学ぶ」とは何か、「学ばせられる」と何が違うのか、まだまだわからないことだらけですが、生徒自身が何かしら「わからない」も含めて感じる時間を多く取る、とは考えてます。穴埋めプリントとか授業スライドはやめました。わかりやすいけど、あと暗記とか反射的にできて欲しいものはカードゲームとか作ってます。実験はあんまり好きじゃないです。



人の子なのど…
目の前で「ラッ」とか言われるとびっくりしちゃうわ…



ちびみにお給料は…

そこそこ遊びながら一人暮らしできるレベルです！
給与明細を確認しないタイプなので、正確な額はわかりませんが…
2個上の姉(不動産事務)よりはどうか年収は高そうです。奨学金も問題なく返せています。
でも学校によっては家賃補助がないとか、非常勤はボーナス/長期休みのお給料がない、なんて学校もザラにあるみたいなので、事前にちゃんと調べておいた方がいいです…あと私立の人は私学共済の積立貯金早め始めた方がいいです…まじで…誰も教えてくれなかったの…



保護者対応に自信がありません…。モンスタークレームとかってありますか？

怒鳴られる、みたいのはあんなないけど…
理不尽なクレーム自体はたまーにあります。年に1-2回くらい。クラスより部活の方が意見頂きがちなイメージです。なんか図式として、家庭vs学校になりがちだな、と思うので、面談とかか電話とかで敵じゃないですよアピールはめちゃくちゃします！一緒に頑張りますよ！っていう。あと素直にお宅のお子さんの対応に困って、なんかアドバイスありますか、っていう相談をします。業外保護者の人も子どもとの接し方困ってたりするので、ここでまた協働意識芽生えたりとか…



LINEのオンライン部活部室の時間とか、リフレク授業の時間等!



何が一番大変ですか？

「失敗の許されない仕事」と「締め切りのある仕事」!!
そっかしいので、進路関係の書類とか、繊細な仕事で苦手だし嫌いです。あと定期試験作成とかの、締め切りが課される仕事。どうやら自分のペースで進んだり止まったりができない仕事で嫌いなようです。
授業とか分掌とかはさすが時間はかかるし頭も悩ませますが、内容的にも時間的にも自分のペースで動かせるので苦じゃないです。
「何でも屋さん」扱いされるところも、この職ならではの大変なところだと思います。ちょっとと努力すれば得意が増えるので、私はあまり苦だとは思っていませんが…
まああとは生徒指導なり職員室内なり、「こいつ私のこと嫌いなんだろうな…」と思う人との関わりはしんどいです…教員じゃなくてもあるだろうけど…

なんか「理系」といって、こぼれお掃除(仕事)とかも…

今のうちにやっておいた方がいいことありますか？

自分の「好き」を探究してください！
教員はオタクであるに越したことはない気がしています。別に教科じゃなくても、部活じゃなくてもいいです。自分の好きなものがなければ、ひたすらいろんなことをしてみてください。自分の学びがなんでも生徒に還元できるところがこの仕事の素敵なおとこです。
最近になってようやく、私は「人」が大好きなんだなあと思ってきました。それに気づいてから、ようやく自分が「教師としてやりたいこと」が見えた気がしています。



逆にやっておいてよかった!と思うことありますか？

別にないです!!! (笑)
強いていえば、大学時代に芳絵先生の授業を受けていたあの時間は財産だなあと思っています。
…が、あとは別に、授業力も学力も、いつ頑張る始めても遅くない!はず!!
あ、でも色んな人に寄り添えるので、悲しい想いとか、辛い想いをいっぱいしてきた経験は無駄になってないなあと思っています。



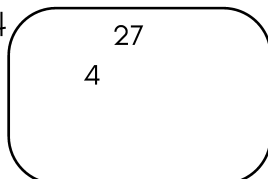
自己紹介

神奈川県立川崎工科高等学校
教諭（工業・電気） 山岸和樹



プロフィール

2014年4月～2017年3月（卒業）神奈川県立神奈川工業高等学校 電気科
2017年4月～2021年3月（卒業）工学院大学 工学部 電気電子工学科
2021年4月～2022年3月 神奈川県立神奈川工業高等学校（臨時任用）
2022年4月～現在 神奈川県立川崎工科高等学校（正規採用）



来年度が川崎工科での最後の1年

勤務校の様子

【神奈川県立川崎工科高等学校】

・公式インスタグラム



・工業というと荒くれもののイメージが強いですが、どちらかというと支援を必要としている生徒が多い印象です。（貧困・発達の遅れ・特性など）

教職について

- ・いろいろ教えてくれる先輩を味方につけよう！
- ・新卒1年目での正規採用は少ない！臨時任用や期限付きで働いてから採用されるパターン多し！
- ・授業以外の業務（校務）が、思ったより多い。
- ・友達教師を作れると楽しい！・・・etc

⇒以下質問にて回答します

＼NGなし！なんでも聞いてください！／

気になったキーワードがあったら教えてね！

[#残業のリアル] [#土日の過ごし方] [#給料とやりがい] [#辞めたいと思った瞬間] [#先生の恋愛事情] [#授業の失敗談] [#保護者対応の裏話] [#私の叱り方] [#教員になって良かったこと] [#採用試験の勉強法] [#初任時代の思い出] [#私が教師を続ける理由] [#最近の推し] [#ストレス発散法]

仕事内容

【一日の流れ】

7：40～ 出勤・授業準備・HR準備
8：30～ 朝の打ち合わせ
8：40～ 朝のSHR（出席確認）
8：50～ 1時間目～4時間目
12：40～ 昼休み
13：25～ 5時間目・6時間目
15：20～ 帰りのSHR
放課後
～18：00 退勤
（平均して1日4時間程度授業を行う。）

【担当科目】

電気回路（3年）・電力技術（3年）・課題研究
電気実習（3年）・情報実習（3年）

【校務分掌】

生徒支援グループ

- ・生徒会活動、委員会活動
- ・体育祭、文化祭、球技大会 など
- ・カウンセリング・コア会議 など

メッセージ

教員になろうか悩んでいる学生がいるのであれば、ぜひ話しかけて来てほしい。私が話せることであれば何でも話します。できることならなんでも協力しますし、授業でも給料でも教えます。周りの先輩を存分に使って、悔いのない選択を！

■ 基本情報

山川泰宏 (やまかわ やすひろ)

東京都立小山台高等学校 数学科 指導教諭

■ プロフィール

数学科教員を目指して某大学数学科へ進学するも在学中にITの世界に惹かれ、IT企業に就職。約10年間社会の荒波に揉まれる。その後、改めて教員を目指すべく会社を退職し工学院大学教職特別課程へ入学。30代で教育実習を行う。教員採用試験に合格後、初任校は工業高校。生徒指導を中心に研鑽を積んだのち、現在の勤務校へ異動。

現在は指導教諭として、校内・校外問わず東奔西走。

<指導教諭とは？> 高い専門性と優れた教科指導力を持つ教員で、模範授業などを通じて、教科等の指導技術を自校・他校の教員に普及させる職務を担う教員。

■ 勤務校の様子

2023年に創立100周年を迎えた伝統ある「進学指導特別推進校」。各学年8クラス構成。男女比ほぼ同数。定時制併置。文武両道を掲げ、国公立大に現浪あわせて約100名合格。部活も盛ん。2014年選抜甲子園出場。校庭は人工芝だが校舎は平日歴史を感じさせる。

▼現在の分掌 進路指導部を4年間経験したのち、担任。

3月に卒業生を送り出し、現在は再び1年生の担任。

▼経験した業務 ICTリーダー。数学科主任。学年教務部。学年生徒指導部。

▼授業 数学ⅠⅡ (1年4単位×2クラス)

数学A (1年2単位×2クラス)

数学γ (3年国公立文系演習クラス×2クラス)

探究・LHR (担任クラス)

▼顧問 硬式テニス部 (会計担当)

▼一日の流れ 07:50 出勤

08:30~14:55 授業

18:00頃 退勤

※所定勤務時間：8:20~16:50 (休憩45分)

※月平均残業時間 約23時間 (令和6年度実績)

※有給休暇消化日数 18日/年 (令和6年度実績)

■ 生徒の様子

中学校までは勉強も部活も頑張り、成績上位だった生徒が入学してくる。「勉強」「部活」「行事」が盛りだくさんの高校であり、生徒はとにかく忙しい！高校でも文武両道で青春を謳歌している生徒が多い一方、進学校特有の問題もちらほら。

■ 教職の特長 (民間企業との違い)

- ✓ 業務内容がむちゃくちゃ多岐にわたる！！業務範囲が果てしなく広い！！業務水準が経験年数に比例しない！！同僚の“幅”が広い！！(年代/文系理系体育系芸術系/秀才・天才・天然/敏感・鈍感)
- ✓ 良くも悪くも中毒性高。ブラック要素満載にもかかわらず、天職だと確信してイキイキと仕事する先生方も多い！！
- ✓ 技術やノウハウよりも「人間力」がモノをいう。
- ✓ 定期異動で人間関係がリセット。(公立の場合)

■ みなさんへメッセージ

「活力」「探究力」「人間力」

生徒からの信頼が厚い先生は、この3つを備えています。

「活力」・・・心身とも健康で活力溢れる先生が大好きです。

昨今は免疫力も大事です。

「探究力」・・・我々教員も一生勉強！教科の専門性を探究してってください！自己研鑽を続けている先生かを生徒はよく見えています。

「人間力」・・・同じことを言っても生徒が反発する先生と、生徒が納得する先生がいます。よく生徒が相談に来る先生と、そうでない先生がいます。

人生に無駄はありません！全力でこれらを磨いてください！

<最後に>

工学院大学は教員養成系大学ではないものの、数学・理科・技術・情報といった理系教員を多数輩出しています。世の中全体が“理系”化傾向にあるなか、本学教職課程の重要性は今後より一層高まることでしょう。

そのような本学『教師会』の輪に、現役学生の皆さんも加わることを、我々一同楽しみにしています！（私のように、いったん民間企業を経験してから教職へ戻ってくる道も悪くないですよ！むしろおススメかも！？）

【プロフィール】

氏名：岩崎 賢司（いわさき けんじ）

経歴：工学院大学 工学部 電気システム工学科 卒業

工学院大学大学院 工学研究科 電気電子工学専攻 修了

桐光学園中学校高等学校 勤務（2019.4～2021.3）

横浜市立浦島丘中学校 勤務（2021.4～）

趣味：筋トレ（大学4年生の頃から継続しています。）

ツーリング（CBR 壊れました……………。）

※一昨年の秋に、息子が生まれました。現在2歳。絶賛イヤイヤ期です。最幸です。

【勤務校の様子】

○ここ数年、毎年初任者が配属されている比較的若い先生が多い学校です。生徒の気持ちを第一に考え、生徒と共にがんばれる先生たちです。

○学級数は1年5クラス、2年6クラス、3年6クラスの計17クラス

○グラウンドが広く、体育館、武道場、オムニコート有する学校。練習試合や大会の会場に利用されています。

【生徒の様子】

素直で優しい生徒が多いです。

たくさんのお話を生徒から先生へしてくれます。毎日話の話題が尽きない楽しい時間を過ごせています。

学習面では、苦手とする分野にも粘り強く取り組む姿が見られます。わからない問題は先生や周りの友人に聞くことのできる生徒たちです。

【1日の流れ】

💡 起床5:50→学校到着7:30→退勤19:00→帰宅 or ジム20:00→就寝23:30 💡

○学校に着いたら…メール確認、クローム保管庫解錠、クラスの清掃、朝学習準備、その日の確認、準備

○8:30… 打ち合わせ、生徒の受け入れ

○日中… 授業、巡回、指導部、教科会

○放課後… 部活動、委員会活動、諸対応等

○完全下校後… 次の日の準備、学級通信（現在27号※さぼりすぎました…）、残務処理等

【教職について】

日本の未来を担う、生徒の成長を見守り、支えることのできる素敵で責任のある仕事です。

時には悩み、嫌になるときも正直あります。時間外労働、部活動での土日出勤、引き算がなかなかできない体質、世の中のニュースや記事で言われている通り、想像通りの世界。息子の寝顔見ながら寝床につき、寝顔を見て出勤する。それでも、部活の引退の瞬間、最後の授業での瞬間、卒業式の合唱の瞬間、正門をでていくあの後ろ姿、代えがたい想いになります。極論、仕事はあくまでお金を稼ぐ手段（目的）でしかないと思っています。しかし、その中でこの仕事を選んだ理由があります。

自分自身まだまだ至らないところばかりです。たくさんの人に支えられ、学んでいく中で職務を全うできています。本日も、お世話になった安部教授をはじめとする先生方、現役の先生方、先生を目指しているみなさん、教職に興味を持って免許取得を目指しているみなさんとお話できる機会をいただくことができ、うれしい気持ちと同時にとても楽しみです。

【メッセージ】

教師という仕事には、正解はないと思っていますが、それぞれの最適解は見つけられる、見つけていかなければならないと思います。物事の表と裏を考えつつ、その最適解をみなさんと探していきたいです。

横浜でまっています!!

【プロフィール】〔堀内宏基 C3-03089、EM-08018、K3-15032、K3-16022、ED-22001〕

経歴：院卒（米澤研）→ SE5年 → 科目等履修2年 → 全日制高校5年 → 通信制高校4年目&博士課程4年目（田中研）

【勤務校の様子】〔神奈川県立横浜修悠館高等学校 単位制による通信制の課程・普通科 入学倍率0.4倍 転編あり〕

- [授業] 自習を前提に年間の授業とレポートを作る。 「自らの学習を調整しようとする側面」が必須。
- [業務] [New!] Webレポート開始で採点時間は半分 採点業務が減っても生徒への支援量は変わらない
- [部活] [New!] 事件の火種に 対人スキル、調整力の向上、どこで身に付けさせるべきか…

【生徒の様子】〔すべてが個別の案件。「普通」とは何か〕

- [クラス] 生徒は平日or日曜を選ぶ。担任は1クラス約60人、半分はHRにいない。毎年調査書を作る。
- [進路] 3年で卒業する生徒は半分、進学はその半分。全体の2割は非活動。社会人・退職者もいるが…
- [支援] 手帳案件含め、生徒の特性を考慮して言葉選び・振る舞いを考慮して対応すべき生徒が多数。

【一日の流れ】〔裁量労働に近い自律業務。全日より業務量の時間感覚が必要。「まだ平気」は火種の元〕

- 情報の授業は全日の4分の1、代わりにレポート添削 HRは昼。部活は週1。ほぼ定時で帰宅。
- 「自習支援」を促すレポート完成講座と科目総合。自習支援用の授業動画収録も仕事の一つ。
- レポート1通分の授業を終えたら次年度のレポート作成に取り掛かる。

	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜
①08：30～08：35	打合せ	打合せ	打合せ	打合せ	打合せ
②09：00～09：50	科目総合				情報Ⅰ(TT)
③10：05～10：55	情報Ⅰ	情報Ⅰ(TT)	パソコン入門	情報Ⅰ(TT)	
④11：10～12：00				立ち番	パソコン入門
HR12：00～12：25	HR	HR	HR	HR	HR
⑤13：10～14：00	情報Ⅰ	情報Ⅰ	情報Ⅰ(TT)		パソコン入門
⑥14：10～15：00				総探	レポート完成講座
⑦15：10～16：00				写真部	
⑧16：10～17：00				写真部	

【教員の仕事について ～自分の武器を認識しましょう～】

- [授業・業務] 一芸に秀でていると安心と信頼を得る
- [生徒・指導] 適切な共感力・言葉選びは信用を得る
- [校務・規律] ホウレンソウ、倫理観が社会的品格を磨く

【メッセージ】

- 知識・経験の獲得は何歳になっても「遅い」はありませんが、体力にはピークがあるようです(´;ω;`)
- 「今」やるべきこと、「今」しかできないこと、希望の10～20年計画を立ててみましょう！
- 「やりたいことはぜんぶやる！」「やりたいと思ったときがやる時！」 by キティちゃん

【おまけ ～自己アピールできるカリスト～】

教員生活は自身の人生が武器になります。よく使う武器はいつでも使えるよう準備しておきましょう。

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 1分間で自己紹介できる | <input type="checkbox"/> 自分の学問が社会でどう活用されているか語れる |
| <input type="checkbox"/> 趣味にオチをつけて紹介できる | <input type="checkbox"/> 趣味を学問に結び付けて語れる |
| <input type="checkbox"/> 極めた(い)単元・分野がある | <input type="checkbox"/> 学問以外で語れる趣味・分野がある |
| <input type="checkbox"/> 自分の失敗談を笑い話にして伝えられる | <input type="checkbox"/> 自分の未来を語れる |

中学校教員の仕事とメッセージ

プロフィール

私は早川和希と申します。理科を担当する中学校教員です。大学にはAO入試で入学し、大学院は推薦で進学しました。教員採用試験では大学の推薦を受け、一次試験を免除されるという貴重な経験をしました。日々の取り組みが活かされた瞬間です。また、これまでの学びや挑戦が、今の教員生活に大きく役立っています。

勤務校

勤務校は横浜市立笹下中学校です。全校生徒は約600人、6クラス編成の学校で、地域に根ざした温かい雰囲気があります。生徒たちは心優しく、互いに思いやりを持って接する姿が印象的です。

生徒の様子

多くの生徒が授業と休み時間の切り替えをしっかりとでき、学習に集中する姿勢が見られます。また、挨拶をきちんとする生徒が多く、学校全体に明るい雰囲気があります。

1日の流れ

私の1日の流れは次の通りです。朝8時10分に出勤し、8時35分から朝の会を行います。8時50分から4時間目まで授業を担当し、12時40分に昼食を取ります。午後は13時25分から5・6時間目の授業を行い、15時20分に帰りの学活を終えます。その後、15時40分から部活動の指導を行い、18時頃に退勤します。行事があるときや成績の時期、面談の時期やテストの時期などは退勤時間が遅くなることもあり、21時を超えることもあります。何もなければ17時に退勤します。

教職について

教職のやりがいは、理科を教える楽しさにあります。生徒が理解できるようになった瞬間や、授業以外の場面で成長していく姿を見ると、大きな喜びを感じます。一方で、初めての授業や実験準備には多くの時間が必要で、予備実験を含めた準備は大変です。必要なスキルとしては、自分自身を柔軟に変化させる力、心をコントロールする力、そして楽しむ力が求められます。

学生へのメッセージ

教職を目指す皆さんへのメッセージです。レクリエーションの引き出しをたくさん持っている、生徒同士の関係づくりがスムーズになります。また、友達に勉強を教える経験を積むことで、人に伝える技術を少しずつ身につけることができます。こうした力は、教員になったときに必ず役立ちます。

工学院大学 教師会資料(森田)

■プロフィール

森田 賢 (もりた けん)

前職は通信事業者のエンジニアとして、民間企業に11年間従事。教員採用試験を経て東京都の教員に転身。初任校は、昼夜間定時制・専門学科情報（情報科）が設置されている都立新宿山吹高校で5年勤務。現在は進学指導重点校である都立青山高校に主幹教諭として勤務。教員歴12年。硬式野球部部长、DX部主任、情報科主任

■勤務校の様子

東京都教育委員会から、進学指導重点校（日比谷・西・国立・戸山・青山・立川・八王子東）及び英語教育推進校に指定されている。進学指導重点校の継続指定には、難関国立大学と国立医学部に一定数の現役合格者数が必要となるため、進路指導には特に力を入れている。英語教育では、ネイティブの英語講師とのオンライン英会話の時間が設定されていて、毎年卒業生の約半数が英検準一級を取得している。進学指導重点校の教員の多くは、公募（書類・模擬授業・校長面接）による選考を経て採用されているため、高い専門性と指導力が求められる。

独自の教育活動・部活動としては、神宮球場グラウンドを利用したマラソン大会、国立競技場での運営ボランティア、全国春高バレー決勝戦の線審（東京体育館）、明治公園祭ステージイベント（ダンス部・管弦楽団）等、外苑地区との連携活動が多いことが特徴である。文化祭も盛んで、全てのクラスがミュージカルを行い、コロナ禍前は2日間で約1万人の入場者を迎えた。

昨年度より、文部科学省からDXハイスクールに指定され、ICTを活用した教科教育や校務のDX化を推進している。

■生徒の様子

学習・学校行事・部活動の「3兎を追う」をスローガンに、全ての教育活動に全力で取り組む生徒が多い。服装は自由のため、ほとんどの生徒が私服で登校している。都心にある立地も含めて、自由な校風を求めて入学してくる生徒が多い。校内規定により17時下校となっているが、20時まで校内での学習は許可されているため、全校生徒の半数以上は自習室やホールで夜まで学習している。

2学年までの通塾率は約2割程度、基本的には生徒同士で教え合い、わからない部分を教員やチューター（難関国立大学に進学したOB・OGが自習室に常駐）から学び理解を深めている。長期休業期間も、講習や部活動・文化祭準備のため、土日も含めて多くの生徒が登校している。

■一日の流れ

情報Iの持ち時数は「14」、情報科教員の平均持ち時数は「16～18」のため、持ち時数はやや少ない方である。

今年度から共通テストに情報Iが追加されたことに伴い、夏期講習等を活用して共通テスト対策講座を行っている。

DXハイスクール事業の一環として、民間企業や一橋大学の講師と連携し、木曜日の夜間にプログラミング演習や情報デザイン演習（動画編集）の授業を行っている。

授業終了後の時間は、会議・部活動・分掌対応等の校務が入っている。分掌主任のため、企画調整会議の出席・会議資料の作成・分掌部会の運営・教員間の調整等で多くの稼働がかかる。分掌（DX部）の仕事としては、校内ICT環境の改善、校務システムの定着化、勤務校のホームページ更新、公式YouTubeチャンネルの運営等を行っている。

硬式野球部の部活動は火曜と木曜がOFF、他の曜日は練習または遠征試合が入っている。日曜日に遠征試合がある場合は、朝5時に起床し相手校とダブルヘッターを行い、18時前後に終わるケースが多い。今年は幸いにも多くの公式戦を経験することができて良かった反面、引率による休日出勤も多かった。4年連続神宮球場で夏の選手権大会を戦うことができたことは、野球部顧問としては大変嬉しいことであった。今年は6～9月の平均気温が高く、公式戦やグラウンド練習で生徒の体調を常にチェックする必要があり、顧問も精神的にも体力的にも非常に大変であった。

平均的な勤務時間は、平日が8時～18時、土日が7時～18時。週に一日、授業が無い日が設定されているため、火曜に振休を取得している。東京都の教職員は、積極的に時差勤務とテレワークを取得できるようになったため、木曜は10時～20時が勤務時間となっている。

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
1限			情報I		情報I	情報I	野球部 練習試合 or 公式戦
2限	情報I		探究準備		分掌対応	情報I	
3限	会議準備		分掌部会	授業準備	情報I	分掌対応	
4限	情報I	テレワーク or 振休	情報I	情報I	授業準備	野球部 or 学校説明会	
5限	情報I		情報I	授業準備	情報I		
6限	情報I		探究活動	情報I	授業準備		
放課後	企画調整会議		職員会議	DX対応	野球部		
夜間					DXハイスクール実習		

【プロフィール】

まつだ はるか
松田 悠 (理科・バレ一部顧問)

2021年3月 先進工学部応用物理学科卒業
2021年4月～ 北区・中野区の中学校で非常勤
(計週16時間)

2022年4月～ 中央区立晴海中学校
1年目:1学年副担任
2年目:2学年副担任、3学期から担任
3年目:1学年担任
4年目:2学年担任(現在)

「誠心誠意真っ向勝負で日々向き合う」を自分の軸に、毎日過ごしています。

【1日の流れ】

	7:50	出勤
	8:10	職員打ち合わせ
	8:20	出欠確認(朝読書開始)
	8:30	朝学活
	8:40	<授業> 1校時 8:40～ 9:30 2校時 9:40～10:30 3校時 10:40～11:30 4校時 11:40～12:30 給食準備 12:30～ 給食終了 13:00 昼休み 13:00～13:20 5校時 13:25～14:15 6校時 14:25～15:15
		
	15:15	授業でいっぱいのおきもあれば、1日に2時間しか授業がない日もあります！時間割担当の先生が組んでくださったものに従って動きます！
	15:20	終学活
	15:30	掃除終了・下校指導
	16:00	部活開始
	18:00	生徒最終下校

【勤務校の様子】

1学年4クラス、2学年3クラス、3学年4クラスで、学校は老人ホームや保育園との複合型施設になっています。

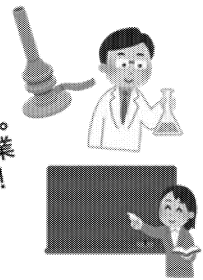
大きな特色として、防災教育に力を入れているところがポイントです！

避難訓練は、「実働訓練」という形で行い、実際に大学で防災をテーマとしている研究室の学生さんが、血糊などを用いて怪我人役をし、教員も生徒も、どのような展開になるかわからない中で、適切な判断で動く練習をしています。

子供たちが「自助・共助」を目指して、自ら怪我人のトリアージもするなど、かなり高度な訓練をしています！教員のみの実働訓練も定期的に行われ、毎回かなり深い学びになります！

【教科】
初任から早速求められる力！
わかりやすく教えるだけではなく、
授業規律もきっちり管理することが
ポイントです。

私は、週に計16コマ(2年生4コマ×3クラス
と3年生1コマ×4クラス)の授業をしています。
また、今年度から教師道場に通い、授業
力を高められるように研究しています！



【担任】

腕が試される場！一番楽しい仕事です！
行事では一致団結して、つつい熱が入ります。

提出物は出しましょう、周りの人を思いや
って過ごしましょうなど…、当たり前のこと
を社会に出てもできるように、義務教育
最後の貴重な3年間、家族のように成長を
見守り、実感できる場であると感じます。



【部活】

教員にとって修業の場！顧問になること
を恐れている人も多いですね！

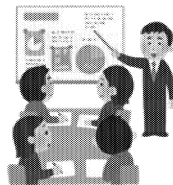
顧問も少ない中、全学年を指導したり、保
護者とのやりとりも…、正直1番難しい…！
そんな場面を一生懸命頑張っていると、
粘り強く頑張る力がつきます！
学級経営や生活指導の練習にもなり、他校
のいろいろな教科&立場の先生方との輪が
広がり、学び放題です！



【分掌】

学校の業務！これがないと回らない！
学籍や時間割、保護者会、三者面談、公開
授業のお知らせなどを作成する、「教務部」
に所属しています。

私は、転出入があったときの処理、学校
のチャイム設定、土曜公開日や面談のお知
らせなどを作成する役割が与えられていま
す！他にも、生活指導部・進路指導部など
があります！



【その他】

行事の運営、PTA行事への参加などもあ
ります！保護者の方からの理解は最重要で
す。とても難しいことでもあります、良好
な関係を保てるように、コミュニケーション
を大切にしています。



どの場面でも活躍するか…

チャンスがたくさんある職種だと感じます◎

【教職を目指す皆さんへ】

教師の仕事は、幅広い年齢層の方々と、多様な
関わりや業務を行う必要があります。ですが、そのた
めに必要なスキルの全ては、工学院での日々や教職の授
業にたっぷり詰まっていたので、無事にそしてあとい
う間に4年目を終えようとしています！

大学生活を精一杯充実させ、先生方や仲間との縁
を、これから先も大切にしてください！

「生徒のために」という気持ちは、すぐには報われな
いこともあります、その気持ちさえあれば、きっと楽
しい毎日になることと思います。

工学院の先生方・先輩方・友人のように、私にもでき
ることがあれば、いつでも質問や相談、お待ちしております！
→ s417055@g.kogakuin.jp

プロフィール

出身

機械システム工学科
(システムインテグレーション研究室) 卒業

教員歴

府中市立第三中学校 (7年間)
副担任 → 1,2,3年担任 → 1,2,3年担任
DIY部 / バドミントン部

東大和市立第四中学校 (2年目)
1年担任 → 2年担任 (現在)
バドミントン部

校務分掌

教務部 担当
(時間割作成、授業時数集計など)

勤務校の様子

各学年5クラス構成。3年前から標準服が自由化され、生徒たちは私服で生活しています。校則も明確なものは少なく、「自分で考えて判断しよう」という方針です。

教育目標

「自ら考え、
学び続ける生徒」

雰囲気

のびのび元気。
職員室も笑いが絶えない！

ある1日の流れ

8:00 ~ 8:25	出勤 → 打合せ (8:15~)
8:25 ~ 8:50	生徒出欠確認・朝学活
8:50 ~ 12:40	授業 (午前4コマ)
12:40 ~ 13:30	給食指導 ㊦ 昼休み (生徒対応等)
13:30 ~ 15:20	授業 (午後2コマ) ※水曜は5時間授業後、会議
15:20 ~ 終学活	清掃指導・帰りの会
放課後	部活動 ㊦ 校務・授業準備 (退勤は18:00~19:00くらい)

この仕事のやりがい

✓ 成長を間近でサポート

中学生の3年間は心身ともに劇的に変化します。その一番近くで成長を感じられるのは、他にはない魅力です。

✓ 青春を共に感じる

運動会や合唱コンクール、部活動。笑いや涙を共有し、一緒に熱くなれる瞬間は本当に楽しいです。

✓ 感謝の言葉

上手くいかない時もありますが、卒業式で生徒や保護者から感謝されると「頑張ってたかった」と心から思えます。

皆さんへのメッセージ

「教員はブラック？」と不安な人へ

どんな仕事も「働く」ことは大変です。大切なのは、その中で自分が大切にしたい価値を考えて選ぶことだと思います。

こんな価値観の人におすすめ！

#やりがい

#青春

#子どもが好き

卒業して教員になってから、工学院大学の教職課程の先生方はすごい方々ばかりだと強く感じます。皆さんの学習環境はとても恵まれています！

自信を持って勉強し、

もしよければ是非一緒に働きましょう！

中学校の教育課程における道徳教育の位置づけと教科外教育との関係性について —「特別活動」「総合的な学習の時間」との関係性を中心に—

浜野兼一

はじめに

中学校における教育課程は、生徒一人ひとりの人格の完成を目指し、知・徳・体の調和のとれた発達を図ることを基本理念として編成されている。その中でも「道徳教育」は、教育基本法および学校教育法に基づき、教育の根幹をなすものとして位置づけられている。2015年の学習指導要領改訂により、従来の「道徳の時間」は「特別の教科 道徳」として格上げされ¹、教材・評価の体系化やカリキュラム・マネジメントの観点から再構築が図られた。これにより、道徳教育は単なる情操教育や生活指導の一部ではなく、学校教育全体を通じて育成すべき資質・能力の一領域として明確に制度化されたといえる。

しかしながら、道徳教育は教科としての独立性を有する一方で、その本質が「生徒の生き方や価値観の形成」を目的とするがゆえに、他の教育領域-特に「特別活動」や「総合的な学習の時間」などの教科外教育-との連携が不可欠である。これらの領域は、いずれも「主体的・対話的で深い学び」を促進する実践の場であり、社会性や協働性、自己理解を深める活動を通じて道徳的価値を具体的に体得させる役割を担っている。

現在の中学校教育における「特別活動」は、学級活動、生徒会活動、学校行事で構成され、生徒が集団生活を通じて人間関係形成能力や自治的態度を育むことを目的としている。また、学習指導要領やその関連資料において、特別活動は「生徒の社会的資質や協働性を高め、道徳性を生活の中で実践的に育成する機会」であるとされており、道徳教育との関連性は制度上も教育実践上もきわめて密接である。

一方、「総合的な学習の時間」は、教科横断的な探究学習を通して、生徒が自己の課題を発見し、主体的に解決しようとする資質・能力を育てることを目的として、中学校では、2002（平成14）年に全面実施された。その内容は地域社会との連携やボランティア活動、環境・福祉・国際理解など多様なテーマに広がっており、生徒が他者との関わりの中で価値を見いだす学びとして、道徳教育の実践的・体験的展開を補完する場として機能している。

このように、中学校教育課程において「道徳教育」「特別活動」「総合的な学習の時間」は、それぞれ固有の目標と構造を有しつつも、いずれも生徒の人間的成長を支える「人格形成教育」という共通の基盤の上に立っている。しかし実際の教育現場においては、これらの領域の連携が十分に意識されず、形式的な時間配分や活動の分断が見られることも少なく

¹ 「特別の教科 道徳」では検定教科書が使用され、指導要録には記述式の評価が導入された（2019年度から中学校で全面実施）。

ない。特に「道德教育」が教科化されたことにより、評価や教材活用の形式が重視される一方で、生活の中での道德的実践との接続が弱まる懸念が指摘されている。

本稿では、中学校における道德教育の位置づけを、教育課程全体の中で再検討するとともに、「特別活動」「総合的な学習の時間」との関係性を通して、その教育的意義を考察することを目的とする。具体的には、各領域の教育目的・方法・評価の特徴を整理し、三者の連携による道德性育成の可能性と課題を明らかにすることで、教科と教科外教育の有機的統合を基盤とした新たな道德教育の在り方を展望する。

1 中学校の教育課程における道德教育の位置づけ

中学校教育課程において、道德教育は「知・徳・体」の調和を通して生徒の「人間としての生き方」を育むことを目的とし、単なる付随的領域ではなく、教育活動全体の基盤として重要な位置づけを有している。特に、平成 29 年告示の中学校学習指導要領においては、道德教育を「学校の教育活動全体を通じて行う」ものとし、かつ「特別の教科 道德(道德科)」を要として位置付けている。

このような制度的枠組みのなかで、道德教育は「教科」としての体系的な指導を担う道德科を中心に据えながらも、他の教科・「総合的な学習の時間」・「特別活動」と有機的に連携してこそ、その意義と実効性を発揮するものである。

まず、道德教育の制度上の位置づけを整理すると、「学習指導要領第 1 章 総則」において、「学校における道德教育は、特別の教科である道德（以下「道德科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道德科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。」と明記されている²。ここには、教育課程全体の中で道德教育が果たすべき役割の根幹が示されているといえるであろう。

また、道德科の目標として、「よりよく生きるための基盤となる道德性を養う」こと、「道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことが示されている。

すなわち、生徒が自らを見つめ、物事を多面的・多角的に考え、主体的に判断・行動する基礎を育てることが道德教育の目的なのである。

このように、道德教育は「人格形成」「よりよく生きる」ための基盤として位置付けられており、他の教科が知識・技能・思考力・表現力等の育成を主軸とするのに対して、道德教育は「人間性」「豊かな心」「社会的・倫理的資質・態度」を育む中心的な場である。

次に、教育課程全体の構成のなかで、この道德教育がどの位置にあるかをさらに考察したい。中学校の教育課程は、国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術家庭・外国語の 9 教科、道德（特別の教科）、総合的な学習の時間、特別活動（学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事など）で構成されており、道德は教科と教科外教育（総合的な学

² この記述は、道德教育を単独の時間や教科だけで完結させるものではなく、教育課程全体にわたって貫徹すべきものとして位置付けているといえる。

習の時間・特別活動)との接点を持ちながら、全体を貫く横断的な教育を担っている。

「総合的な学習の時間」は、生徒が課題を発見し、探究し、主体的に学びを深める教科横断的活動の場である。中学校では、生徒が社会・地域・国際・環境・福祉等の実践的テーマに取り組むことを通じて、自らの生き方や価値観を問い直す機会を設けており、これは道徳教育の「考える・判断する・行動する」プロセスと親和性が高い。したがって、道徳教育は、道徳科という明確な時間・教科での指導を基盤としながら、総合的な学習の時間を通じた探究活動や実践活動と結びつくことで、その学びを生活世界・社会世界へと拡張させることができる。

「特別活動」は、生徒会活動・学級活動・学校行事等を通して、生徒の自治・協働・集団生活・自己実現を促す教育活動である。道徳教育と特別活動の関連については、たとえば「特別活動において、道徳的価値を意図した実践活動や体験活動が計画的に行われている場合は、そこでの生徒の体験を基に道徳科において考えを深めることが有効である³」というところから示されている⁴。

以上を踏まると、中学校における道徳教育は、教育課程全体において次のような位置づけをもつものと言える。

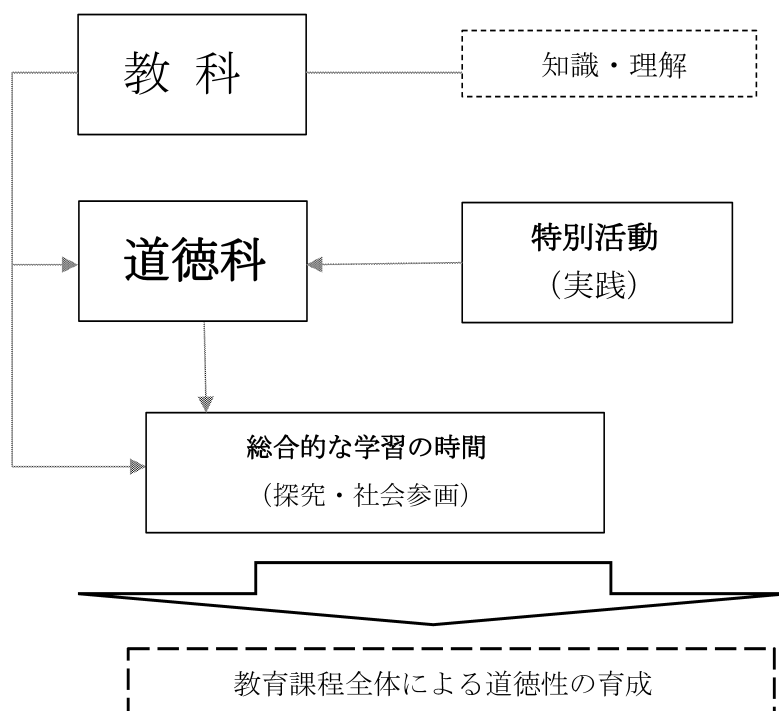
第一に、道徳教育は教育課程の根幹にある「生きる力」「人間力」の育成を担う領域であり、道徳科という専科の設置によって、知・技能・思考力を育てる他教科と並列ながらも「徳」すなわち「価値・態度・行動」を育む教科として明確に位置付けられている。第二に、道徳教育は教科だけにとどまらず、教育活動全体を貫通する教育であり、各教科・総合的な学習の時間・特別活動と連携して、横断的・発展的な学びを構築するものである。第三に、道徳教育は、生徒の発達段階を踏まえ、自ら考え判断し行動する力を養うものであり、形式的・画一的な倫理教育から脱し、主体的・対話的・深い学びを通じて道徳性を育てるという現代的観点を持っている。

しかしながら、この位置づけを実際の教育課程編成・実践の場で具現化するには、いくつかの課題も散見される。例えば、他教科・総合的な学習の時間・特別活動との連携が形式化・断片化され、道徳科で学んだ価値・態度が日常の学級活動や学校行事での実践へと十分につながらないケースが指摘されている。加えて、道徳科自体が他教科と比べて指導時間・評価・指導体制が十分とは言えないという実践上の視点もある。こうした実態は、道徳教育が教育課程全体に位置付けられているという制度上の理念と、学校現場での実践とのギャップを浮き彫りにしているといえる。

³『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説／特別の教科 道徳編』p.98。ここでは、体育祭や修学旅行などの学校行事において、生徒一人一人が学校や学級の一員として活動した経験を基に、自分の役割と責任について自覚を深めた体験を道徳科の授業の導入や展開で振り返ることができる、としている。

⁴つまり、道徳教育が道徳科だけで完結せず、特別活動という教育実践の場を通じて「生きる力としての道徳性」を具体的に発揮・育成することが想定されているのである。

図1 道徳科、特別活動、総合的な学習の時間の関係性



2 道徳、特別活動、総合的な学習の時間、各領域の教育目的・方法・評価の特徴

(1) 道徳の教育目的・方法・評価

まず、「特別の教科 道徳」は、学校教育における人間形成の中核を担う教科として、明確な目標に「よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成」を掲げている。

この道徳性とは、単に社会的規範を理解し守る態度にとどまらず、自己と他者、社会との関係を主体的に捉え、より望ましい行動を自ら選択しようとする内面的な力を含むものである。

現行の学習指導要領（平成 29 年告示・令和 3 年度全面実施）においては、従来の価値注入型の指導から脱却し、「考え、議論する道徳」への転換が明確に打ち出されている。これは、道徳的価値を一方向的に教え込むのではなく、生徒が教材に示された事例や課題をもとに多様な立場や考え方に触れ、他者との対話や意見交換を通して思考を深めていく学習過程を重視するものである。こうした過程を通じて、生徒は価値の意味や葛藤を自分自身の問題として捉え直し、自己の生き方や行動選択へと結びつけていくことが期待されている。

指導方法においては、読み物教材や映像資料などを活用して道徳的葛藤のある場面を提示し、生徒の問題意識を喚起することが基本とされる。その上で、意見交換や話し合い活動を通じて多面的・多角的な思考を促し、さらに自己の考えを振り返る内省的思考へと導く構成が重視されている。これにより、認知的側面と情意的側面を統合した学びが実現され、生

徒一人ひとりの道徳的判断力や実践意欲の育成につながる。

また、評価の在り方についても従来の教科評価とは異なる特徴をもつ。道徳科では数値による評定は行わず、「学習状況に関する記述」として、生徒の思考の深まりや価値への気づき、自己の変容の過程を丁寧に捉える記述式評価が採用されている。この評価は、結果としての行動のみを測定するものではなく、学習過程における内面的な成長を重視する点に特徴があり、道徳教育の本質に即した評価方法であるといえる。

(2) 特別活動の教育目的・方法・評価

次に「特別活動」は、学級活動・生徒会活動・学校行事などの多様な活動を通じて、生徒の自治的精神や社会的資質を育成することを主たる目的とする教育領域である。

これらの活動は、教科のように知識や技能の習得を中心とするものではなく、集団生活の中で役割を果たしながら、よりよい人間関係や学校生活の在り方を実践的に学ぶことに重点が置かれている。

学習指導要領においては、特別活動の目標として「望ましい人間関係の形成」や「集団や社会の一員としての自覚の育成」が明確に示されている。生徒は、話し合い活動や行事の企画・運営、委員会活動などを通して、自分自身の考えや感情を見つめ直すとともに、他者の立場や思いを理解し、集団全体の中でどのように行動すべきかを経験的に学んでいく。このような経験は、自己理解・他者理解を深めると同時に、社会参加への基礎的態度を養う重要な機会となる。

指導方法としては、生徒が主体的に計画・実施・振り返りに関わる協働的な学習形態が基本とされている。教師が一方向的に指示・管理するのではなく、生徒自身が課題を見だし、話し合いを通して合意形成を図りながら活動を進めることが重視される。その中で教師は、必要に応じて助言や調整を行う支援者として関与し、生徒の自治的活動が円滑かつ教育的に機能するよう支える役割を担う。

評価については、成果の優劣を測定するものではなく、活動過程における生徒の態度や役割遂行の様子、集団への関わり方や貢献の在り方などを総合的に捉える形成的評価が中心となる。こうした評価は、生徒自身の成長を振り返り、次の活動へと生かすためのものであり、特別活動が生徒の社会性や道徳性の育成に果たす意義を内在的に支えるものと位置づけられる⁵。

(3) 総合的な学習の時間の教育目的・方法・評価

さらに「総合的な学習の時間」は、教科の枠を超えた横断的・総合的な探究活動を通して、

⁵文部科学省による「新学習指導要領に対応した学習評価（中学校 特別活動）」では、評価に向けての留意点として、「評価体制を確立し、学校全体で共通理解を図る」「生徒のよさや可能性を多面的・総合的に評価する」「活動の結果だけでなく、活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認める」「評価を通じて、教師が自己の指導の内容や方法、指導過程等を振り返り、より効果的な指導が行えるように工夫改善を図る」を示している。

生徒が自ら課題を見だし、解決へ向けて主体的に取り組む力や、自己の生き方を探究しようとする態度を育成することを目的とする教育領域である。知識の習得そのものよりも、学習過程を通して思考力・判断力・表現力を総合的に発揮し、社会と自己との関わりを深く考えることが重視されている。

学習内容は、地域社会の課題、福祉や環境問題、国際理解、キャリア形成など多岐にわたり、学校や地域の実態、生徒の発達段階に応じて柔軟に設定される。その際、生徒一人一人の興味・関心や問題意識を出発点とした課題設定が重要視され、教師が一方的にテーマを与えるのではなく、生徒が問いを立てる過程そのものが学習の中核を成す。

方法面においては、文献調査やインタビュー、フィールドワークなどの調査活動、実際の体験活動、成果を共有する発表や討議を組み合わせた探究学習が中心となる。こうした学習を通して、生徒は多様な価値観や考え方に触れながら、自らの考えを相対化し、学びを自己の価値観形成や将来の生き方へと結びつけていくことが求められる。

評価については、学習成果を一律に測定するのではなく、探究の過程を重視する観点から、活動記録などを活用し、思考の深まりや課題への向き合い方、自己の成長の様子を継続的に捉える形式が一般的である⁶。このような評価は、生徒が自らの学びを省察し、次の探究へとつなげるための重要な手がかりとして機能している。

以上の検討をふまえて、三者の目的・方法・評価を比較すると、いずれも自律的で他者と協働する生徒の育成を共通の目標としている。道徳科が価値の理解と内面化を担い、特別活動が集団生活における実践を、総合的な学習の時間が社会的文脈での探究を担うという関係性は、道徳性形成を「認知—行動—省察」の循環として捉える上で有効である。道徳科で考えた価値を特別活動で実践し、総合的な学習で社会的課題として探究することで、生徒は価値を行動原理として身に付けていく。

一方で、三領域が独立的に運営されていることや、教員間の共通理解・協働体制の不足、学習活動が道徳的省察につながりにくい点などが課題として挙げられる。これらを克服するためには、教育課程マネジメントの視点から、学校全体で体系的な道徳教育の指導計画を構築することが重要である。

3 今後取り組むべき教育課題

(1) 教科内外の連携を意図したカリキュラム・マネジメントの構築

第一に求められるのは、道徳科・特別活動・総合的な学習の時間を相互に関連づけた、体系的かつ計画的なカリキュラムの設計である。現状の学校教育においては、各領域がそれぞれの目的や年間計画に基づいて独立的に運営される傾向が強く、道徳教育の観点から見た場合、学習内容や体験活動が断片化し、相互補完性が十分に確保されていない状況が見受けられる。その結果、生徒にとって価値の学びが一過性のものにとどまり、持続的な道徳的成

⁶ 総合的な学習の時間における活動記録とは、ポートフォリオ、振り返りシートなどがある。また、評価には、自己評価も含まれる。

長へと結びつきにくいという課題が生じている。

このような課題を克服するためには、学校全体として道徳教育の方向性を明確にし、教育課程全体を俯瞰した年間指導計画を策定することが不可欠である。具体的には、各学年・各時期において「どのような道徳的価値を重点的に扱うのか」「それをどの教育活動で、どのような形で体験的に学ばせるのか」を整理し、価値の学びに連続性と発展性をもたせる必要がある。

道徳科における思考・対話を基盤としつつ、特別活動や総合的な学習の時間での実践的体験を関連づけることで、価値の理解と行動化を往還させるカリキュラム・マネジメントが求められるのである。

(2) 教師の専門性と協働体制の強化

第二に重要となるのは、道徳教育を全教員の協働によって支える校内体制の構築である。道徳教育は、道徳科担当者のみが担うものではなく、学級担任や教科担当、さらには管理職を含めた全教職員が共通の認識のもとで取り組むべき全校的課題である。そのため、個々の教師の力量に委ねるのではなく、組織として道徳教育を推進する体制づくりが不可欠となる。

特に、道徳科の授業においては、価値観を一方向的に伝達する指導ではなく、生徒の思考を引き出し、多様な意見を尊重しながら対話を深める指導力が求められる。また、特別活動や総合的な学習の時間での体験を道徳的学びとして位置づけるためには、教師間で価値教育の理念や指導の視点を共有することが重要である。そのため、校内研修や授業研究を通じて対話的指導法や評価の在り方について学び合い、教科内外を横断した協働的な授業づくりを進める仕組みを整備する必要がある。

(3) 社会的実践を重視した体験的道徳教育の推進

第三に、道徳教育を学校内にとどめることなく、地域社会との連携の中で展開し、学びを実生活へと結びつけていく視点が重要である。道徳的価値は、知識として理解するだけでは十分とはいえ、実際の行動や経験を通してこそ内面化されるものである。そのため、地域ボランティア活動、福祉・環境に関する実践、職場体験学習などを通して、生徒が社会の一員として役割を果たす経験を積む機会を充実させることが求められる。

さらに重要なのは、これらの学校外での体験を単なる経験で終わらせるのではなく、学校に持ち帰り、道徳科の授業や学級活動等において振り返りを行うことである。体験を言語化し、他者との対話を通して意味づけを行う過程を経ることで、生徒は自己の行動を省察し、よりよい生き方について考える力を深めていく。このように、体験と省察を循環させる学習サイクルを確立することが、実践的で持続可能な道徳教育の推進につながるといえる。

表1 道徳教育の今後の課題と方向性

項 目	内 容	教 育 的 意 義
(1) 教科内外の連携を意図したカリキュラム・マネジメントの構築	道徳科・特別活動・総合的な学習の時間を体系的に関連づけ、学校全体で価値の連続性を明確にした年間指導計画を作成する。どの価値をどの場面で学ばせるかを意図的に設計する必要がある。	教科横断的な価値教育を実現し、生徒の道徳的成長を一貫して支援する。
(2) 教師の専門性と協働体制の強化	道徳教育を全教員の協働によって推進する体制を構築する。教師間で対話的指導法や価値教育の理念を共有し、特別活動や総合的な学習と連動させた授業づくりを行う。	教師の力量形成と連携を通して、学校全体での道徳教育の質を高める。
(3) 社会的実践を重視した体験的道徳教育の推進	地域との連携を通じて、ボランティア・福祉・環境・職場体験などの実践的活動を拡充する。体験を授業で振り返り、道徳的省察を深める学習サイクルを確立する。	実社会での経験を通じて価値を行動化し、持続的な道徳的成長を促す。

おわりに

以上本稿では、中学校教育課程全体における道徳教育の位置づけを明らかにするとともに、「特別活動」および「総合的な学習の時間」との関係性に着目し、その教育的意義と今後の課題について検討してきた。考察の結果、道徳教育は「特別の教科 道徳」を中核としつつも、教科として独立して完結するものではなく、教科外教育と有機的に連携することで、初めて生徒の人格形成や生き方の育成という本来の目的を十分に果たし得ることが確認された。

道徳科は価値の理解や内面化を担い、特別活動は集団生活の中での実践的な行動を促し、総合的な学習の時間は社会的文脈における探究と省察の機会を提供する。それぞれの特質を生かした連携は、道徳性の形成を「考える—行動する—振り返る」という循環的な学習プロセスとして捉える上で有効であり、生徒が価値を自らの行動原理として身に付けていくための基盤となる。

一方で、現状の学校現場では、三領域が個別に運営され、価値の連続性や学びの接続が十分に意識されていない場合も少なくない。また、道徳教育を全教員で担うという理念に対し、共通理解や協働体制が不十分であることも課題として挙げられる。

今後は、教育課程マネジメントの視点から、学校全体で道徳教育の方向性を共有し、体系的な指導計画を構築することが求められる。加えて、地域社会と連携した体験的学習を道徳

的省察へと結びつける実践を充実させる必要がある。

今後の研究課題としては、こうした連携的道德教育の取組が生徒の内面的成長や行動の変容にどのような影響を及ぼすのかを、実証的に検証していくことが挙げられる。

定時制工業高校における教育実践とその課題

—教職課程「工業教育の理論と方法」の充実を目指して—

竹谷 尚人

1 はじめに

筆者は本学の非常勤講師であり、教職課程「工業教育の理論と方法」を担当している。また、現職の工業高校の教員でもあり、他大学でも工業科教育法や職業指導を担当している。このような立場で日々業務にあたっているが、常に考えていることは、工業高校の現場における教育実践、特に職業指導やキャリア教育の実態を整理し、現場の課題解決に向けて検討を進めていくことと、そしてその内容をどのようにして大学の教職課程で取り扱い、大学の授業の充実を図っていくかについてである。

定時制工業高校の実態については昨年度、「東京都立工業高等学校定時制課程の教育実践」¹を執筆した。これは勤務校が閉課程になることが決定したことを受け、定時制工業高校における教育実践の価値を再確認するため、勤務校の教育実践を整理して報告した。ただ前回の執筆から約1年が経過し、加筆したい事項も浮かんできている。

本稿において扱いたい事項は2つある。1つは、昨年度に引き続き定時制工業高校の実態を示し、教育機関としての価値をしっかりと示すこと。もう1つは、定時制工業高校における課題を大学生と考え、工業高校の未来を展望し、大学の授業を充実させることで将来教職に就く学生が工業高校を少しでもリアルに捉えられるようにすることである。工業高校の現場の実態を整理し、大学の授業に生かすことは実務家教員の責務であると筆者は考える。

以上のことから本稿では、昨年に引き続き、勤務校における教育実践、特に職業指導やキャリア教育の実態を述べる。また、大学の教職課程の授業においても勤務校の実態をいくつか取り上げたので、その様子もあわせて報告する。以上をあわせて、定時制工業高校における職業指導・キャリア教育の諸問題とその解決、および本学で担当する工業教育の理論と方法の授業の充実について論じたい。

2 勤務校の現状

2-1 概要

私が勤務している東京都立北豊島工科高等学校は、全日制課程は2024年に学科改編により新設された都市防災技術科の1学年4学級、定時制は機械科1学級である。全日制課程は本年度まで移行期であり、3年生だけが総合技術科である。定時制は今年度の1年生を最後に募集が停止された。

¹ 竹谷尚人「東京都立工業高等学校定時制課程の教育実践」工学院大学教職課程学芸員課程 年報 第27号 (2024) pp.39-46

私は定時制課程に所属しているので、定時制課程について述べると、全校生徒は20人（内訳は1年生6人、2年生2人、3年生9人、4年生3人）と非常に少人数となっており、行事などでは若干さみしい感じを受けることもあるが、生徒にしっかり目が届くよい環境であると私は思っている。

生徒の現状としては、不登校を経験している生徒が多く、中学校までは学校に定着することが厳しかった生徒も少なくない。他には外国籍生徒や全日制課程から転入してきた生徒も複数おり、さまざまなニーズを持った生徒の学び直し場となっている。

入学者選抜の倍率は、全日制課程、定時制課程ともに1倍を切っており、事実上の全員入学の状態である。20年ほど前、私が初めて定時制課程に着任したときは、全日制課程の倍率はそれほど高くはないものの、1倍は切っていなかった。よって当時の定時制課程は、全日制課程の入試で不合格だった受検生のセーフティネットとしての側面を有していた。当時は仕方なく定時制に通っている生徒も一定いて、全日制課程に行くことをあきらめきれない生徒が、1年次の2学期の補欠募集に応募するということがあった。

しかし現在、全日制課程が定員割れをしている状況下では、こういったことはほとんどない。現在、定時制課程に通っている生徒は、定時制を希望し入学している。定時制課程への不本意入学はほとんどないのが現状である。私の勤務校の生徒も、はじめから定時制課程を志望してきた生徒ばかりである。彼らは、どうして定時制課程を志望したのか、また定時制課程でどのように過ごしているのかについて、次に述べたい。

2-2 不登校を克服する生徒

前にも述べたように定時制課程に進む生徒は、小学校・中学校で不登校であった生徒が少なくない。私の勤務校の生徒も、小学校・中学校の不登校経験者がいる。私の経験で恐縮であるが、以前は小学校・中学校の不登校経験者は高等学校定時制に入学しても、登校する習慣が身につかず、残念ながら退学してしまうという生徒もいた。しかし、ここ10年くらいは小学校・中学校での不登校経験があったとしても、定時制高校に入学後は、ほとんど休まず登校する生徒が多くなってきた。皆勤賞を取る生徒も珍しくない。

彼らに話を聞いてみると、小学校・中学校で不登校になってしまった原因は、大人数になじめなかった、一定期間登校しなかったら学校に行きづらくなってしまった（行かないことが通常になってしまった）などであった。彼らの多くは環境を変え、新たなきっかけをつかむことで、登校する習慣を取り戻すことができるのである。

定時制課程は、標準的には1日4時間の授業である。また、少人数で指導にあたることができるため、手厚い指導が可能である。彼らはこういった環境が整っているということは、入学前からおおよそ理解しており、定時制課程の少人数指導に居場所を求めて入学している。過

去の経験にとらわれずに、改めて学校生活のスタートラインに立てる場として、定時制課程は重要な役割を果たしている。このような環境をしっかりと守っていくことが重要である。

2-3 進路指導

ここでは勤務校の進路指導について述べる。専門高校（職業高校）の進路指導は最終学年の進学指導や就職指導だけを対象とするものではなく、入学から卒業までを通して一貫して行われる職業人教育を指すと理解している。ただ本稿においては、紙面の都合上、最終学年の進路指導についてのみ記述することをご容赦願いたい。

大変ありがたいことに、ここ数年は高卒求人が大変多くなっており、高校生にとってはかなり有利な状況である。東京都内の2027年3月卒業対象の「新規高卒求人」の倍率は、2025年9月末時点で14.86倍となっている。これは、就職を希望する高校生1人に対して、約15件の求人があるという非常に高い数値であり、まさに売り手市場である。このような状況であり、就職先の選択肢自体は多くある。しかし、実際に生徒が応募を決断するまでには、いくつかの困難がある。

守秘義務もあるので詳しくは述べられないが、2024年度、2025年度の事例としては、東京都の事業所では9月16日に採用選考が解禁されるが、それまでに応募する事業所が絞り切れない、また応募する事業所が決定したとしても、履歴書の準備や面接練習の遅れなどで活動が止まってしまう生徒が複数いた。結果として応募が10月以降になってしまい、最終的な進路決定が年末近くになってしまうということもあった。

求人倍率が今ほど高くない頃は、12月にもなると多くの事業所が募集を打ち切っており、応募が遅れることで、就職活動が厳しい状況に追い込まれることあった。しかし、ここ数年は、じっくりと就職活動を進めることができている。もちろん大手企業や人気企業はこういった情勢の中でも早々に募集活動を終了してしまう。しかし近年では、年を超えてもまだかなりの企業が募集を継続しており、活動のペースを個々の生徒に合わせることができる。これは定時制課程の生徒にとってはよい環境であるといえよう。

ここまで就職活動について述べてきたが、進学についても簡単に触れると、文部科学省「令和7年度学校基本統計（学校基本調査報告書）」によると、工業高校から大学への進学は18.2%、専修学校等への進学は16.6%となっており、これは普通科高校や他の専門高校と比べてかなり低い割合である。ここからは筆者の感覚にはなるが、定時制課程から大学や専修学校等へ進学する割合は、先ほど示した学校基本統計よりも低い印象である。ただ勤務校では、2024年度に大学進学1名、留学1名の実績があったので、ここに報告する。

大学へ進学した生徒は、総合型選抜（AO入試）で合格を勝ち取った。総合型選抜では、学力検査がない代わりに、志望理由書、活動報告書、個人面接、口頭試問、小論文などがあり、進学する意思を明確にする必要がある。勤務校では生徒が少なく、大学進学を希望してい

た生徒が1名だったので、じっくりと指導をすることができた。時間をかけて話をしていくことで、進学の意味が明確になり、総合型選抜への対策を十分に行うことができた結果、合格を勝ち取ることができたと考えている。学力試験を課される場面では、なかなか対応が難しいのが正直なところではあるが、大学入試の種類も多様化しており、しっかりと対策をすれば大学への進学も十分可能である。

留学をした生徒についてであるが、この生徒は外国籍の生徒であり、母国の大学へ進学をすることができた生徒である。自らのルーツを持つ国ではあるが、日本の大学から外国への大学進学は容易ではない。入学選抜への対策もさることながら、出願に必要な書類を整えるのも、日本の大学の何倍もの労力がかかる。勤務校でも、書類の作成には労力を要した。特に現地の言葉に対応した書類を作成することは大変苦労した。なんとか作成し、無事に出願書類を提出し合格をすることができたが、これに関しては学校単位での対応には限界がある。現在、東京都では多言語対応にかかるサポートを行っており、高等学校へ入学する際の手続書類などの多言語化や通訳サポートなどを行っている。以前に比べてかなりサポート体制は充実してきているが、今回のような対外的な書類の作成などにも対応するなど、外国籍生徒へのさらなる支援体制の拡充が望まれる。

2-4 外国籍生徒の支援

ここでは外国籍生徒の支援について述べる。筆者は以前より、外国籍生徒の支援に関しては、日本語指導および在留資格の更新や変更が重要であることを述べてきた。現在もその考えに変更はないが、近ごろその支援について、新たな動きが出てきたので報告したい。

私の勤務校では、今年度1名の外国籍生徒がいる。進路指導部主任をしているので彼の就職指導に担当として取り組んできた。会社見学から内定、そしてその後の在留資格の変更まで支援をしたのであるが、私を感じたことは企業側の外国籍生徒の雇用に関する意識の変化である。

以前は外国籍生徒の雇用に関して、そのノウハウを持っている企業はあまり多くなく、学校側から企業に外国籍生徒の雇用に関して相談をしても、スムーズに採用、雇用に至るケースが多くはなかった。誤解のないように断っておくと、企業が外国籍生徒を排除しているのではなく、日本語能力、具体的には職務に耐えうる日本語能力を身に付けているかと、在留資格の変更に関して、企業側が採用後にそれらを保証することが難しいことが原因である。

しかし近年は、外国籍生徒の雇用に関して積極的な企業が増えてきた。今年度勤務校の外国籍生徒が内定をいただいた企業では、外国籍生徒のための寮を完備し、そこでは週1回、専門の講師を招いて日本語の学習会を行っている。また、内定後の在留資格の変更に関しては、提携の行政書士事務所に依頼をしており、その費用もすべて会社側で負担している。さらに言

えば、何らかの事情で在留資格の変更が入社日に間に合わない場合でも、アルバイト雇用を約束するという厚遇ぶりである。

近年、高卒求人は売り手市場であり、高校卒業者にとっては有利な状況が続いている。賃金も上昇しているし、自動車運転免許や各種資格の取得に補助を出す企業も多くなっている。外国籍生徒に対しても支援をしていただける企業が出てきていることは喜ばしいことであり、外国籍生徒が多く所属する定時制高校から、現状を発信し、支援に結び付けていくことが大事であることを再認識した。

2-5 課題研究の指導

工業高校定時制は少人数指導ができることがメリットである。それは実習授業で大きな効果を発揮する。ここでは2025年度の課題研究について簡単に報告したい。

勤務校では2025年度から課題研究を6単位で実施している。3時間×週2回で実施しており、生徒3人に対して、各時間教員が1人ずつ担当している。延べ6人の教員が指導する相当手厚い環境にある。

3人の生徒がそれぞれのテーマを持ち、個人で取り組んでいた。ダーツが好きな生徒はダーツづくりに取り組み、またボードゲームが好きな生徒はボードゲームを作る、時代劇が好きな生徒は日本刀や十手を作るなど、各自が好きなことに取り組むことができた。人数が少ないことから、工作機械や実験装置を自由に使うこともでき、自分のペースでのびのびと課題研究に取り組んでいた。

以下に完成作品を示す。金属加工や木材加工、3D CADや3Dプリンタを用いるなど、これまで学習した技術・技能の集大成ともいえる作品であり、生徒なりに努力を積み重ねてきたことは評価したい。その一方で、機械科の課題研究であることから、機構や機械要素といった機械を構成する重要な要素が含まれなかったことに関しては検討する余地を残している。

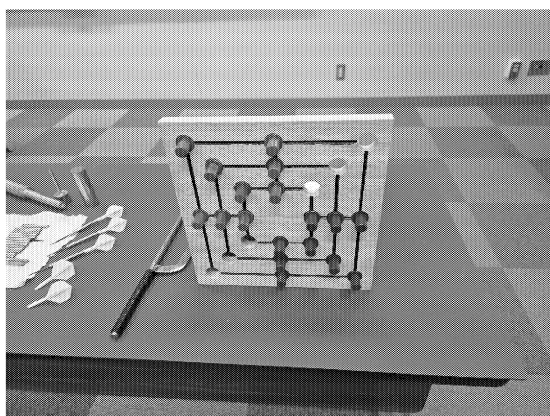


図1 課題研究作品（ボードゲーム）

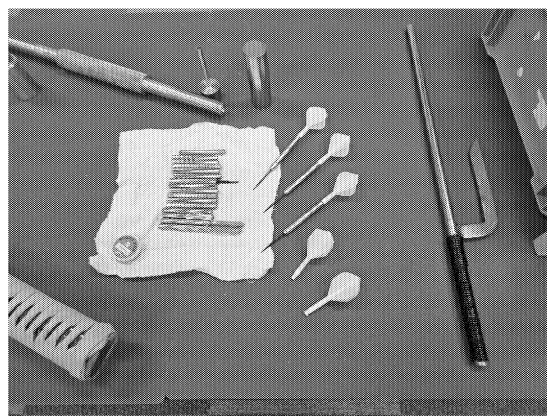


図2 課題研究作品（ダーツと十手）

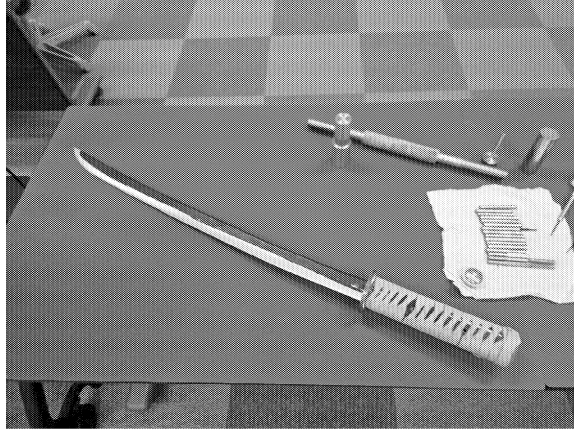


図3 課題研究作品（日本刀）

3 「工業教育の理論と方法」における実践

ここでは、上記のような勤務校の実態を、「工業教育の理論と方法」でどのように紹介し、学生と検討したかについて述べる。

筆者は機会に恵まれて、工業教育の理論と方法を担当して11年目になる。これまで多くの機会をいただけたことに感謝したい。以前は夏期集中の授業では、工業高校の現場で実習助手を勤めていて高校工業の免許取得のために受講する学生もいた。しかし、近年は通年の授業も夏期集中の授業も勤務しながら大学に通う学生はほとんどいない。現場の実態を授業に生かすことが、ますます重要になっている。

3-1 1人1社制の是非を考える

2025年度、工業教育の理論と方法を受講した学生は3名であったが、うち2名は普通科出身で1名は工業高校出身である。普通科出身の学生は、本人も含めてまわりのほとんどが大学進学を目指しており、高卒就職のルールについては、本授業を受講するまではほとんど知らないとのことであった。

そこでまずは、高卒就職の基本ルールともいえるべき1人1社制について説明し、先ほど記したような現場の実態を紹介し、1人1社制のメリットとデメリットについてともに検討した。また、脱1人1社制の動きについては、和歌山県の事例を取り上げた。²

学生の反応としては、1人1社制については必要がないのではという意見が多く挙げられた。その理由としては、求人倍率が上がっており、自由競争の度合いが増したとしても高校生

² 高校生の就活「なぜ1人1社」…全国で初めて見直した和歌山県の手ごたえ
(読売新聞オンライン) 2022.6.29 記事 <https://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/kyoiku/news/20220627-OYT1T50186/> (最終確認日 2026.2.16)

の就職については保証できるのではないかという意見や、18歳成人になったことにより、全日制課程の3年生は卒業までに成人を迎えること、また定時制課程の4年生はすでに成人になっていることから、成人として責任をもって就職活動をすればよく、1人1社制によって保護する必要は薄れているのではないかという意見も挙げた。

その一方で、和歌山県の事例から1人1社制を撤廃しても、ほとんどの高校卒業予定者が1社ずつ受験をしている実態があることと、複数社を同時に進行させることは高校生には難しいのではないかという意見も挙げられ、1人1社制が完全に撤廃されたとしても、必ずしも複数応募が進まないのではないかという意見も挙げた。

さらに授業では、高卒求人に関わる求人票についても扱ったが、求人票の見方が簡単ではないので、高校生が求人票を見ながら複数社同時に進行させるのはリスクがあるのではないかという声もあった。

1人1社制については都道府県によっても対応が異なり、1社に制限することが必ずしも問題であるということではない。まずは就職活動についてのルールを理解し、実際に高校生に進路指導をする場面を想定し、どのように指導を進めていくかを可能な限りリアルに捉えて、学生が将来教職の現場に立った時に指導できるかが重要であるとする。1人1社制の是非を結論付けるのではなく、学生自身の考えを指導場面で発揮できることが重要だと考える。

3-2 合理的配慮について考える

高等学校にはさまざまなニーズを持つ生徒が入学している。定時制課程においては、全日制課程の生徒数ではサポートがいきわたらないことを懸念して、定時制課程を選択する生徒もあり、合理的配慮への要望が寄せられることは少なくない。

守秘義務の関係もあるので、ここで詳しく述べることは避けるが、前任校や勤務校において、身体の障害や病気などの理由で合理的配慮を求める生徒に対して、どのような合理的配慮が可能なのか、また合理的配慮が難しい場面についても検討した。

身体障害によって、ものづくりに従事することが難しい事例についても紹介をしたが、工業高校に入学をしながらも、実際にもものづくりを行うことができないということは大変難しい問題である。ものづくりの楽しさ・充実感は実際に手や身体を動かして達成されるということが当然のように考えてしまう。では、実際に自分自身が身体を動かすことができない、事情により大型の機械を操作することができない生徒は、そうした達成感を享受し得ないかといえれば、決してそんなことはないだろう。

この問題は、ものづくり教育の根本が問われているともいえる。工業高校において、ものづくりとは何か。普通科高校では学ぶことが難しい、経験することが難しいことが工業高校では経験することができることの意義を学生にも考えてほしいと、いくつかの事例を紹介している。

前任校の事例として、事情によりうまく手足を動かせなかった生徒が、被服の専門学校に進学した生徒がいたことを学生に紹介した。その生徒は高校在学中は、自らの手でものづくりを行うことはほぼできなかったが、自らの夢であった洋服のデザインを行うという夢を捨てきれず、苦勞の末に進学した。前任校で十分な合理的配慮を行うことができたかという点では、まだ改善・検討の余地はあると思われるが、夢をあきらめさせなかったという教育的な指導という点は成果があったともいえる。学生もそのことは理解してくれた様子であった。

4 おわりに

以上、これまで募集停止という岐路に立つ勤務校の実態を報告するとともに、そこでの教育実践を大学教育へ接続する試みを報告した。

工業教育の現場は、不登校経験を持つ生徒の学び直しや、外国籍生徒への支援、合理的配慮への対応など、現代の教育課題が凝縮された場である。これらの「生の課題」を大学の教室に持ち込み、学生とともに検討することは、将来の教員が現場をリアルに捉えるために不可欠であろう。

1人1社制の是非や合理的配慮のあり方に正解はないが、生徒一人ひとりの夢や適性に寄り添い、ものづくりを通じた自己実現を支援するという工業教育の本質は変わらない。たとえ身体的な制約があっても、あるいは社会的な壁があっても、技術や技能を学ぶことで自らの道を切り拓く力を育むことこそが、工業高校で学ぶことの価値である。

今後、勤務校の閉課程という現実に向き合いながらも、そこで培われた教育実践の知見を本学の授業に生かし、次世代の教員となる学生へと継承していきたい。それが、現場と本学の両方に身を置く筆者に課せられた責務であると考えている。

1. 問題と目的

工学院大学の教職課程では、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」と「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を一体的に学ぶ科目として、「教育原論」が開設されている。教職課程コアカリキュラムでは、それぞれの事項の全体目標が定められている。「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」では「教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する」こと、「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」では「現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項のいずれかについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける」こととされている。教職課程コアカリキュラムにおけるこれらの記述では、教育やそれを支える枠組みに関する知識を学生に身に付けさせることが重視されているように見受けられる。

知識を身に付けさせることのみが強調される場合、学生たちは「教育原論」を学ぶ意義を見失いかねない。菅原（2016）は、「教育原理」などの教職科目が教員採用試験に合格させるための知識伝達の場になりかねないことを危惧している。この点に関わって、「教育原論」の受講を通して、学生が教師としての教育観を自ら育むことの重要性が指摘されている（内山 2022; 相馬ほか 2018）。

こうした議論を受けて、「教育原論」の取り組みの中には、学生の教育観の形成や変容をねらう事例が報告されている。安部（2017）は、もともと学生がもっている教師像を描かせた上で、教育思想や教育制度について授業を展開し、最終回の授業では学生が各回の授業で学んできた教育思想家の中から一人取り上げて「子どもを育てること」について論じる課題を提示することで、学生の教育観の変容を試みている。胡田（2021）は、一枚ポートフォリオの方法を用いて各回の授業を学生たちに振り返らせたり、学生一人ひとりが一番関心のある教育思想家に関するレポートを作成させたりすることを通して、学生たちが教育の現代的課題について自分なりに考えるための視座が得られるようになったと報告している。谷口（2020）も、一枚ポートフォリオを活用しつつ、学修前後で教育観がどのように変容したのかを学生に自己評価させている。いずれの取り組みも、教育思想史や教育制度に関する知識の伝達にとどまらず、教育のあり方を探究する主体の育成を目指している。

近年、国際的にも、教師が自身の教育観を築き、変容させていくことが重視されている。「OECD ティーチング・コンパス（OECD Teaching Compass: 以下、ティーチング・コンパス）」では、教師の「自己概念（self-concept）」が議論されている（OECD 2025）。しかし、この文書が発表されたばかりということもあって、教師としての自己概念を育むための「教育原論」のあり方を検討している論考は見当たらない。そこで本稿は、ティーチング・コンパスにおける自己概念を整理した上で、その育成を目指す「教育原論」の可能性を模索する。

2. ティーチング・コンパスにおける「自己概念」

ティーチング・コンパスは、2025年5月に公表された。ティーチング・コンパスが作成された背景には、2019年5月に発表された「OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030（OECD Learning Compass 2030: 以下、ラーニング・コンパス）」がある。ラーニング・コンパスは、2030年以降に望まれる社会、すなわち個人と集団のウェルビーイングを実現するための教育目標を支える方向性であり、生徒が活躍するために必要なコンピテンシーに関する学習の枠組みである（OECD 2019）。ラーニング・コンパスでは、変化を起こすために自ら考え行動する能力である「エージェンシー（agency）」、2030年に必要とされる知識やスキル、態度および価値観といった「学びの中核的基盤（core foundations）」、複雑で不確実な時代においてもより良い未来を創造できる「変革をもたらすコンピテンシー（transformative competencies）」が中心概念として位置づけられた。ティーチング・コンパスでは、ラーニング・コンパスが提示する生徒の新たな学びを実現するために、教師もまた変革をもたらす主体として位置づけられている（OECD 2025）。

ティーチング・コンパスでは、社会情勢の急速な変化やAIの台頭が教育現場に混乱をもたらしているが、それらは同時に教職のアイデンティティを動的なものとして捉え直す絶好の機会であるとも捉えられている。複雑で不確実な時代において教師が自ら判断し行動するために、激しい変化の荒波に翻弄されるのではなく、向かうべき方向へ「内なる錨」としての「自己概念」を据えることが求められている。本節では、ティーチング・コンパス（Figure 1）における「自己概念」の議論を概観する。

教師の自己概念は、「Being」「Belonging」「Becoming」で構成される。「Being」は、「教師としてどうあるか」ということであり、「教師が時間をかけて育む、深く確かな自己意識」（OECD 2025 p.18）と定義されている。教師には、外部からのプレッシャーに過度に左右されず、ありのままの自分を受け入れつつ、教師としての価値観や目的、意義といったアイデンティティを形成することが期待されている。専門的なアイデンティティは静態的ではなく動態的であり、様々な経験や交流、自己省察を通して、緩やかに生まれ、変容していく。アイデンティティが確立されることで、教師は明確な目的意識をもって教育実践に臨むことができる。さらに、教師としての専門性と価値が社会によっても自らによっても認められ、自身の価値観や専門職としての倫理観に基づいて判断・行動できるとき、複雑な社会の中でも教師のアイデンティティは強化される。

「Belonging」は、「誰とどうつながっているか」ということであり、「学校コミュニティに不可欠で価値ある一員であると感じ、尊重され、支えられ、自らの力を発揮し、コミュニティに意義ある貢献ができると感じられる状態」（OECD 2025 p.18）と定義されている。教師の専門的アイデンティティの内なる強さは、深い帰属意識と織り合わされる時に最大限に発揮される。教師は孤立した存在ではなく、学校内外の相互関係の中で力を発揮し、成長できる。他者との関係の中で、教師は心理的な安全性を感じ、お互いに思いやりエンパワーできたりする。また、学校のビジョン形成に教師が参画することで当事者意識が生まれる。家庭や地域社会と繋がりをもつことも、学校コミュニティとしての信頼関係を強固にする。

「Becoming」は、「どうなっていくか」ということであり、「専門職としてのアイデンティティが常に動的に変容し続ける状態。生涯学習と省察的实践を受け入れ、絶えず進化し、新たな課題に応え、芽生えつつある機会をつかみ取っていく」（p.18）と定義されている。

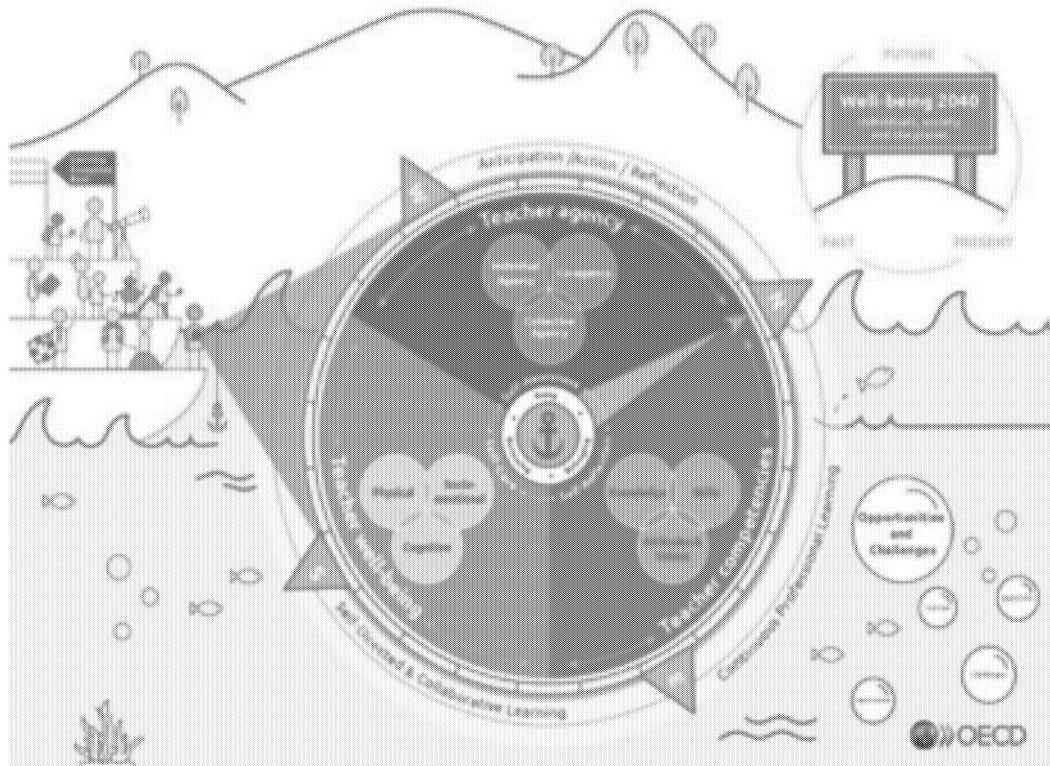


Figure 1 ティーチング・コンパス (OECD 2025)

継続的な専門学習は、授業実践の改善だけではなく、自身の尊厳や倫理観が絶えず更新される、進化する存在としてのアイデンティティを再認識させる。こうした教師の成長は、教師が自身の学びを方向づけたり、協働的に学んだりすることで実現できる。

「Being」「Belonging」「Becoming」の錨を強化し、ティーチング・コンパスを機能させるために、自己認識 (self-awareness) ・省察的実践 (reflective practice) ・意図的なセルフケア (intentional selfcare) をシームレスに統合することも求められている。教師は、自身の認知的・情動的な特徴や専門家としての強みを自覚することで、それらが教育実践にどのように影響しているのかを認識することができる。自己認識を基盤として、実践における判断や生徒の状況、自身の前提を意図的かつ継続的に省察することで、教師は自身の実践を振り返るループを形成する。また、教職を持続可能にするために、健全な境界線の設定や心身回復の機会、支援の要請といったセルフケアが重視されている。

ティーチング・コンパスでは自己概念が中心に据えられており、それが確かなものとして形成されることで、教師はエージェンシーやコンピテンシー、ウェルビーイングを育むことが期待されている。教師エージェンシーは「目的を持った行動や意思決定が、個人としても集団としても、専門性に基づく実践や生徒の学習経験、さらにはより広い教育環境に良い影響を与えられるという教師自身の信念」(OECD 2025 p.31) のことであり、これが発揮されることで教師は変革の主体となることができる。教師のコンピテンシーは、知識・スキル・態度および価値観から構成されている。教師のウェルビーイングは、認知的、社会情動的、身体的・物理的に満たされた状態を指す。

3. 教師としての「自己概念」を育成する「教育原論」構想

ティーチング・コンパスの議論を踏まえて、教師としての自己概念を育成することを目指す授業内容案を Table 1 に示す。

前半の 15 回では、教育の諸概念や歴史、思想の視点から、教育のあり方について探究する。苫野 (2022) は、「良い教育とは何か」を問い続けることの重要性を指摘している。学生が自分なりにこの問いに向き合うことは、彼らが潜在的にもっている価値観を顕在化させる機会であり、かつ教師としてのアイデンティティが緩やかに変容していくための出発点でもある。そこで、まず第 1 回の授業において、「自分自身にとって教育とは何か」に関するマインドマップを一人ひとり作成させることで (庄井 2015)、学生の自己認識を促す。第 2 回から第 14 回では、教育の基本概念や歴史、思想を扱い、これらの視点から学生が自己認識を問い直していく。第 15 回では、それまでの授業内容を踏まえて、「良い教育とは何か」に関するマインドマップを学生一人ひとりが作成する。

後半の 15 回では、前半で探究した「良い教育」を実現するための行政や制度、政策について考えを深めていく。まず、第 16 回の授業において、「良い教育」を実現するための手立てや仕組みについて、第 15 回に作成したマインドマップに追記させる。この課題によって、望ましい教育は教育行政・制度・政策によって実現されること、教育行政・制度・政策のあり方は真空状態ではなく教育的価値によって判断されることを気づかせる。その後、第 17 回から第 29 回では、日本や世界の教育行政・制度・政策について学んでいく。教育行政・制度・政策は教師のエージェンシーやウェルビーイングに影響するため、教育行政・制度・政策の現状と課題に関する知識は教師のコンピテンシーを構成している (OECD 2025)。各授業回において、日本や世界の教育行政・制度・政策がどのようになっているのか、それらがどのような価値判断に基づいており、どのような課題を抱えているのか、より望ましいあり方は何かを考えていく。また、教師が多様な専門家や関係機関と協力することの重要性に触れることで「Belonging」の強化を図ったり、教員の働き方改革や私費負担問題を扱うことでセルフケアの重要性に気づかせたりする。最終回では、より良い教育とそれを実現するための教育行政・教育制度・教育政策について、学生自身が自身の考えをまとめる。

以上の内容を通して教師としての自己概念を育成するために、各授業回でテーマに関わる問いを提示して議論させる。例えば、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関わっては、第 2 回の授業で「何のために教育があるのか」といった問いを提示することで、教育の目的や機能は個人の成長や自己実現だけではなく社会の維持や発展にもあること、両者の価値が衝突しうることに気づかせた上で、教育が何を指すべきなのかについて学生自身が自分なりに考えられるように促す。また、「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関わって、第 26 回を例に挙げると、「自分や仲間がより良い教師として成長できるためにどのような仕組みがあれば良いか」といった問いを示すことで、教師の多様な成長をイメージさせつつ、政策の受け手ではなく形成者として当事者意識をもたせることができる。さらに、学生間の議論や学生の考えの提示を通して、教師としての多様な価値観に気づかせ、相互の関わりの中でアイデンティティの緩やかな変容をねらうことができる。そして、マインドマップと各授業回の振り返りをポートフォリオとして蓄積していくことで、この授業を通してどのように自己概念が形成され (「Being」)、変容していったのか/変容しようとしているのか (「Becoming」) を、学生一人ひとりが自覚できる。

Table 1 「教育原論」の授業内容

<p>【教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前半イントロダクションー「教育」のマインドマップ作成、教育とは何か 2. 教育の機能ー何のための教育か 3. 子どもという存在・人間という存在ー子ども観の変遷、人間の育ち 4. 西洋における近代以前の教育思想ーソクラテスからペスタロッチまで 5. 西洋における近代公教育制度の成立と発展ーフランス、イギリス、ドイツ 6. 日本における近代以前の教育ー江戸時代を中心に 7. 日本における近代公教育制度の成立と発展ー学制から戦時体制まで 8. 子どものための学校への動きー進歩主義教育、大正自由教育を中心に 9. 戦後教育改革と教育を受ける権利ー公正や社会正義を実現するために 10. 学校で学ぶ内容①ー社会情勢と学習指導要領の変遷 11. 学校で学ぶ内容②ー潜在的カリキュラムとは何か 12. 子どもとの関わりーより良い生徒指導・集団づくりとは 13. 教師という仕事ー教師の学びと成長に着目して 14. 生涯学習・社会教育ー大人の学習はなぜ重要か 15. 前半の振り返りー「より良い教育とは何か」のマインドマップ作成 <p>【教育に関する社会的、制度的又は経営的事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. 後半イントロダクションー「より良い教育を実現する手立てや仕組み」をマインドマップに追記 17. 日本国憲法と教育の法体系 18. 中央教育行政ー国レベルの教育政策形成 19. 地方教育行政ー教育行政の独立性・中立性・専門性 20. 公立学校教員の人事と給与ー教員の働き方改革をめぐる 21. 教育財政ー家庭と教員の私費負担問題 22. 教育課程行政ー誰がどのように教育内容を決めるべきか 23. 学校の組織と文化ー教員間の協働を促す学校組織 24. 学校におけるリーダーシップー何のためのリーダーシップか 25. 学校改善と学校評価ー学校は何を目指すべきか 26. 教員の養成・研修と評価ー教師の力量形成をどのように支えるべきか 27. 学校のガバナンス改革ーNPM型ガバナンスかソーシャルガバナンスか 28. 学校安全ー大阪教育大学附属池田小学校事件と大川小学校の悲劇に学ぶ 29. 多様な学習保障ーフリースクール、夜間中学、ホームスクーリング 30. 授業内試験と全体の振り返り
--

4. まとめと今後の展望

本稿では、教師としての自己概念を育成するための「教育原論」を構想した。本稿で構想した「教育原論」が自己概念の形成や変容にどのように寄与できるのかについては、学生のポートフォリオの記述を分析することで検証する必要がある。

また、教師としての自己概念は「教育原論」のみによって形成・変容されるわけではない

ため、教職課程全体で捉えることも重要である。現在、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会の教職課程・免許・大学院課程ワーキンググループにおいて教職課程の見直しが議論されており、教師のレジリエンスや教育における多様性の包摂などの科目の新設が検討されている（中央教育審議会 2025）。複雑で不確実な未来においても活躍できる教師を育成するために、国内外の動向を注視しつつ、他の教職科目との連携も図っていきたい。

5. 参考文献

- 安部孝（2017）「学生の『教育観』の形成についての考察 1 『教育原論（授業）』の検討」『名古屋芸術大学研究紀要』38、pp.1-14。
- 内山宗昭（2022）「『教育原論』の教師教育からの諸考察—教育制度と思想を学ぶこと再考—」『工学院大学教職課程学芸員課程年報』24(1)、pp.29-36。
- 胡田裕教（2021）「『教育原論』における学生の教育観の形成に関する考察—教員養成課程の授業を通して—」『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』41、pp.69-82。
- 庄井良信（2015）「1 よい教育ってどんな教育？」勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』有斐閣、pp.2-14。
- 菅原健太（2016）「教職課程『教育原理』におけるアクティブラーニングの意義と課題」『豊岡短期大学論集』13、pp.109-118。
- 相馬伸一・室井麗子・椋木香子・小山裕樹・生澤繁樹（2018）「教員採用試験における教職教養分野の特質と課題—教育思想史分野を中心に—」『広島修大論集』58(2)、pp.154-155。
- 谷口雄一（2020）「教育思想史による教職課程履修学生の教育観の形成の在り方—OPP シートを活用した自己評価と教育観の形成—」『摂南大学教育学研究』16、pp.1-10。
- 中央教育審議会（2025）「資料1 今後の教職課程や教員免許制度の在り方について（中間まとめ）たたき台」https://www.mext.go.jp/content/20251205-kyoikushokuin-000045913_1_1.pdf（最終閲覧日 2026 年 2 月 3 日）
- 苫野一徳（2022）『学問としての教育学』日本評論社。
- OECD（2019）OECD Future of Education and Skills 2030 Conceptual learning framework Concept note: OECD Learning Compass 2030. https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/projects/edu/education-2040/1-1-learning-compass/OECD_Learning_Compass_2030_Concept_Note_Series.pdf (Accessed 3rd February 2026), (『OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030』、OECD 著、秋田喜代美他 17 名訳、https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/projects/edu/education-2040/concept-notes/OECD_LEARNING_COMPASS_2030_Concept_note_Japanese.pdf)
- OECD（2025）OECD Teaching Compass: Reimagining Teachers as Agents of Curriculum Change. https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/publications/reports/2025/05/oecd-teaching-compass_5688638f/8297a24a-en.pdf (Accessed 3rd February 2026), (『OECD ティーチング・コンパス（教師の羅針盤）：日本語訳』、OECD 著、秋田喜代美他 8 名監訳、https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/projects/edu/education-2040/teaching-compass/Teaching%20Compass%20full%20document_Japanese%20translation%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%81%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%83%BB%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%B9%20REV.pdf)

「職業指導」においてとりあげるべき教育目標＝内容

尾高 進

1. はじめに

本学では、先進工学部機械理工学科、工学部の各学科（機械工学科、機械システム工学科、電気電子工学科）、建築学部の各学科（まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科）において高等学校教諭一種免許状（工業）の取得が可能になっている。また、大学院工学研究科においては、機械工学専攻、電気・電子工学専攻、建築学専攻の各専攻で高等学校教諭専修免許状（工業）の取得が可能になっている¹。

工業免許取得に際しては、教育職員免許法施行規則第五条表備考六号において「工業の普通免許状の授与を受ける場合は、当分の間、各教科の指導法に関する科目及び教諭の教育の基礎的理解に関する科目等（専修免許状に係る単位数については、免許法別表第一備考第七号の規定を適用した後の単位数）の全部又は一部の単位は、当該免許状に係る教科に関する専門的事項に関する科目について修得することができる。」と規定されており、法制度上、「工業の関係科目」と「職業指導」の履修だけで免許取得が可能になっていることはよく知られている。ただしこの場合も、「職業指導」は必修である。

すなわち、「職業指導」において、何をどのように扱うのかは、工業免許を取得させるための教育を充実させる上で重要な課題であり、検討する意義があるといえる。

加えて、「職業指導」には、それを履修する学生自身が、近い将来働いて生きていくにあたって、自らが働くものの立場に立ったときに、自らに降りかかるかもしれない難題にどう対処していくのか、という視点からの検討も必要であるように思われる。筆者は2015年度からこの科目を担当しているけれども、学生が教員になったとき、目の前の高校生に対して職業指導を十全に行うためには、まず自らが働くとはどういうことなのかや、働く際のルール等を知っているか、最低でもその存在を知っていることが必要なのではないかと考えるようになった。

そこで本稿では、「職業指導」においてとりあげるべき教育目標＝内容を検討することを目的とする。このうち、1)青年の進路と働き成長する姿をとらえる、2)職業指導についての理解（現代の労働について学ぶこと、以下5点）、3)国際的視野からみた職業指導の意義（国際人権規約、技術・職業教育に関する条約、ILOの「人間らしい労働」21世紀戦略）をとらえること、についてはすでに別稿で述べているので²、本稿では、働くこと自体に関する内容を中心に扱う。

なお、教育職員免許法施行規則によれば、「職業指導」は、高等学校教諭の普通免許状で

ある「農業」「工業」「商業」「水産」「商船」および「職業指導」の取得に必要な教科に関する科目となっている。したがって、本来なら、「職業指導」の内容も、これらの教科に即して考える必要があると思われる。しかし、これらの科目のうち、本学が認定を受けている教科は前述のように工業だけであるため、本稿では工業の内容を念頭に置きつつ行論する。

本節の最後に、本学における「職業指導」の実際について記しておく。本学では「職業指導」は4単位科目として開講している。開講様態は、通年期と夏期集中とがあり、筆者は2015年度から通年期科目を担当している。受講者数は数人から10人程度のことが多い。

シラバスでは、この科目の到達目標として、以下の項目を掲げている。

- ① 高校生の進路の実態とその背景を理解すること。
- ② 職場で働く青年の実態を理解すること。
- ③ 職業指導について理解すること。
- ④ 職業指導の意義（労働権の保障、職業教育との関連等）について理解すること。

2. 働くとは何か

2.1 労働するとはどういうことか

以下の内容を示し、学生に考えてもらう。実際は、太字の箇所を括弧にし、学生とやりとりしながら進めていく（次節も同様）。物質代謝など、本学のような理工系の学生の場合、ほとんど目に触れる機会がないような用語もあるけれども、用語を正確に理解したり覚えるよりも、その用語が意味していることを大まかにでもとらえられれば十分であることを伝え、先に進める。

2.1.1 前提

人間は他の動植物と同様に**自然**の一部である。すなわち、ほかのあらゆる有機体（生物）と同じように、絶えず**自然**とやりとりすることによってしか生きることができない。

この、人間と自然とのやりとりのことを人間と自然との**物質代謝**という。

2.1.2 労働とは

では、人間の労働が、他の生物が行っている自然とのやりとりと異なる点はどういう点だろうか？それは、労働とは、人間と自然との物質代謝の**意識的媒介**であるという点である。すなわち、他の生物が行う自然との物質代謝は本能的である（サルは環境問題を引き起こさない！）という点で人間のそれとは区別される。

2.1.3 労働が成立するために必要なものやこと

①労働力

②労働手段

③労働対象

a.からc.の契機（切っても切れない要素）は、相互に結びついて労働過程に入り込む。な

お、b.とc.とを合わせて、生産手段という。

この、労働過程の三つの契機は、どの時代でも共通（歴史貫通的）である。

2.1.4 労働がもたらすもの

①労働は人間を発達させる

例えば以下のような記述を示す。

「われわれの祖先たちは、サルからヒトへ移行する数千年間に、徐々に自分たちの手をさまざまな作業に適応させることを習得していった。そうした作業は、だから、はじめは非常に簡単なものでしかありえなかった。（中略）最初の燧石〔「フリント」とルビ：尾高〕がヒトの手で加工されて小刀になるまでには、われわれの知っている歴史的時間がそれにくらべればまるで無意味と見えるほどの巨大な時間があるいは経過していたのかもしれない。しかし、決定的に重要な一歩はもう踏みだされていた：手が自由になっていたのである。そして、手はいまやますます新しい器用さを獲得することができるようになった。そして、こうして獲得されたいっそう大きな柔軟性は、世代から世代へ遺伝的に受けつがれますますます大きなものになっていった。」³

労働には、特に近年、長時間・過密労働などのネガティブな側面もあるけれども、まずは労働のもつ意味をとらえさせたい。

②人間は労働を通じて生産関係を取り結ぶ

生産関係とは、人間の生産活動に伴って形成される人間同士の関係のこと。

今の日本の社会システムは**資本主義社会**。この社会の代表的な生産関係は？（資本家と労働者）⁴

③しかし、労働は苦役、という考え方があり、過労死や過労自殺はなくなる。なぜだ！

ここでは、問題提起にとどめる。後に、簡単ではあるが触れる。

2.2 商品：資本主義社会の富

2.2.1 富とは何か

具体的に考えさせる。難しいことは何もなく、身の回りにあるものはほとんど富であることに気づかせる。

2.2.2 商品とは

資本主義社会では、富はすべて**商品**の形を取る。商品の源泉は自然にあり、それに人間の労働が付け加わったものである。したがって、自然にあるものでも、空気のように、人間の労働を付け加えて売買することが現実的ではないものは、いくら人間の生存に必要なものであっても商品にはならない。

2.2.3 市場：商品を手に入れるところ

私たちは、**市場**において、**商品**を手に入れる。

2.2.4 交換：商品を手に入れる方法

市場において私たちは商品を手に入れる。この場合、例えば、

米1俵 = 1着の上着

という交換が成り立つとする。この交換が成り立つための条件はどんなことか考えさせる。この問いはかなり難しいので、こちらからかなり助け船を出す必要がある。しかし、答えそのものの考え方はそれほど難解であるとは思われない。ポイントは、商品同士の交換が行われるためには、商品同士に、異なる点と同じ点があることである。

条件①使用価値が異なっていること

使用価値とは、ものの用途・有用性のことであり、常に具体的である。

条件②価値（≒価格）が同じであること

価値は、そのもの（商品）を作るのに必要な社会的必要労働時間によって決まる。すなわち、そのものを作るのに必要な社会的平均時間のことで、一般的にあって、多くの労働が必要な商品はそれだけ高い価値をもつ。

まとめると、商品は使用価値と価値とからなるといえる。

そして、貨幣は、他のすべての商品の価値を表すという特殊な性格をもった商品である⁵。

2.3 富の発生から交換まで

2.3.1 人間がもった最初の富は何か

①最初の富：石と棍棒

おそらく、人間が手にした最初の富は、石と棍棒だったであろうという指摘がある。しかし、長い間、これらは使い終わると投げ捨てられたであろう。したがって、保存されない石や棍棒は、人間にとって富とはいえなかったと思われる。

「人間がとがった石やかたくて滑らかな棍棒をあとまで使いつづけるために保存しておこうと考えられるようになるまでには、数千年かかったのである。」⁶

生産手段（道具）が保存されるようになると、社会にとってまったく新しいもの—財産や富—が生じる。これらの道具は初め、15から20人くらいの集団所有（社会的所有）だったと考えられる。

そして、道具の所有がもたらすこととして、生産力の増大、数を数えるなどが考えられる。

合わせて、以下のような出来事も富の発生（と蓄積）に寄与をしていったと思われる。

- ②火の発見による性別分業の発生
- ③定住の開始
- ④菜園から畑へ
- ⑤ 野獣の飼養

2.3.2 生産力の増大がもたらすこと

- ①生産力の増大がもたらすこと

生産力の増大は**剰余生産物**を発生させる。**剰余生産物**は誰のものになるのか？

- ②**社会的分業**の発生

生産力の増大は専門化を促す。例えば、牧畜と農耕との分業が発生する。これを**社会的分業**という。**社会的分業**によって生産力はさらに増大した。

- ③人々は**交換**を行うようになる

2.4 富の源泉とそのゆくえ

2.4.1 富の源泉は労働である

道具や機械（人間が作り出したもの）は新たに富を生み出さない。鉄鉱石やダイヤモンドも、地中にある状態では価値をもたない。人間の**労働**が加わって（＝この場合、掘り出されて）初めて価値をもつ。

蒸気の圧力や電磁気の法則などの自然力は、それ自体は無償で作用する。

2.4.2 賃労働：実は人間の労働力は商品だった！

市場で交換される他の商品と同様に、資本主義社会では、人間の**労働力**も商品として売り買いされている（売り買いされる場所を労働市場という）。つまり、労働者は資本家に自らの**労働力**を売って生活しているということになる。

このような労働のあり方を賃労働という。すなわち賃労働とは、労働力商品の買い手（資本家）が、労働力商品の売り手（労働者）から買った労働力を消費することによって行われる労働のことで、現代の労働の大半は賃労働である。

労働力商品が他の商品と違うところを、ロボット掃除機を買う場合との比較において考えさせる。ロボット掃除機を購入する場合、買ったのはロボット掃除機の処分権である。労働者をモノとして買ったら、労働者はその買い手の奴隷になってしまう（労働力商品は労働者の人格と切り離せない）。したがって、労働力商品の販売は時間決めの販売。労働力の販売とは、働かせることができる力を時間決めて売ることである。

では、**労働力**商品の価格（価値）としての賃金はどう決まるのか。ここで、以前取り上げた、商品の価値（≒価格）はどうやって決まるのかを思い出させる。それは、その商品を作るのに必要な社会的必要労働時間によってであった。**労働力**商品の社会的必要労働時間（＝それを作るのに必要な労働の量）は、労働者が日々生活し、明日も元気に働くことができ、家族をもって子どもを作る（労働者を再生産する）ことができるだけの生活を営むことができる額である。

しかし、ということは、賃金は、厳密には、労働者の働きに応じた額ではない、ということだ。これが、労働力、ということの意味だ。

2.4.3 利潤（もうけ）の源泉としての剰余価値はどうやって生まれるか

資本主義社会で最も大切なこと（とされていること）はなにか。それはズバリ、利潤（もうけ）を上げることだ。それ以外にはない。では、利潤はどこから生まれるのか。安く買って高く売ればもうけが出るだろうか？しかし、みんながみんな、安く買って高く売ったら、「もうけ」は相殺されてしまう。安く買って高く売ること自体には、新たな価値は生まれない。

利潤を上げるには、新たに価値を生み出すしかない。そこで労働力商品が再び登場する。

①労働力の使用価値と価値

労働力の使用価値は、労働することができる（新たな価値を作り出す）ということである。では、労働力の価値はなにか。それは、労働力の再生産費用（労働者がその労働力を維持するのに必要な生活手段の価値の大きさ）であった。

②労働力商品の特殊な性格

労働力商品が他の商品と異なっているのは、それが自分の価値以上の価値を生産することができるという点にある。つまり、資本家は節約することによってではなく、むしろ、積極的に貨幣を流通に投げ入れる（労働力を購入して労働させる）ことによって、より多くの貨幣を手に入れる。

2.5 現在の社会において労働が苦しくなる理由

簡単にいってしまえば、賃労働者は自分の労働力を売り渡してしまっている（売り渡さざるを得ない）からであるといえる。すなわち、自分が行う労働であるにもかかわらず、それは資本のためであり、自己の目的にしたがって自分の労働として行うことができないからである。これを**疎外された労働**（苦しみとして現れる労働）という。

3. 雇用と賃金

3.1 働くルールの形成と発展

3.1.1 現在の社会の建前は「自由・平等」

現在の社会の前の社会は**封建主義社会**（鎌倉時代から江戸時代までの社会）である。この社会における主要な生産関係は領主－小作である。この関係は身分的な主従関係であり、対等ではない。

それに対して現在の社会は**資本主義**（別名：自由主義）社会である。資本主義社会は、1)民主主義が社会の基本原理に（個々人は自由・平等：個人の誕生）、2)「自由な契約」に基づく労働（身分から契約へ、「対等」な関係）が行われる、といった特徴をもつ。

しかし、「自由な契約」からは労働者の不自由が生じることも事実である。すなわち、現

実には、使用者と労働者とが対等な立場で契約を締結することはありえない。例えば以下のようなことがある。

- a)労働者は、自分の労働力を売らないという選択肢はない
- b)労働者は、形式的には就職先を選べるが、実際に相手を選べるのは、ほとんど使用者の側である
- c)口頭でも契約は有効だが、立証が難しい。労働条件があいまいなことで有利になるのはほとんど使用者側である
- d)何の規制もなく自由かつ対等に労使が契約した場合は、ほとんどの場合、使用者に有利な条件となる

つまり、現在の社会では「自由・平等」は形式的にしか保障されていない

3.1.2 労働法の形成

資本主義社会は、利潤を獲得することが最も求められるため、例えば労働者の健康や安全に配慮する人道的な経営者は往々にして利潤本位の市場で不利になり、逆に劣悪な労働条件で利潤を上げる経営者が競争に勝利することは珍しくない。

こうした「経済活動を自由放任にゆだね、できるだけ法的規制をしない」という契約の自由の原則を修正しようとしたのが工場法である。労働法もまた同様の考え方を取っている。

3.2 日本の労働者数

3.2.1 労働力人口と非労働力人口

人口は労働力人口と非労働力人口とに分けられる。労働力人口は、1)就業者（1週間のうちに、収入を伴う仕事に1時間以上従事した者）と2)完全失業者とからなる。

就業者には、自営業主（個人経営の事業を営んでいる者）、家族従業者（自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に従事している者）、雇用者（会社、団体、官公庁又は自営業主や個人の家庭に雇われて、給料、賃金を得ている者）がある。完全失業者とは、就業者以外で仕事がなく調査週間（12月を除き月末週）中に少しも仕事をしなかった者のうち、就業が可能でこれを希望し、かつ仕事を探していた者および仕事があればすぐ就ける状態で、過去に行なった求職活動の結果を待っている者をいう。

3.2.2 「労働力調査（基本集計）」平均結果より

2023年のデータ（15歳以上）によれば、労働力人口は6925万人であり、そのうち、就業者数は6747万人、役員を除く雇用者は5739万人である。すなわち、就業者の85%が労働者といえる。また非労働力人口は4084万人である。

3.3 いろいろな労働のあり方

3.3.1 伝統的な日本的経営

これまで、日本的経営の特質とされてきたことに、**終身雇用**と**年功賃金**がある。しかし

これは現在変化中であり、今後も大きく変わる可能性がある。

3.3.2 正規労働者と非正規労働者

雇用契約とは、労働者が使用者に使用されて労働し、使用者がこれに対して賃金を支払うことを内容とする労働者と使用者の間の契約をいう。労働基準法、労働組合法、労働保険（労災保険や雇用保険）、社会保険（健康保険や厚生年金保険）の適用を受ける。税法上も給与所得者として扱われる。

間接雇用には、以下のような形態がある。

①派遣労働

労働者は労働契約を結んでいる会社（派遣元）と、指揮命令を受けて実際に働く会社（派遣先）とが異なり、賃金は、派遣元事業主から労働者に支払われる。派遣労働は、雇用関係と指揮命令関係が分離している。派遣先と労働者の間には労働契約は存在しない。

派遣労働のことを英語では temporary work（臨時労働）、temporary agency work（agency；仲介企業）といい、臨時的、一時的な仕事であることが明白なのに対して、「派遣」にはそのようなニュアンスはない。

②請負労働

当事者の一方がある仕事を完成することを約束し、相手方がその仕事の結果に対して報酬を支払うことを約束するような契約に基づく労働のこと。請負契約では、労務の供給そのものが目的ではなく、仕事の完成が目的である点が最大の特徴である。

また、請負契約は仕事の完成が目的であって、労働契約の文言に出てくる労働者という定義自体がない。労務の提供・供給が目的ではないので賃金・給与という考え方もないことに注意すべきである。

③正規労働者の3条件

簡単に表現するなら、正規労働者である条件とは、**直接・常用・フルタイム**であるといえる。合わせて、無期転換ルールにも触れておきたい。

3.3.3 労働を提供するときの二つの立場：労働者性とは何か

労働を提供するにあたっては、二つの立場がある。その一つは従属労働（労働者としての労働）である。これは労働者が**使用者**の指揮命令を受けて、支配・従属の関係で働き、それに対して**使用者**が労働の対償として賃金を支払うというものである。契約の種類としては**労働契約・雇用契約**であり、労働者が契約する相手は**使用者（会社）**である。この立場によって労働を提供する場合は労働基準法や労働組合法などの労働法だけでなく、労働保険（労災保険や雇用保険）、社会保険（健康保険や厚生年金保険）の適用を受ける。

もう一つの立場は独立労働（個人事業主としての労働）である。これは働く側が専門性や生産手段を用意するため、労働者は形式的には働かせる側より強い対等である。契約の種類としては**請負契約・業務委託**がある。契約労働提供者を特別に保護する法律はない。

該当する労働としては、例えば 1) 建築請負、運送請負等の、指揮命令を受けない労働、2) 弁護士業務に見られる委任・準委任等がある。

この二つの立場に関わって、労働者性が問われるケースについても触れておきたい。例えば偽装請負の問題である。企業によっては社会保険料および労働保険料を支払いたくないため、実態は労働者であっても、業務請負というように処理している企業があること、また、発注者の指揮命令下で請け負い労働者を働かせることもある⁷。

3.3.4 賃金支払いの5原則—なぜそうになっているか

労働基準法では、賃金支払いの5原則が以下のように定められている。

- ①通貨で：(現物ではなく)
- ②直接労働者に：(他人に取られないように)
- ③全額を：(使用者が一方向的に控除しないように)
- ④毎月1回以上+⑤一定の期日を定めて：(収入が不安定にならないよう定期的に)

3.4 国際的な動向から

3.4.1 ILO とは

ILO (International Labour Organization, 国際労働機関) は 1919 年に創設された世界の労働者の労働条件と生活水準の改善を目的とする国連最初の専門機関である。本部はスイスのジュネーブにある。加盟国は 187 ケ国 (2016 年 2 月現在) であり、労働組合の存在を前提にした国際機関 (三者構成主義; 労働者、使用者、政府) である。

3.4.2 ILO が重視していること

ILO は、非正規労働を正規労働に、非正規労働者の保護、ディーセントワーク (人間らしい労働) を重視している。

このうち、ディーセントワークは、1999 年の第 87 回 ILO 総会に提出されたファン・ソマビア事務局長の報告において初めて用いられたもので、ILO の活動の主目標と位置づけられた。

「ディーセント・ワークとは、権利が保障され、十分な収入を生み出し、適切な社会的保護が与えられる生産的な仕事を意味します。それはまた、全ての人が収入を得るのに十分な仕事があることです。」(ソマビア事務局長報告)

「働きがいのある人間らしい仕事」とは、まず仕事があることが基本だが、その仕事は、権利、社会保障、社会対話が確保されていて、自由と平等が保障され、働く人々の生活が安定する、すなわち、人間としての尊厳を保てる生産的な仕事のことであるとされる。

ディーセントワークに関して、SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標) の目標 8、「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用 (ディーセント・ワーク) を促進する」にも留意したい。

4. 働くルールと労働組合

4.1 働くルール

仕事に就くとき、働くとき、仕事を辞めるときのそれぞれの場面で、具体的な問題を通して働くルールを考えさせたい。例えば以下のような問題である。

4.1.1 仕事に就くとき

Q1. 次のうち、労働基準法の適用を受けるのはどれ：正社員、パートタイマー、アルバイト、派遣労働者

A1. 全て

Q2. 労働条件は何によって決まっているか

A2. 労働基準法、労働契約、就業規則、労働協約

Q3. 採用通知を受け取り、関係書類を出した後で、会社から「この話はなかったものとしてほしい」との連絡があった。こんなのあり？

A3. 採用通知が出され、それに応じて入社承諾書を労働者が出すと、働くこと・働いてもらうことについて労使間で合意が成立しているため、この時点で労働契約は成立している。これは書面でなく、電話でも同じだが、書面がないとその立証は難しくなる。メモをとっておこう⁸。

4.1.2 仕事をするとき

Q4. A君は時給1,200円の工場で働いている。工場は土日が休みの週休二日制で、就業時間は午前9時から午後5時（休憩1時間）。金曜日に社長から残業を頼まれたA君は、夕食休憩の後、午後7時から翌日の午前2時まで休憩せずに7時間の残業をした。社長は、A君の残業をねぎらう意味で、 $1,200 \text{円} \times 7 \text{時間} = 8,400 \text{円}$ のところを9,000円支払うという。これは妥当か？

A4. このケースにおける問題は二つある。1) 賃金。賃金の割増率の区分を正確に計算すると、A君のこの労働に対する賃金は11,940円となる⁹。2) 休憩。「使用者は、労働時間が6時間を超える場合においては少なくとも45分、8時間を超える場合においては少なくとも1時間の休憩時間を労働時間の途中に与えなければならない」（労働基準法第34条）。ここで重要なのは、休憩を与える主体は使用者であることで、この点にも十分に注意させたい。

Q5. 東京都における求人広告の文面「ウェイトレス募集、時給1,000円～、高校生可」における二つの法律違反とは？

A5. 1) 男女平等の侵害。「事業主は、労働者の募集及び採用について、女性に対して男性と均等な機会を与えなければならない」（男女雇用機会均等法第5条）2) 最低賃金違反。「使用者は、最低賃金の適用を受ける労働者に対し、その最低賃金以上の賃金を支払わなければならない」（最低賃金法第5条）

Q6. 使用者は労働者に、1日に（ ）時間、1週間に（ ）時間を超えて労働させてはならない。（労働基準法第32条より）

A6.それぞれ、8、40。

Q7.賃金の計算は（ ）単位

A7.1分単位。労働基準法24条「全額払いの原則」より。したがって例えば、5分遅刻したら15分の賃金カットは違法

Q8.正規に仕事に就いた人が給料をもらいながら休みを取れるのはあたりまえ。では、パートやアルバイトにも有給休暇はあるか？

A8.もちろんある。ただし、勤務条件によって付与日数は異なる。なお、有休取得に理由は必要ない。

4.1.3 仕事を辞めるとき

Q9.突然、「明日から来なくていい」といわれました。理由もはっきりしません。こんなものあり？

A9.使用者が労働者を（懲戒ではなく）解雇する場合には、労働者に30日以上前に予告するか、30日分以上の賃金を払わなければならない。ただし、「こんな会社辞めてやる！」といったら退職となる。自己都合か、会社都合かは非常に重要！

4.2 労働組合

日本における労働組合の加入率（組織率）は低い。しかし、それは労働組合が重要ではないということにはならない。事実、例えば米国では、アマゾンやスターバックスの労働者が次々と労働組合を結成している（どちらも経営者側の妨害を受けている）。

4.2.1 労働組合と労働三権

Q1.次のうち、正しいものはどれ？

①労働組合の結成には、使用者の許可は不要である。②労働組合は、正規労働者と非正規労働者とを区別して組織しなければならない。③労働委員会による資格審査を経なければ、労働組合としての活動ができない。④労働組合を結成したときは、労働基準監督署に通知しなければならない。⑤結成には5名以上の参加が必要である。

A1.①のみが正しい。

Q2.労働三権とは何か。またそれぞれはどういうことを意味しているか

A2.1)団結権。労働者が地位の向上を図り、労働条件について使用者またはその団体と対等の地位で交渉するため、労働組合を組織する権利。日本国憲法第28条は勤労者の権利としてこれを保障。2)団体交渉権。使用者に対し、交渉への応諾を強制することができる権利。団体交渉とは、労働組合が使用者と労働条件等に関して交渉すること。日本国憲法第28条でこの権利が保障され、使用者が正当な理由なくこの交渉に応じないと不当労働行為となる。団交。また、団交での合意を協約にすると特別の効力がある（労組法16-18条）。3)団体行動権または争議権。労働者が労働条件などに関する自己の主張を実現するために、使用者に対して団結して争議行為をなし得る権利。労働者の基本的権利として日本国憲法第28条で保障。争議行為とは、労使関係の当事者がその主張を貫徹するために行う行為、ま

たはこれに対抗する行為で、業務の正常な運営を阻害するもの。労働者側ではストライキ・サボタージュなど、使用者側ではロックアウトなど。

4.2.2 不当労働行為

労働組合法は、労働三権を具体的に保障するため、使用者が以下の行為を行うことを禁止している。

- ①労働組合への加入や正当な労働組合活動（争議行為）などを理由に解雇や降格、給料の引下げ、嫌がらせ等の不利益な取扱いをすること。（スト時間分の賃金をカットすること、ストに対するロックアウト等を除く。）
- ②正当な理由のない団体交渉の拒否。（労働組合からの団体交渉申入れには、拒否する正当な理由がある場合を除き、応じなければなりません。）
- ③労働組合の結成や運営に対する支配や介入、組合運営経費の援助。（従業員の組合結成・加入や組合活動を妨害する言動などが該当。）
- ④労働者が労働委員会に救済を申立てたり、労働委員会での発言や証拠提出をしたことを理由に不利益な取扱いをすること。

使用者から不当労働行為を受けたときは、労働組合又は労働者は労働委員会に救済を求めることができる。

4.2.3 まさかの時のために

予期しない困難に見舞われることは誰にでもありうる。そんなときには、例えば以下のようなことが考えられる。

(1) 記録を取る

近年はメールが普及したので記録は取りやすくなっているが、必要ならばメモを取ることが重要であることに変わりはない。ポイントは何年何月何日に誰からなんと言われたか、のように具体的に記録することである。また、自分と誰かとの会話を、相手に許可を取ることなく録音することを当事者録音というが、これは盗聴とは異なり違法行為ではない。

(2) 仲間は決定的に重要！

孤立しては困難な状況乗り越えていくことは難しい。同じ状況の仲間、あるいは自分の困難に心を寄せてくれる仲間を見つけることは重要である。

(3) 企業外での解決手段

- ①労働基準監督署、労働委員会
- ②労働審判：地裁の制度で、3回で決着する。
- ③訴訟（裁判）

4.3 就業規則等の共有

できるだけ、学生自身が入手できる就業規則等を受講者で共有したい。具体的なものを見るのが重要だと考える。アルバイトをしても、就業規則を見たことがない（記憶にない）という学生もいる。また、就業規則は、必ずしも労働者に交付しなければならない

いわけではないため、見ることは可能だが事実上、見るためのハードルがかなり高く設定されている場合もある。こうした状況に対して、就業規則等への理解と注意を高めることは必要なことであろう。

5. おわりに

筆者もそういう立場だが、現実的には、大半の人は雇用されて労働者として働くことになるだろう。そしてこの状況は、その善し悪しはともかく、今後もかなり長く変わることはないと思われる。

そうだとすれば、労働者の視点から見て、働くにあたって最も重要なのは、働く者同士が仲間となって人間らしい労働（ディーセントワーク）を広げていくことではないか。そのために最も重要な役割を果たすのは労働組合ではないかと考える。そこで学生には、労働組合運動の研究者の熊沢誠の次の文章を贈ることにしている。

「形態や類型がふさわしいものであれば、どんな仕事の人にも労働組合の必要性は胸に落ち心にとどまります。ふつうの労働者が働き続けてゆくのに不可欠なものを、民主主義的に、つまり by the workers をもって守りうる組織、なかまとの連帯によってほかならぬ『私』の生活と人権を擁護しうる組織、それは労働組合だからです。労働組合の加盟・樹立とは、日常的に絆のある働き方を選ぶということなのです。」¹⁰

（本学教授）

¹ 以下では、工業科の教員免許のことを単に工業（免許）と略記する。

² 尾高進「『職業指導』の指導と課題」『工学院大学教職課程学芸員課程年報』第19号、2017年3月。

³ エンゲルス「サルがヒトになることに労働はどう関与したか」『自然の弁証法<抄>』新日本出版社、秋間実訳、2000年7月、53-54ページ。

⁴ このことについて吉野源三郎『君たちはどう生きるか』では、「人間分子の関係、網目の法則」という実に巧みな表現が使われている。

⁵ 筆者が子どものころ、テレビのコマーシャルに「100円でポテトチップスは買えますが、ポテトチップスで100円は買えません」というものがあつた。これは、貨幣がもつ特殊な性格を見事にいいあらわしている。

⁶ ユルゲン・クチンスキー『労働の歴史』法政大学出版局、1970年、5ページ。

⁷ 近年では、Uber Eatsの労働が問題となっていることは周知のことであろう。

⁸ これは具体的に、みなさんがこういう立場に置かれたらどうしますか、という問題として出題している。

⁹ ただし、これは、土曜日が法定休日か、または、法定休日と同率の割増賃金を支給することになっている場合の話である（休日は毎週少なくとも1回与えればよいとされ、土日が休日の場合は、どちらかが法定休日、それ以外は法定外休日となる）。

¹⁰ 熊沢誠『労働組合運動とはなにかー絆のある働き方をもとめてー』（岩波書店、2013年1月、211ページ）。

「情報と職業」でとりあげるべき教育目標＝内容

尾高 進

1. この科目について

「情報と職業」は、高等学校情報科の教員免許状を取得するために修得が必要な教科に関する科目である。

本学では 2 単位科目として開講している。本学の開講様態は通年期科目と夏期集中科目とがあり、筆者はどちらの科目も担当している。受講者数はどちらも、数人から 10 人程度のことが多い。

授業の到達目標及びテーマは以下の通りである。

この授業のねらいは、主要には「情報化」と職業・労働をめぐる問題との関係を検討することにある。具体的な到達目標を以下に示す。

- ① 情報通信技術の発達と社会や労働との関係が分かる。
- ② 日本の職業・労働の特徴が分かる。
- ③ 職業指導について、その基礎的な事項が分かる。

他大学のシラバスをみても、この授業の内容は、担当者によって様々であるようだ。以下では、この授業で取り上げるべきだと筆者が考える内容を述べる。

2. 情報化とは何か

(1)情報科の目標と情報化

2018 年版の高等学校学習指導要領において、各学科に共通する教科である「情報」の目標は、以下のようにになっている。

「情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるように

する。

(2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

(3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。」(下線は引用者による)

これに対して、主として専門学科において開設される教科である「情報」の目標は以下の通りである。

「情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報産業を通じ、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)情報の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2)情報産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3)職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。」(下線は引用者による)

2009年版の高等学校学習指導要領では、各学科に共通する教科「情報」の目標は以下のようになっている。

「情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。」(下線は引用者による)

また、主として専門学科において開設される教科である「情報」の目標は以下の通りである。

「情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における情報の意義や役割を理解させるとともに、情報社会の諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、情報産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。」(下線は引用者による)

ここでみたいずれの場合も、情報科は、表現は異なるものの、情報社会に主体的に参画できるような力を育成しようとしているものであるといえる。そして、情報社会の進展を促進したのは情報化であるといってよい。そこで学生に問う。

問題；では、「情報化」とは、どういうことをいうと思いますか？

ある年度の学生の記述は以下のようなものである。

- ・情報化とは様々なものや事象のデジタル化だと思う。さらにデジタル化されたものの性能や汎用性の向上をも指す。
- ・情報が価値を持ち、情報を中心として社会が動くこと。多くの人が情報を扱い、情報をみて行動するようになること。経験や伝聞によって行動していたものが、情報として集まり、それによって行動していくようになること。
- ・情報化とは、パソコンやスマートフォンといった情報機器が幅広く使われ、情報機器や情報が社会のインフラになるくらい重要なものになっていくことであると考え
- る。
- ・情報化とは、場所や時間に限られることがなく、遠隔で機器等の操作が可能となること。
- ・コンピュータが盛んに使用されるようになり、情報に価値があることで、社会で情報が資源として使用されるようになること。
- ・インターネットの普及によって、情報が日常生活など様々な場面で使われるようになること
- ・情報技術を用いた商品やサービスが社会的に広く普及することで、個人や物事に関する情報の価値が高まった状態が情報化社会であると思う
- ・単に情報技術が社会に導入されるだけではなく、情報が社会のさまざまな分野で重要な役割を担い、その結果として人々の生活や働き方が大きく変わる事

(2)情報化とは何か

情報化とは何かを考える手がかりとして、情報化が事典においてどのように説明されているかをみる。

『JIS 工業用語大事典（第5版）』（日本規格協会、2001年）には「情報化」という項目はあるけれども、記述は「computerization」「計算機による自動化」を参照先として挙げているだけである。

次に、北川高嗣ほか『情報学事典』（弘文堂、2002年）にも「情報化」の項目がある。以下にこの項目の記述を抜粋して示す。なお、抜粋に当たり、適宜番号付けを行った箇所がある。

I [情報化とは] 広義には、情報技術の開発と利用が社会的に進むことと、一般に私たちの振るまいが情報に依存度合いが強まることをさしている。狭義には、情報技術の社会的開発・利用の進展を意味する。

II [情報化の現実的展開]

- ① 情報化への注目：1960年代中頃、第三世代大型汎用コンピュータが初めてビジネス・シーンに登場し、大規模集中処理システムを構築することによって驚異的な事務処理能力を発揮しはじめる。情報化は産業システムの内部にあってもまだまだ局所的・局部的であった。
- ② 1970年代の中頃、マイクロプロセッサやマイクロコンピュータの開発により、情報技術は製造業における競争優位の源泉となることが明白になる。マイクロエレクトロニクス（ME化）の進展。
- ③ 1980年代の中頃、ネットワーク技術の開発により、コンピュータやシステム同士が接続され、情報の流通と共有が進む。情報技術はシステム間接続技術として、流通と生産の連動を可能にし、産業システムや企業活動の高度化をもたらす。
- ④ 1990年代中頃以降、グローバル・ネットワークの形成。インターネットの爆発的普及。

(3)情報化とはすぐれて現代的な概念

以上の記述を手がかりに考えると「情報化」とは、すぐれて現代的な概念であり、現代社会の諸側面の中で考える必要があるということを理解させたい。

すなわち、例えば以下のような主張がある。「奈良時代の政権は、日本国中のデータを集めまくっていた。例えば米の税である租は、郡の正倉（しょうそう）に保管され、出拳（すいこ）という形で種もみとして五割の利率で農民に強制貸付される『地産地消』の税なので、都では誰もその実物は見たことがない税である。しかし都には正税帳（しょうぜいちょう）という帳簿の形でデータ化されて送られたので、支配層は書類上で地域の農業経営がうまく回っているかどうかをデータで詳細に確認できた。「簡略にいうならば、奈良時代とは、日本史上はじめて訪れたデジタル化社会なのである¹⁾。」この記述ではデジタル化という表現が採用されており、これを情報化と置き換えて考えることが可能だと思われる。しかし、これは、データ化ということはできても、本稿で扱っている情報化とはいえないということである。

(4)情報化の本質は生産技術のコンピュータ化である

情報化とは、それが進展する前には人間が行っていた記憶、比較、判断等の知的働きの一部分を、人間から切り離してコンピュータに担わせたり、既存の社会的体系やシステムの中に新たにコンピュータを組み入れ、それらの機能と能力とを飛躍的に強化・拡充す

ることがその本質的内容といえる。

したがって、情報化の本質は生産技術のコンピュータ化であるといえる。

このように情報化をとらえるならば、現代の社会的ものづくり、すなわち生産の基幹技術であるオートメーションに注目しないわけにはいかない。オートメーションとは、それ以前の基幹技術であった機械にコンピュータ制御機構が付加された労働手段であり、機械の時代に人間が担っていた知的機能の一部をコンピュータに担わせている。

また、コンピュータによる自動制御機構が整備されたものづくり技術は、その多くは単体として存在しているのではなく、コンピュータを組み込み、デジタル信号を送受信する情報通信ネットワークを介して体系化されている。

人類は、その生存と生活に必要な財貨のほぼすべてを社会的ものづくりに依拠して獲得しているのだから、このものづくりの世界におけるコンピュータ化は、単にものづくりに限定された狭い世界の小さな動向なのではなく、人類社会そのものの存在・維持・発展に直結している²。

(5)情報化の面からみた生産労働の変容

この科目の主旨に引きつけていえば、情報化の面からみた生産労働の変容は、以下の点にまとめられる³。

- ① コンピュータの小型化・高性能化
 - ・各種指示、帳票、報告等のデータ処理の一般化
 - ・3次元データ等の高負荷データ処理の促進
 - ・製造現場でのコンピュータ利用の一般化
- ② コンピュータの超小型化・微小化
 - ・コンピュータ制御労働手段の管理・保守の拡大
 - ・移動先、社外等での各種指示、帳票、報告等の送受信の拡大
 - ・資材、製品等のデータ管理の促進
- ③ 光ファイバーケーブル網の拡張、サーバ、ルータ等の高性能化
 - ・各種指示、帳票、報告等のデータ通信、Web処理の拡大
 - ・3次元データ等の大容量データ通信業務の促進

3. 技術における情報通信技術の位置

情報化の意味内容を理解したならば、情報化の基盤となっている情報通信技術は、技術全体の中で、どのような位置にあるのかを理解させたい。そのためには、技術論の基礎的な理解が不可欠となる⁴。また、いきなり情報通信技術を扱うことはできない。まずは、基幹的な技術である道具と機械の区別からはじめる。

(1) 道具か機械か

例えば学生に、①ほうちょう、②足踏みミシン⁵、③電気炊飯器、④木工旋盤⁶、⑤電動鉛筆削り、⑥ウナギの養殖地、⑦タル洗い機⁷について、それぞれ、道具か機械かその他かを考えさせる。

特に足踏みミシンや木工旋盤、タル洗い機について、道具か機械かの意見が分かれることが多い。よくある意見は、電力で駆動するものが機械、人力で駆動するものが道具、というものである。そうした意見に対しては、では畜力や自然力（風力や水力など）で駆動するものはどう考えるのか、などと聞くことにしている。

それぞれの意見を共有して一通りやりとりを行った後、答え合わせのようになってしまいうけれども、技術論の見地から、道具と機械が区別されるべき点を提示する。その要点を示すと以下ようになる。1) 発達した機械は、すべて、原動機、伝達機構、作業機という、本質的に異なる三つの部分から構成されていること、2) 原動機と伝達機構は作業機に運動を伝え、これによって作業機は仕事の原料や材料を目的に応じて変化させる。すなわち、原動機と伝達機構は作業機のためのものであるのであって、作業機が機械の基本部分である、3) したがって、動力が何（人力、電力その他）に由来するかは本質的な問題ではない、4) 道具と機械を区別する点は、それまで人間の手に握られていた道具が、人間の手を離れて一つの機構（作業機）に組み込まれているかどうかにある。

また、一般に生産用具は、生理学の用語を採用し、筋骨系と脈管系とに分類される。筋骨系は力学的な作業の方式をとるもので、道具・機械がこれにあたる。脈管系はおもに化学的な作業の方式をとるものである。その基本は容器であり、酒造りの桶や製鉄における高炉、化学工業の反応塔などがこれにあたる。

以上から、①ほうちょう、④木工旋盤、⑦タル洗い機は道具、②足踏みミシン、⑤電動鉛筆削りは機械、③電気炊飯器、⑥ウナギの養殖地はその他（容器あるいは装置）という結論が導かれる。

(2) 技術とは何か

学生に、例えば鉛筆をここで作りたい、最低限、どういうものやことが必要か、と尋ねてみる。すると、人間、道具、材料、などといった答えが出てくる。これを概念化して整理すると、1) 労働力、2) 労働手段、3) 労働対象に整理することができる。

次に、労働手段についてのマルクスの定義を示し、これはどういうことをいっているのか考えさせる。

労働手段とは、労働者が自分と労働対象とのあいだにもち込んで、この対象にたいする彼の能動活動の導体として彼のために役立つ、一つの物または諸物の複合体である⁸。

労働手段の定義をおさえたところで、技術の定義を示す。

技術とは、物質的財貨の生産を目的として自然の物質に働きかけをさせるために、人間によって創造される労働手段の一定の特殊な体系であり、またこの体系一般である⁹。

ここでいう特殊な体系とは、各産業部門やそのもとにおけるもろもろの労働過程における労働手段の一定の組み合わせのことであり、また体系一般とは、一定の発展段階にある社会に、生きて働いているすべての労働手段の体系を指す。すなわち、技術はシステムなので、例えばダイヤモンドはその硬度から、現在の社会では重要な技術となっているけれども、ダイヤモンドはどの社会でも技術としての役割を果たすわけではない。

したがって技術とは、まずもって客観的な労働手段（道具や機械、容器や装置等）のことだといってよいが、ここで学生からよく出る意見に、例えばのこぎりは技術の成果物であり、技術そのものではない、というものがある。

しかし、この意見は、のこぎりを作り出すものも技術の成果物である、ということになり、あたかも数学的帰納法のような道行きで論が進み（後退し）、結論的には、技術とは人間の頭の中にあることである、という結論に達してしまう。この結論は明らかに妥当ではない。

(3)労働手段の基本的種別と情報通信技術

①労働手段の基本的種別

技術を労働手段の体系ととらえると、その基本的種別は以下のようなになる¹⁰。

- A 一般的労働手段——土地、海洋、湖沼、河川
- B 直接的労働手段
 - a 作業労働手段
 - (i)筋骨系——機械的労働手段（道具→機械→オートメーション）
 - (ii)脈管系——非機械的労働手段（農業の場合の耕地など、容器→装置→オートメーション）
 - b 動力労働手段——役畜、水車、風車、熱機関（発電機、電動機）
- C 間接的労働手段——道路、運河、工場建物、照明・冷暖房・排水等の施設

この中には、情報通信技術が独立した労働手段としては位置づけられていない。ここに至ってようやく情報通信技術を扱うことが可能になる。

②情報通信技術の典型としてのコンピュータオートメーション

結論を先取りすれば、現代の技術において情報通信技術は、コンピュータオートメーションにおいてその主要な役割を果たしているといえる。

コンピュータオートメーションの前史として、オートメーションがある。オートメーシ

ョンを非常に単純化するというならば、それは大量生産方式であるといえる。

大量生産方式には、オートメーションによるものの前に家内制手工業やマニユファクチャ（工場制手工業）がある。これらが発展したのが産業革命による機械制大工業の登場である。機械制大工業は、道具が機械へと置き換わることによって人間の熟練を（基本的に）不要にし、大量生産を可能にした。

オートメーション（automation）の語源は1948年、フォードのデトロイト工場、よりよき能率化に対して、automatic operation（自動操作）ないし automatization（自動化）を縮めていったところに始まる。具体的には、トランスファー・マシン（自動機械の連鎖体系）の進んだものに対して与えられた言葉である。

トランスファーマシンは、機械同士を連続した作業ができるようにつなげたもの、という意味で、オートメーションという語には、もともとはコンピュータの介在は意味されていない。

しかし今日、オートメーションという言葉で一般に語られている内容は、コンピュータにみられるように、人間の労働に特有なフィードバック機能の一部が組み込まれた機械、ないしコンピュータによって自動制御される一連の自動機械体系を指す。

コンピュータ・オートメーション（FMS, Flexible Manufacturing System）の構成要素には以下のようなものがある。

- ①命令プログラムの交換等によって、多種類の自動加工を行う NC（数値制御）工作機械
- ②自動工具交換装置を備えて、一回の段取りで多種類の自動加工を行うマシニングセンター
- ③多種類の部品を識別して搬送や組み立て等を行う産業用ロボット
- ④ 自動搬送車や自動倉庫
- ⑤①～④を組み合わせて、コンピュータにより工程全体をシステム化した FMS（コンピュータ制御による柔軟生産システム）

(4) コンピュータオートメーションの意義とそれにおける情報通信技術の役割

コンピュータオートメーションは生産の自動化を従来になく飛躍的に発展させた点にその大きな特徴がある。そして情報通信ネットワークはオートメーションの発展を支えていることは間違いない。

コンピュータは、現代のオートメーションであるコンピュータ・オートメーションには欠かせない。この点で、コンピュータを、神経系の労働手段という人もいる。しかし、コンピュータは、オートメーションにおいて、自動制御技術を飛躍的に進歩させたという以上のものではなく、また、コンピュータ自身がものを作り出すわけではないことから、コンピュータを、独自の労働手段としてみるべきではない。

さて、この科目の名称は「情報と職業」であり、ここまでは主として「情報」に着目し

た内容を扱ってきた。これに対して、「職業」に着目するとどのような教育目標＝内容を扱うべきだと考えられるか。

以下に述べることは、働くことに関して、大学の授業として扱った方がよいと考えられることである。かつて拙稿¹¹で述べた内容であるけれども、再掲しておく。

4. 日本の職業・労働の特徴

このことは、西欧の労働慣行や職業教育と比較することにより、理解させやすくなるように思われる。

例えば、雇用されるとはどういうことか。経済学的には、企業＝資本と労働者とが、労働力の売買契約を結ぶことであるといえる。しかし日本ではこういう観念は一般化していない。すなわち、雇用関係を結ぶにあたり、専門職等の例外を除けば、労働者が従事すべき業務の内容があらかじめ限定的に決まっていることは少ないと思われる。

これに対して西欧では一般的に、個々の職業の業務の範囲(demarcation; なわばり)はきわめて厳格であるとされるすなわち、個々の労働者が資本に対して売べき労働力の範囲が明確であるということである。これは、歴史的に職種ごとに労働組合が形成されてきたことと関係があり、demarcationの厳格な維持が職種ごとの賃率の維持・向上との関係で非常に重視されてきた。したがって、その仕事についての熟練度の等級を示す資格(qualification)が重要な意義をもつ。

日本の労働慣行の特徴として、終身雇用と年功賃金がよく挙げられるけれども、これらは、日本だけに固有というわけではない。とはいえ、上記のような労働慣行と結びついていくことは理解しておく必要がある。

なお、1990年代以降、能力主義的な労務管理が導入されてきているけれども、近年にはそれへの批判も起こっていることも押さえておきたい。

5. 職業指導の基本的事項

職業指導について本格的に取り扱うことはこの科目の本来の主旨とはややずれるように思われるし、また、2単位の中にそれを盛り込むのも困難である。ここでは、学生が将来、教員となったときに生徒を指導するため、という視点に加え、学生自身がアルバイト等で日々直面する可能性のある問題に立ち向かうため、という視点も加えて授業を構成したい。例えば、以下のような内容が考えられる。

- ① 仕事に就くときのルールは何によって決まっているか
労働基準法、就業規則、労働契約、労働協約、内定取り消しは有効か等。
- ② 労働時間、賃金、休憩、休暇

労働時間の上限、最低賃金、時間外労働に対する割増率、休憩、年次有給休暇の取得等。

③ 仕事を辞めるとき

使用者から雇用契約を解除する場合は、30 日前の予告または 30 日以上平均賃金支払が必要であること等。

④ 労働組合とは何か

現在の日本では、労働組合の組織率が低いためか、学生たちが労働組合に対して持っているイメージは非常に貧困である（悪いイメージすらもっていないというべきか）。どのように学生に労働組合をイメージさせるかは、毎年課題を感じているところである。

⑤ 労働三権

団結権、団体交渉権、団体行動権は、法によって保障されていること等。

⑥ 困ったときは

記録を取っておくこと、仲間は困難を解決する上で非常に大切であること等。

紛争解決手段としては、労働局・労働委員会、労働審判、裁判所等の機関があること等。

(本学教授)

¹ 榎村寛之『謎の平安前期－桓武天皇から『源氏物語』誕生までの 200 年』中公新書、2023 年 12 月、vi ページ。

² 本多満正他編著『実践 情報化教育法－「ものづくり」から学ぶー』東京電機大学出版局、2004 年 2 月。

³ 齊藤武雄・佐々木英一・田中喜美・依田有弘編著『ノンキャリア教育としての職業指導』学文社、2009 年、95 ページ。

⁴ 筆者は技術の定義に関して、労働手段体系説の立場に立つ。

⁵ 近年の授業では、足で踏んでスイッチを入れるマシン（電動マシン）のことを足踏みマシンだと考える学生がほとんどであるが、足踏みマシンといえは、踏み板を足で踏んで人力で駆動力を生み出すマシンのことである。

⁶ この授業の受講者は情報学部の学生である。機械系の学生とは異なり、旋盤そのものになじみがないことがほとんどである。そこで授業では、まず旋盤の写真を見せ、次に木工旋盤の写真を見せ、その違い（木工旋盤は刃物を工作者自身の体で保持する）に注意を向けさせる。

⁷ これはやや架空のもので、たなかじゅん『ナツちゃん』（マンガ）において登場するものである。

⁸ マルクス『資本論』第 2 分冊、新日本新書、1983 年、306 ページ。

⁹ 中村静治『技術論入門』有斐閣、1977 年、135 ページ。

¹⁰ 同上。

¹¹ 尾高進「『情報と職業』の指導と課題」『工学院大学教職課程学芸員課程年報』第 19 号、2017 年 3 月。

生活困窮家庭の中学生と学習性無力感

東京都世田谷区学習・生活支援の拠点事業におけるユーススタッフのかかわり

安部芳絵

1. 学習性無力感と子どもの貧困

現代社会における課題の一つに子どもの貧困がある。日本における子どもの貧困は、OECD 加盟国のなかでも最悪の水準にあり、厚生労働省「国民生活基礎調査」(2022)によれば11.5%、9人に1人の子どもが相対的貧困下にある。さらに、ひとり親家庭の相対的貧困率は44.5%であり、2世帯に1世帯という高い割合を示す。このようななか「子どもの貧困対策の推進に関する法律」は、令和6年に「こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律」に改正され、各自治体ではこどもの貧困対策を盛り込んだこども計画の策定が求められている。

子どもの貧困の連鎖を防止する取り組みのひとつが、「子どもの学習・生活支援事業」である。株式会社日本能率協会総合研究所(2025)によれば、学習支援は都道府県のうち全福祉事務所で実施が6割半ば、市区町村では7割弱の実施であり、生活支援は都道府県のうち全福祉事務所で実施が7割半ば、市区町村では約5割の実施であった。利用者が事業を利用しやすくする工夫として、市区町村では、「大学生や地域の学習指導経験者等、子どもに身近に感じられやすい人材を事業の担い手(支援員)として活用している」が7割弱で最も高く、「交通の便が良い施設で事業を実施している」が5割半ば、「スティグマ(差別・偏見)が生じにくい周知を行っている」が4割半ばと続いている。

これに対し、生活困窮者自立支援法にもとづく学習支援をめぐる事例から、学習支援以前の課題として、早期に学ぶ意欲をなくし「勉強」に心を閉ざす子どもたちが報告されている(西牧、2019:)。学習支援を拒む子どもたち、保護者や教員から勧められても動こうとしない子どもたちの背景には、学習性無力感がある。子どもたちの多くは失敗したときに自分を肯定的に捉えられるような声かけをされてきておらず、自分のことを「頭が悪い」「ばかだから」と決めつけ、勉強ができていないのは自分のせいだと責める。西牧は、「子どもの貧困」対策として、学習支援事業を広げるのであれば、同時に子どもたちが学ぶ意欲を早期になくし、「勉強」に心を閉ざしてしまう問題を解決する必要がある。」として、単に学習支援の場をつくるだけでなく、子どもの学習性無力感を考慮したかかわりの重要性を示唆する。

Seligman et al. (1967) は、犬に対するオペラント条件付けによる電撃回避実験から学習性無力感(Learned Helplessness)を提唱した。学習性無力感とは、統御不可能な事態を経験し、何をやっても対処することができないことを学習した結果、将来における統御不可能性の予測が形成され、新たな課題における統御不可能性の学習が困難になり、動機づけ・認知・情動に障害が生じ、抑うつに陥る現象である(荒木、2000:510)。

以上を踏まえ、本稿では、東京都世田谷区で展開されている学習・生活支援の拠点事業「まいぷれいす」におけるユーススタッフのかかわりを通して、子どもの学習性無力感との向き合い方を模索する。

2. 貧困と中学生の居場所

2-1. 世田谷区における子どもの生活実態調査と子どもの貧困

世田谷区では、「子ども計画(第2期)後期計画」の策定に向け、子どもの生活実態を把握するため2018年度に子どもの生活実態調査(以降、2018年度調査)を実施した。本調査は、子ども・保護者に対するアンケート調査及び支援者に対するヒアリング調査によるものである。

2018年度調査では、東京都による『平成28年度東京都子供の生活実態調査』(以降、東京都調査)を参考に、生活困難を抱えている子どもの状況を3段階の生活困難度指標(以降、「生活困難度」)を用いて定義した。「生活困難度」は、子どもの生活における生活困難を三つの要素から捉えたものであり、(ア)低所得¹、(イ)家計の逼迫²、(ウ)子どもの体験や所有物の欠如³、から構成される。2018年度調査では、東京都調査に倣って、三つの要素のうち、二つ以上該当する世帯を「困窮層」、一つのみ該当する世帯を「周辺層」、どれにも該当しない世帯を「一般層」と分類し、「生活困難層」は、「困窮層」と「周辺層」を合わせた層とした。

この調査の結果、小学5年生の11.7%、中学2年生の13.9%が生活困難層であり⁴、1割を超える子どもが経済的な理由による生活困難に直面し、食や体験、学習等の面で影響を受けていることがわかった。

2-2. 生活困難層と自己肯定感

子どもの自己肯定感に関連する8つの設問を、「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」の4段階の選択肢を設けて回答を求めた。その結果、生活困難度で見ると、一般層と比較して困窮層で「高い」割合が低く23.0%となり、その差は5.1ポイントである。「自己肯定感」指数が「低い」割合の差については、一般層と困窮層との間でさらに大きい。一般層と比較して困窮層にて「低い」割合が高く、一般層の20.9%に対して、困窮層では33.8%、その差は12.9ポイントとなった⁵。

本調査の分析では、「学術的には、自己肯定感は、「レジリエンス」(逆境に打ち勝っていく力)に関連することがわかっており、自己肯定感を高める要素としては、学力、友人関係、大人との関係などがあげられていることから「学習支援事業などと共に、まずは、多くの他者(大人および子ども)と触れ合う機会を増やし、その際には、批判的・指導的なアプローチではなく、子どもの自己肯定感を高めることを念頭に置いたアプローチが有効であろう」と指摘している⁶。

2-3. 求められる居場所

2つの居場所事業(「平日の放課後に夜までいることができる場所」「休日にいることができる場所」と相談事業(「なんでも相談できる場所」)について子ども自身の利用意向をたずねたところ、中学2年生では、24.1%が「平日の放課後に夜までいることができる場所」、25.5%が「休日にいることができる場所」、15.8%が「なんでも相談できる場所」を「使ってみたい」と回答している。「平日の放課後」の居場所事業は、小学5年生よりも中学2年生にて利用意向を示した子どもの

割合が高い。小学 5 年生と同様に、3 つの事業の中では、「休日にいることができる場所」が最も多くの子どもが「使ってみたい」と回答した。

生活困難度別に見ると、「平日の放課後に夜までいることができる場所」「休日にいることができる場所」の項目で統計的に有意な差が見られた。「平日の放課後に夜までいることができる場所」を「使ってみたい」と答えた割合は困窮層で 36.8%、周辺層 34.2%、一般層 22.6%と生活困難度が上がるにつれ利用意向も高まった。「休日にいることができる場所」を「使ってみたい」「興味がある」と答えた割合は困窮層で 59.2%、周辺層で 56.9%、一般層で 49.6%となり、生活困難度があがると利用意向も高くなる傾向が見られた⁷。

なお、2018 年度調査とその詳細分析からは、困窮層の子どもほど、夜間までの居場所の利用意向が高いにもかかわらず、実際には児童館や青少年交流センターを利用せずに、夜間を一人ですごしていることがわかっている。児童館や青少年交流センターは、誰でも利用できるポピュレーションアプローチの居場所である。しかし、困窮層の子どもにとって誰でも利用できる居場所はかえって利用しにくい。このことから、より丁寧に寄り添える、ハイリスクアプローチの居場所が求められる。

2-4. ハイリスクアプローチの居場所の実装

以上を踏まえ、世田谷区子ども計画(第 2 期)後期計画(令和 2~6 年度)のなかで子どもの貧困対策が盛り込まれた。ここでは「生活困難を抱える家庭ほど公的機関への相談や支援・サービスの利用意向があるのに意向があるにもかかわらず利用につながっていないため、子どもと保護者を支援につなげることが不可欠である」とされた(p.132)。そして「(2)生活の安定に資するための支援」として「①子どもの居場所づくりの充実」が掲げられた。ここでは「子どもが自ら選択して利用できるように多様な居場所を提供するとともに、生活困難を抱える子どもに対し、食の提供をはじめとする生活支援や学習支援の機能をもつ居場所の充実を図ることが計画された(p.134)。この計画の実装が学習・生活支援の拠点事業「まいぶれいす」である⁸。

3. 中学生の学習性無力感とユーススタッフのかかわり

3-1. 子どもと家庭を支える学習・生活支援の拠点事業「まいぶれいす」

世田谷区における子どもと家庭を支える学習・生活支援の拠点事業「まいぶれいす」⁹は、2021 年より実施されている。世田谷区ホームページによれば、「まいぶれいす」は「経済的な理由等で支援を必要とする家庭の中学生のお子さんが、平日や土日の 16 時から 21 時に、安心した空間で、勉強をしたり、ごはんを食べたり、自由に過ごすことができるように居場所を提供し支援する事業です。定期的な利用を通じて、中学生のお子さんが学習や生活の習慣を身につけ、高校進学も見据えながら、本来持っている力を発揮できるように、サポートします。」とある。

現在、世田谷区内に 2 か所あり、所在地は非公開である。週 5 日(月・水・金・土・日)、16~21 時に実施しており、費用は無料である。事業内容としては、①居場所提供、②学習支援、③生活支援、④相談支援であり、相談支援には保護者からの相談も含む。利用対象者は区内に在住する中学生とその保護者であるが、利用に当たっては申請が必要となる。

活動内容の詳細は以下の通り。

表1 「まいぷれいす」の実施内容

事業	内容
居場所提供	スタッフとおしゃべりや読書、ゲームなどをしながら、子どもたちがリラックスして時間を過ごすことができる安心できる場を提供します。
学習支援	子どもたち一人ひとりの状況に合わせた個別の学習支援(週2回)や自主学習をサポートします。
生活支援	夕飯を一緒に食べ、調理や片付け・掃除を子どもたちと一緒にいきます。誕生日会や季節ごとのイベント、ものづくりなどの体験活動も子どもたちとともに企画し、行います。
相談支援	子どもや保護者の方の悩みや困りごとの相談にのります。保護者の方には、中学卒業に向けた進路や子育てに関するお役立ち情報を講座やメールなどでお伝えします。

3-2. まいぷれいすの活動とユーススタッフ

世田谷区から委託をうけて事業を実施している社会福祉法人福音寮によると、「まいぷれいす」は「子どもたち一人ひとりが主役になれること、子どもたちが「したい」を見つけ、「したい」を「できる」にしていくこと」を大切にしている場所であり、「子ども自身が選択できる、あるいは自分の意見を伝えることができる機会の提供を積極的に行いながら、子どもの権利に基づいて運営」している。

一日の流れは表2の通りである。何かをしなければならない場所ではなく、子ども自身が自分でやりたいことを決めて自由に過ごす場所であることがわかる。

表2 子どもたちの一日の流れ

16:00	18:00	19:00	21:00
好きな時間に来所 自由に過ごす (週2回個別学習支援)	夕ご飯 片付け	自由時間(おしゃべりしたりあそんだり) 個別学習支援 入浴など	

これらの活動を支えるのがユーススタッフである。ユーススタッフは、中学生と一緒に遊んだり、おしゃべりをしたり、ときには勉強を教えたりする。「まいぷれいす」は、上述したように子どもの権利をその基盤とし、子どもの意見を聴き、子ども参加で運営する。そのため、ユーススタッフは子どもの権利の研修をうけてから実際の支援にあたっている。

まいぷれいすでは、子ども参加を大事にしており、ルールで一律に管理することはしない。生活や学習場面で困難が生じた場合には、大人が一方向的に正解を押しつけるのではなく、「どうたらいいか」を子どもとユーススタッフ、職員と一緒に考える。最初は自分の考えを伝えられない子どもも、「あなたはと思う?」「あなたは どうしたい?」と問われ続けることでだんだんと、自分の気持ちに気づき、自分の言葉を受けとめられた経験を積み重ねることで意見を伝えることができるようになって

いく(津田・塩野、2026)。

3-3. ユースタッフのかかわり

本学教職課程からは毎年数名が「まいぷれいす」のユーススタッフとして子どもと継続的にかかわっている。ユーススタッフは、「まいぷれいす」における子どもとのかかわりをどのようなものとして受けとめているのか。以下、『2025 年度教職実践演習レポート集 わたしたちのめざす教師』より引用する。

教職課程を履修する中で、居場所支援のユーススタッフとして活動する機会をいただいた。塾講師のアルバイトで生徒と個別に関わる機会があったが、定まった子どもではなくなおかつ複数人の子どもと関わる機会がなかったため重要な機会となった。なかでも、子どもの権利を尊重することを重要視して活動していたため自分の言動や行動を見直す機会となった。活動の際にも、気持ちが高ぶっている利用者の話を聞く時間をとったり、利用者のやりたいことに合わせて調べものをしたり社会に繋がる視点を広げたりと子どもに寄り添うことが重要であった。印象に残っているのは、ゆらぎを共有することで支援の輪が途切れないようにする連携ができていたことだった。例えば、強い言葉を投げかけられ心が疲れているスタッフがいた場合には、詳しい情報を共有してその利用者への声掛けは他のユーススタッフがするといったことがあった。このことは、学校の組織的に対応するというに繋がると考える。教師になった後は、一人で抱え込まず生徒の状況を共有することでより良い解決策を考えるように努めたい。しかし、その際に教師同士で連携しながらも生徒の権利を守り、考えを尊重しながら問題解決を行うことを大切にしたい。(N. K)

「まいぷれいす」の子どもたちとのかかわりは一筋縄ではいかないことが多い。生活と学習をする場ではあるものの、やる気をもって自ら進んで学習に取り組む子は稀である。学校や家庭であったトラブルを引きずって「まいぷれいす」に来ることもあり、ユーススタッフが子どもから強い言葉を投げられることもある。誘っても学習に取り組まない、はたらきかけを受け入れず強い言葉で拒絶されることが続くと、ユーススタッフは「ゆらぎ」に直面する。

対人支援の現場で支援者が直面する動揺や葛藤、不安、迷い、わからなさ、不安全感、挫折感の総称が「ゆらぎ」である。尾崎らは、社会福祉実践はこれらの「ゆらぎ」に直面し、「ゆらぎ」を抱え、「ゆらぎ」という体験から何かを学ぶことによって、その専門性や技術を高められると考えた(尾崎、1999:i)。「ゆらぎ」を放置すると、被支援者への権利侵害や支援の破綻につながりかねない。

生活困窮家庭の子どもたちの生活と学習支援に際しては、その学習性無力感を考慮したかかわりが求められるが、このプロセスは学生にとって自らの支援の至らなさを感じさせる経験でもある。ユーススタッフは「ゆらぎ」に直面するが、N. Kは「ゆらぎを共有することで支援の輪が途切れないようにする連携」ができたこと、すなわち個で向き合うのではなく、「まいぷれいす」のユーススタッフ・職員とチームで向き合ったことを指摘している。別の学生は下記のように述べる。

現在働いている子どもの居場所支援事業では、教職課程の授業で学んだことを活かす場となり、子どもの権利や「何が子どもの最善になるか」を常に考えて行動する癖がついた。また、毎回の支援での「ゆらぎ」を言語化し、他の支援者からの意見を貰うにつれて自分の教育に関する考えの根本や土台が揺るがないものになったと考えている。

こうした経験を通して、私は教育に関わる仕事において最も大切なのは、生徒の成長を信じ続ける姿勢と、そこから学び続ける柔軟さであると感じている。教職課程を通して得た視点や姿勢を今後も大切にしていきたい。(M.S)

「まいふれいす」の活動は 21 時に終了する。子どもたちを見送った後、30 分ほどかけてユーススタッフと職員はふりかえりを行う。このふりかえりはその日に感じた「ゆらぎ」を言語化し、他者の意見と照らし合わせる場でもあり、協働の省察の場となっている。「ゆらぎ」を感じたときにユーススタッフが立ち返るのは、「まいふれいす」が活動の理念とする子どもの権利条約である。支援行為を子どもの権利の視点でふりかえり、次の支援に活かすサイクルによって、子どもの権利の視点、とくに「何が子どもの最善になるのか」を常に考えて行動する癖がついた、と述べている。なお、M.S はユーススタッフとしてのかかわりを通して、「子どもは一人ひとり異なる背景や興味を持っており、その「好き」や「得意」を共に見つけ、伸ばしていくことこそが教師の大切な役割である」と考えるに至っている。

4. 結論

生活困窮家庭の学習・生活支援は、日本各地で展開されているが、単に学習支援の場をつくるだけでなく、子どもの学習性無力感を考慮したかかわりが求められる。

「まいふれいす」におけるユーススタッフは、学習に意欲を見せない姿や声かけを拒絶する子どもの言動に「ゆらぎ」を感じる。自分はユーススタッフに向かないのではないだろうか、辞めた方がよいのではないかと悩む学生もいる。この「ゆらぎ」を言語化する場が、毎日行われるふりかえりである。

子どもを見送った後に行われるふりかえりでは、ユーススタッフの感じた「ゆらぎ」を言語化する。「高校には行かない、だからもう勉強しないと知っている」、「私が話しても何も教えてくれなかった」、「夕食の後少し話をしたら、親から何か言われたみたいだったよ」、「自分の言葉は聴いてくれなかったけど他のユースの言葉は聴いてくれた」、「次はどうしたらいいか」—学習支援の場ではあるものの学習に意欲を見せない子どもに対し、どのようにかかわればよいのかを模索する。表層に現れた「もう勉強しない」という言葉だけ聴くと「またそんなこと言って、困った子」となるが、親から心ない言葉を投げられたかもしれないその子の気持ちを推し量ると、「もう勉強しない」としか言えなかった子どもの背景が見えてくる。

ふりかえりの場では、表に現れた子どもの言動のみを捉えるのではなく、子どもの「問題行動」や表現の背景を考えていく。このことは、トラウマインフォームドなかわりと言える。学習性無力感による子どものようすを、「なまけ」や「やる気のなさ」と捉えるのではなく、小児期逆境体験 (Adverse

Childhood Experiences:ACEs)に由来するものと位置づけることで、子どもをエンパワーするかわりへと転化できるのではないか。これらの機序を明らかにすることは、今後の課題とする。

参考文献

荒木友希子 2000「教示による原因帰属の操作が学習性無力感に与える効果」心理学研究、70 巻6号、pp.510-516

工学院大学教職課程 2026『2025年度教職実践演習レポート集 わたしたちのめざす教師』

世田谷区 2020「子ども計画(第2期)後期計画」

津田知子・塩野高志 2026「生活困窮世帯等の子どもの成長と家庭の生活の安定に向けた学習・生活支援の拠点事業「まいふれいす」」「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウム 2025 三芳町 報告資料集」pp.162-168

西牧たかね 2019「勉強」に心を閉ざす子どもたちー学習支援以前の課題を考えるー」基礎教育保障学研究第3号、pp.36-43

Overmier, J.B.; Seligman, M.E.P. 1967 Effects of inescapable shock upon subsequent escape and avoidance responding. *Journal of Comparative and Physiological Psychology* 63: 28-33.

Seligman, M. E. P., & Maier, S. F. 1967 Failure to escape traumatic shock. *Journal of Experimental Psychology*, 74, 1-9.

参考 URL (最終アクセス: 2026年3月3日)

首都大学東京子ども・若者貧困研究センター 2018『東京都受託事業「子供の生活実態調査」詳細分析報告書』

<https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/fukushi/zentaiban>

東京都「子供の生活実態調査」の結果について

<https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/about/soshiki/koko/kikaku/oshirase/kodomoseikatsujittaityousakek>
ka

社会福祉法人福音寮パンフレット <https://www.fukuinryo.or.jp/pdf/pamphlet2022.pdf>

CDC 米国疾病予防管理センター <https://www.cdc.gov/aces/about/>

¹ 「低所得」は、保護者票から得られる世帯所得(勤労収入、事業収入等+社会保障給付)を、世帯人数の平方根で割り算した値(=等価世帯所得)が、厚生労働省「平成29年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯と定義する。東京都調査と調査年度が異なるため、参照する「国民生活基礎調査」も異なる年度のものを用いている。なお、ここでいう「低所得」は所得の定義の違いなどがあるため、厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」にて公表されている子どもの貧困率(13.9%)とは比較はできない。(世田谷区子ども・保護者アンケート調査 第3章生活困難の状況 p.33より)

² 公共料金、住宅費、食費、衣類費などの逼迫の状況を表す。具体的には、保護者票にて「過去1年間に経済的な理由で電話、電気、ガス、水道、家賃などの料金の滞納があったか、また、過去1年間に「家族が必要とする食料が買えなかった経験」「家族が必要とする衣類が買えなかった経験」があったかの7つの項目のうち、1つ以上が該

当する場合を「家計の逼迫」があると定義する。(世田谷区子ども・保護者アンケート調査 第3章生活困難の状況 p.33より)

³ 子ども自身の体験や所有物の欠如といった生活困難を表す。具体的には、保護者票において過去1年間において、「海水浴に行く」「博物館・科学館・美術館などに行く」「スポーツ観戦や劇場に行く」「キャンプやバーベキューに行く」「遊園地やテーマパークに行く」ことが経済的にできない、または、「毎月おこづかいを渡す」「毎年新しい洋服・靴を買う」「習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる」「学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)」「お誕生日のお祝いをする」「1年に1回くらい家族旅行に行く」「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」が「経済的にできない」、または、「子どもの年齢に合った本」「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」が「経済的理由のために世帯にない」(全15項目)である。これらの項目のうち3つ以上が該当している場合に、「子どもの体験や所有物の欠如」の状況にあると定義する。(世田谷区子ども・保護者アンケート調査 第3章生活困難の状況 p.33より)

⁴ なお、東京都調査では、生活困難層の割合は、小学校5年生は20.6%、中学2年生は21.6であった。%

⁵ 世田谷区子ども・保護者アンケート調査 第7章子どもの自己肯定感 pp.175-177より

⁶ 世田谷区子ども・保護者アンケート調査 第7章子どもの自己肯定感 p.180

⁷ 世田谷区子ども・保護者アンケート調査 第6章子どもの人間関係と居場所 pp.168-170より)

⁸ 世田谷区子ども若者総合計画(第3期)(令和7~16年度)でも子どもの貧困対策の推進が位置づけられており、そのうちのひとつが「まいぶれいす」である。このほかにも、様々な事情や課題を抱える家庭の小学生から高校生が平日の17時から19時に区内5地域で毎週行っている学びの場である「せたがやゼミナール」、ひとり親家庭等の子どもの学習支援である「かるかもスタディールーム」といった重層的な支援を展開している。

⁹ なお、「まいぶれいす」は国の児童育成支援拠点に当たるが、予算としては東京都子供の居場所創設事業補助金と生活困窮支援補助金を活用している。

総合的な学習(探究)の時間のプラン作成におけるテーマ設定に関して

内山 宗昭

(はじめに)

「総合的な学習の時間・総合的な探究の時間」の指導法に相当する科目が教職課程に設置されるようになって数か年を経る中で、工学院大学教職課程で同科目を担当しての幾つかの報告もしてきたが、教職教育の上で同領域の試案作成を通じて得られるメリット及び課題について引き続き検討したい。プラン作成の意義全般については既に報告しているので、本稿では特にプラン作成を試行する際のテーマ設定の傾向について考察したい。¹⁾

1. 「プラン作成」の試行とテーマ設定について

まず相当科目である「総合的な学習の時間の理論と方法」で筆者が試みている「プラン作成」について簡単に触れておく。2019年度より1年次配当科目で実施し7年度を経た。2020年度以降遠隔授業と対面授業のクラスを併設、2022年度より3クラスから2Q(クォーター・対面授業)・3Q(遠隔同時授業)の2クラスとして夏期集中クラスなしで現在に至っている。1クォーター1単位分の講義では、同領域についての基本事項の講義の後、参加学生に中学校「総合的な学習の時間」、高等学校「総合的な探究の時間」のいずれかのプラン1テーマの試案を作成してもらっている。テーマ選択・配当学年・時間数・対象校等は学生の任意としており仮想的な設定要素が多いが、1テーマで何時間展開してゆくか、その間の生徒の活動プログラム如何を考える。指導案のテンプレートは、「単元名」「単元設定の理由」「単元の目標」「単元の評価規準」「指導と評価の計画」(各ステップの作業と配当時間数/主な学習活動/評価規準と評価方法)の項目とし作成、そのうち1時限について「本時案」を各自のプラン中より任意に選択し作成することまでを要求している。

1クォーターの限られた時間であるが、学生は各自の計画案を「単元名」「単元設定の理由」「計画の概要」について考案し、「概要の発表」として行う。発表内容に対して指導助言を行い、参加者の指定質問者から質疑、参加者全体からはコメント・質疑を課題として集め、翌週資料化してフィードバックする。それを踏まえて指導案を概要からテンプレートに沿った様式に仕上げて行き修正を経て完成版を提出する。

設定テーマが具体的にプラン化出来るか、幅や掘り下げが可能か、生徒の活動を促すものになりうるか、設定理由如何をみて助言する。指導案全体においてステップが具体化されイメージされているか。「評価規準」は設定のねらいを多面的にとらえ深化し、より生徒の目線を意識したものに近づけうるか等について、補足説明を途中で実施して作成につなげてゆくようにしている。

テーマ設定作業のここでの意義は、①テーマ設定の広範さに臨んで如何に条件を定めて焦点化するかという視点をつかむ、②参考プラン事例の情報収集を活発に行う、③自らの問

題意識・教育観を見定める機会となる、④ 生徒(ここでは学生にも)に共感・共有してもらえ
るテーマを考量する、⑤自らの経験をふりかえる機会となる、⑥独自性・工夫を追究する
姿勢を得る、⑦活動・行動化を意識したテーマを想定する、という点に特に教職教育として
の意味があるのでないかと考えている。

設定テーマの一般的傾向に関しては、中学校においての割合の高い順から、「キャリア、
伝統と文化、地域の人々と暮し、福祉、防災、環境、情報、国際理解、食、生命、健康、安
全、町づくり、地域経済、ものづくり、社会と政治、エネルギー、科学技術」、高等学校普
通科の場合で、「キャリア、伝統と文化、国際理解、福祉・健康、環境、情報、社会と政治、
防災、町づくり」、その他も「福祉・健康」に次いで多く、「自己理解、進路研究、自主設
定テーマ研究」が含まれる当初からの状況から、キャリア教育と地域学習、持続可能社会を
意識した環境学習、多文化理解や福祉や安全教育、情報リテラシーに関してが、その基礎的
な分野対象となってきたとみた。そして今後も持続可能社会を意識した市民の知見・技能が
要請されること、情報分野、福祉、安全教育の重点化を予想した。²⁾ 探究学習のテーマに関
しては、中学校で「職業、福祉、国際理解、伝統文化、環境、勤労、防災、情報、町づくり、
生命、食、地域経済、健康、ものづくり、資源エネルギー、科学技術」、高等学校で「職業、
国際理解、環境、情報、勤労、福祉、伝統文化、地域経済、防災、町づくり、生命、食、健
康、ものづくり、資源エネルギー、科学技術」の順位とともに「ものづくり、資源エネルギ
ー、科学技術」の「サイエンス」の低位を指摘している。³⁾ 当初の今後にかけての設定テ
ーマの傾向は必ずしも上記の予想通りとは断定できず、分類の在り方も工科系の立場から捉
え直すとクロスするテーマが多いこと、同じく「サイエンス」の捉え方も別の類型からの捉
え方が可能であること等、類型の仕方自体も検討の余地があると考ええる。

以下ここでの類型は仮に、「SDGs モデル」「環境問題」「防災対策」「地域創生」「キャリア
教育」「情報」「国際理解」「教育問題」「その他」とした。これは工科系の本学としての傾向
に関わる順位性による。「SDGs モデル」としたのは総合的な設定というモデルで、当該目標
テーマが多領域にわたった関わるわけで、その中から生徒が選択をする想定プランだが、
ただし実際の想定選択肢は「環境・エネルギー」系が多い。

2. テーマの傾向性・類型について

プラン作成における本学での 2020 年度からのテーマ設定の様子を追ってみる。

【2020 年度】

2020 年度はコロナ対応で工学院大学ではオンライン授業を実施、3 クラスあっても受講
は少な目であった。初等中等教育の現場でもオンラインでの授業展開や社会問題としての
リスクの重要性が喚起されて当領域のテーマ設定に影響してきたとみる。当領域の特性か
らすれば以前よりリスク対策のテーマは少なくないが当期以降はより具体的な対応を意
識した提案となってきたことは確かである。「プラン作成」条件の要素として、この時期
は学年指定を特に指示していなかった。汎用性と特定化のいずれで考えてゆくことが練習

になるのか、この時期は筆者の指導方針が明確でなかったが、学年指定に関してはその後設定することとした。時間数の設定は、8 時間から 15 時間までであった。設定テーマに関しては、類型的な「SDGs モデル」については差異化を求めることを常に要求してきている。単に先行モデルは禁止という意味ではなく、実際には「先行事例の研究」と「各自の発案」との両面において如何に設定しようとしているかも指導・助言に関わる大事な要素でもあって、その点では完全なオリジナリティー以外を不可としているわけではない。「環境問題対策」と「地球温暖化」が 2 件、その後も多いテーマ類型だが、後者のように同テーマにかぶった場合には、その差異化を要求することとしている。「コロナ」自体のテーマもみられ、「地域災害マップ」も既存のモデルに加えた当期のリスク管理という社会的問題意識を直接に反映した設定となっていた。他「プログラミング」があり、「情報」分野という学科に由来する特性も見られたが、特にコロナ下での設定の意義をみていた。また、ここでは「その他」に相当する「議論の仕方」「自分が打ち込んでいること」「身近な交通状況の安全性」といった各自の関心・発想に引付けた観のあるテーマ設定が目をついた。

【2021 年度】

2021 年度は少数クラスで教育問題「消えないいじめ」、その他の「五輪に地域住民として出来ること」のようなその時の時事的なテーマ設定も見られ特徴があった。「教育問題」は教職課程履修者の意識には工科系であってなお「教育」について強い関心を持つゆえの設定がみられる。

夏期集中授業は受講者も増え多少なりとも類型的にテーマを把握できるようになった。

◆2021 年度夏期

・SDGs モデル：「SDGs」3 件、前述のように差異化を導く。「主題設定の理由」にはニュアンスの違いが読み取れた。分野選択からプレゼンというオーソドックスなもの。企業での取り組み調査。大学での SDGs 関連の体験を高校へ反映させたいとの意図からのものとする。

・環境問題：「人間以外の動物が起こす環境問題」

・防災対策：「災害対策」

・地域創生：「地産地消のイベント企画」

・キャリア教育：「職場体験学習」「10 年後の自分」

・国際理解：「地域での国際理解」

・教育問題：「いじめについて発信」

・その他：「社会問題解決のための科学技術案」「海岸沿いでの生物調査」「学生フォトコンテスト参加(その導入)」「地域の地名の由来」。「その他」に独自設定の要素が強く出ており、設定理由に「取組から導かれるもの」を十分企図していることが窺われた。

【2022 年度】

◆2022 年度(対面授業)

- ・環境問題: 「ごみ問題」
- ・防災対策: 「大災害」
- ・キャリア教育: 「キャリア教育」3件、各々「具体的将来設計」「未来の姿をイメージとして描く」「学生としての自分のテーマを前倒しに」と少しずつ力点を異にした。「感染症と進路」「人間の仕事とAI」はクロスしたテーマであるが時事を反映するものであった。
- ・国際理解: 「海外を知る」「海外を英語で紹介」「世界平和の実現」「戦争と平和の理解」、後者2件は平和教育の関心。
- ・教育問題: 「世界の学校との違い」
- ・その他: 「マネーとは(生計と税金)」「ごみで育てる植物」「海を知る(防災・海洋産業まで)」「オリジナル雑誌をつくる」「エッグドロップ・考えるための実験」レベル設定の検討という別角度からテーマを考量している。全体に工学分野の専門性も反映している面がみられた。

◆2022年度(遠隔同時授業)

- ・SDGsモデル: 「SDGs」4件、環境を想定、現代理解を進めるというねらいの焦点化、また「SDGsの次に」を想定しているものもみられた。
- ・環境問題: 「環境問題・エネルギー問題」3件、「原発の必要性」「ごみ分別」「環境汚染」「多摩川の環境」地域性とクロス。所属学科特性も関わる。
- ・キャリア教育: 「職業調査(大学・企業取材)」4件
- ・国際理解: 「異文化コミュニケーション」2件
- ・教育問題: 「幼児保育体験」
- ・その他: 「納税」。「ジェンダー」「バリアフリー(街づくり)」ようやく共生的なテーマが出て来た。「微積は身の回りでどう使われているか」教科の発展応用学習と工科系の特性も出している例。

【2023年度】

◆2023年度(対面授業)

- ・SDGsモデル: 7件。典型的選択型その他、選択候補として「地域貢献」「企業目線」「生徒の対案」「気候変動に焦点化・総合化」「臓器提供」「SDGsMovie 演劇・紙芝居・動画等で1作品を完成」のようにあった。
- ・環境問題: 「フードロス」
- ・地域創生: 5件。「自分の町の歴史(普通の町の歴史・郷土史からみえるもの)―防災も」「地域紹介」「地域再発見」「地域問題の解決」「地域を対象に「データ分析」」。最後のものはデータ分析に焦点をあてている。
- ・キャリア教育: 「一人暮らしをはじめてみよう」「未来の職業(継続と新規と)」
- ・情報: 3件。「情報モラル」「AIと社会」「情報リテラシー」

・その他：「文化祭新企画」学校行事との連動タイプ。「押しを布教しよう」例として韓国アイドル等プレゼンすることで生徒誰もが参加可能なことをねらい、加点要素として国の背景・人気の要因・経済効果等裏面まで分析考察することを期待し考量していた。「企業の新企画書」キャリア教育ともクロスか。「同調圧力への対応」「ジェンダー」「課題研究(研究ノートの書き方・高大連携想定)」

◆2023年度(遠隔同時授業)

・防災対策：「身近な危険区域」
・地域創生：「地域活性化プロジェクト」「地域産業(居住地)」
・キャリア教育：「社会的マナー」
・国際理解：「グローバル化」賛否・長短が議論できることが設定理由。
・その他：「テクノロジー」言葉からのイメージ導出も大事にしている、「町の課題から町づくりへ」「日常から発明」「紙媒体を買ってもらうには」「賛否両論を」「模擬裁判」「臓器提供」「パスタブリッジコンテスト」大学の導入教育でも使っている手法を意識、「探究(研究発表を想定)」

【2024年度】

◆2024年度(対面授業)

・SDGsモデル：「SDGs」
・環境問題：「環境問題」「生分解性プラスチックの実験を通して」「環境と生命」「環境問題と進路」
・防災対策：「地震対策」「ハザードマップ作成」「地域の防災」
・地域創生：「地域の歴史と未来」「地域紹介」「住みなれた町をもっと住みやすく」「地域の特色を活かした町づくり」「地域活性化への取り組みをみる」「地域イベント」「地元の伝統文化」「地域高齢者に昔遊び・郷土料理を教わる」
・キャリア教育：「職場体験(学生としてのバイト経験より)」「職業調べ」「未来の仕事探究(AI化の中で)」「なぜ働くのか」「キャリア教育(学年設定により違い)」2件
・教育問題：「校則改正」「学校活動の意義」
・その他：「選挙」「都知事選から政治について」「模擬国連」「起業へ」「ユニバーサルデザイン」「寄生と共生」「世界の技術の発展と需要」

◆2024年度(遠隔同時授業)

・SDGsモデル：「SDGsと身の回りの生活」「インタビューで探る地域のSDGs」
・環境問題：「エネルギー問題(工学分野としての専門性を加える)」「昆虫食」「河川水質汚染」「自然保護活動と参加」
・防災対策：「災害対応」「防災の三助(自助・共助・公助)」「災害対策(自助個人として身

を守る)-対象の焦点化」「バザードマップ」2件、学校近辺中心探索型と地域特性の違い研究型と。

- ・地域創生：「市区町村の魅力(対象自由設定)」
- ・キャリア教育：「職場体験」「社会人マナー・面接」学生としての体験より先行。
- ・国際理解：「自国の歴史を教え合う」
- ・その他：「科学技術(文系を意識して)」、「社会問題・ディベート」「論文」

【2025年度】

◆2025年度(対面授業)

- ・SDGsモデル：「SDGs」典型の選択型
- ・環境問題：「省エネ対策」「再生エネルギー」「給食から環境を考える」「地域の自然保護」
- ・地域創生モデル：「地域創生・地域発信」6件
- ・キャリア教育モデル：「キャリア教育」8件
- ・情報：「デジタル政策—大臣になったつもりで」「情報リテラシー」「国際報道・メディアリテラシー」
- ・教育問題：「自分の授業づくり(高2)」「教科書・教材の検証」「学校像」2件。
- ・その他：「理科実験」「利用したくなるゴミ箱作り(技術教育)」教科との連動を意識、「伝統文化」「税制」「投資」「未来タウン建設」「翻訳機と言語学習」「アイディア」「生物模倣から社会を考える」「社会問題と緩和方法」「アートをを用いた現代研究」東京芸術大学の展覧会よりヒント。

◆2025年度(遠隔同時授業)

- ・環境問題：「1杯のコーヒーから考える環境問題」関西万博の企画また個人の趣味・嗜好をヒント、「エネルギー(持続可能性)」「食品ロス」廃棄の前にとという視点の焦点化
- ・防災対策：「地域の防災学習」
- ・地域創生モデル：「地域の郷土料理」
- ・キャリア教育：「SNSマナー含む社会マナー」2件、現代社会を生きるための必須マナーの在り方としてキャリア教育の新たな側面を強調。
- ・情報：「フェイクニュースをどう見破るか」「情報社会と人権」「デジタル社会と詐欺(詐欺する側から考える)」「自然科学(数学・物理・化学・生物・地学・情報学6分野)とネットリテラシー」
- ・国際理解：「世界の文化・多様性」「八王子と国際交流」大学立地からモデルとして提案
- ・教育問題：「給食」
- ・その他：「犯罪と罰則」「日本の伝統芸能」「学校生活から見つける科学技術(制御技術)」専攻との関係、「バンドサウンドを分析」音作りと理念の関係/印象の客観的なデータ化について、「バイオテクノロジー」「当たり前を問い直す」

3. 設定テーマからみる特性と意義

SDGs のような推奨モデルによるタイプ、生徒時代の経験によるタイプ、工科系の関心によるタイプが中心となっているが、類型化はしていてもクロスするテーマもある。「その他」においても同様である。

「SDGs モデル」は当領域に推奨されてきている典型でもあり⁴⁾、本設定が好まれる要因は現代社会の問題を公的に総覧した概括テーマとその選択としての個別テーマさらに具体策へという展開の構造が生徒の取り組みに適しているとみなされるからである。⁵⁾ 基本講義でも例として ESD モデルを出しているのが当然影響があるが、「SDGs モデル」提案の場合の差異化を強く指導しているためか少なくなった。

授業テーマの創造性・独自性をどうみてゆくかは生成 AI 時代の課題で、「借り物」からの工夫とその距離をどうみるかは現在の教職教育でも課題と考えている。まったくのオリジナルの期待よりも、工科系ゆえの各々の専門分野や関心からくるテーマ選択の傾向やニュアンスの在り方も評価すべきである。

一般的傾向としての環境問題・キャリア教育・地域創生が優位で、国際理解・ジェンダー特に多文化的な視点に関わるテーマが相対的に順位が下がることも共通しているが、確かに設定テーマの傾向性に工科系ゆえの特色が現れている。①環境問題の場合もアプローチは工学的であり、学科専門に重なるレベルから入門的にであれ工学志向のコンセプトがある。例えば「持続可能性」の理解の仕方にも工学志向が現れていると感じる。②前節でみたようにサイエンス関連テーマの設定が少ない点が一般的に指摘されていたが、その点では相対的に逆の順位といえる。③教科としての理数系という意味を超えて工学というクロスする応用領域にテーマの方針を求めているので、本学で言えば、免許教科との関係すなわち理科・数学・技術・工業・情報という教科に即した文脈よりも、学科の専門性や工学全般に関わるコンセプトすなわち応用化学・応用物理・機械・電気電子・建築・情報といった領域に即した文脈が窺われる。それは必ずしも所属学部学科に限定されるという意味ではなく、その意味での括り・総合化が視点にあって、例えば、町づくりは建築として、情報リテラシーも情報の広い中での位置づけとしてとらえるのである。一方、文系や中学 1 年からの一般教育としての段階を意識して企画しつつニュアンスを反映させ得るか主題設定のねらいの中で表明している。その点では生徒時代の文理選択を意識した設定も少なくない。文系対象に科学リテラシーの機会を提供する問題意識がベースにみられる。

テーマを設定するところには、結果として学生自身の教育観が問われているとみている。その意味では教職科目「教育原論」に通じる面もあると気づかされる。教職課程教育の段階で「テーマ設定」を問うことは、その学生の教育観を形成してゆく意味があって、クロスカリキュラムとしての教育原理を問われ、教科を超えた、それに先立つ原理如何を考えるに至る。パッケージ化された問題意識から、それを超えることを試みる一歩が互いに求められているのかもしれない。

指導案にとどまらず教材まで作成してくる意欲的な学生もいる。「地域創生」でも「地元」か「別地域での立案」か、対象を「狭く具体化して設定」するか「広く一般化して設定」するか、「実質陶冶」的か「形式陶冶」的か、同じテーマでも試行錯誤を重ねて設定の意味を吟味していつている。工夫に労を厭わない学生が少なくないのも工科系の本学の特色と評価しているところである。

(結び)

プラン作成試行のうちテーマ設定に関して取り上げ、その類型と傾向性について本学を例にして考察したが、設定のねらい如何で同タイトルであっても文脈は大いに違ってくる等、テーマ類型以外の角度からも検討が必要である。

付言しておくべきは、教職課程での教育段階でのプラン作成の試行で事足りるわけではないのは当然で、作成後のふりかえりコメントで必ず述べるのは、プラン作成の後、1) クロスカリキュラム等特性の違いはあるものの、1,2 学年が受講生の中心なので、3 年次の「教科教育の理論と方法」での指導案・模擬授業づくりの機会に発展させること、2) 参考プラン事例情報収集の継続、3) 教育実習での実施では、その学校での特色あるプラン・実施方法に着目、4) あらためて本領域の意義・特性を考え、クロスカリキュラム、現代社会の課題とは何かを問う視点、形式陶冶への着目、探究学習の文脈等キー概念に即して学修を続けること、以上の期待である。

(註)

1) 拙稿「『総合的な学習の時間』『道徳教育』の理論と方法をめぐって—両者の比較からの一考察—」工学院大学教職課程学芸員課程年報第 27 号・pp. 79-83・2025 年 3 月参照、他拙稿関連論文も同記載。

2) 拙稿「『総合的な学習(探究)の時間の理論と方法』の実施と課題—実施の振り返りを中心に—」工学院大学教職課程学芸員課程年報第 22 号・pp. 105-115・2020 年 3 月参照。「総合的な学習の時間の実施状況(平成 30 年度計画)」(文部科学省『平成 30 年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査結果』)p. 15。「総合的な学習の時間の実施状況」(文部科学省『平成 27 年度公立高等学校等における教育課程の編成・実施状況調査の結果について』)p. 8。竹腰千絵「総合的な探究の時間における「探究テーマ設定」に関する一考察—3 校の実践にみる「主体的・対話的で深い学び」につなげる工夫」沖縄大学教職実践研究 15・pp. 1-14・(2025 年)では、「現代的な諸問題に対応する横断的・総合的な課題(国際理解・情報・環境・福祉等)」「地域や学校の特色に応じた課題(街づくり・伝統文化・防災等)」「生徒の興味・関心に基づく課題(教育・医療等)」「職業や自己の進路に関する課題」と学習指導要領を基に設定類型を整理している。

3) 文部科学省「総合的な学習・探究の時間に関する現状・課題と検討事項」(2025 年 10 月 15 日)p. 34。

4) 小玉敏也・金馬国晴・岩本泰『総合的な学習/探究の時間—持続可能な未来の創造と探究—』(SDGs と学校教育)学文社・2020 年 9 月・p. 5, 35, 46, 63, 135 参照。

5) SDGs を設定として選びやすいのはモデルとしての情報量の多さとともに、テーマ設定の要件(現代の喫

緊の社会問題としての認知度・共有性/テーマを下位レベルに焦点化可能/実践レベルに落とし込める/生徒の日常・学校生活の延長で捉えられる/企業倫理でもありキャリア教育の側面も持つ)を備えているからで趣旨に適うと結びつくからであるが、そこからの深化や更なる焦点化が鍵として助言している。

(参考文献)

酒井淳平『探究的な学びデザイン』明治図書・2023年2月。

工学院大学 実地視察日程表

日時：12月25日(木) 13:00～16:40(オンラインによる視察)

時間	事項	備考／講義・施設の名称	対応者
(12:45)	集合	本部:5階会議室	
13:00	紹介・挨拶・日程確認(10分程度)	・文科省担当官が司会。本学の出席者から挨拶。	学長・副学長 教職課程科
13:10	講義・施設見学(60分程度)	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術教育の理論と方法B(第28回目) ・教育原論(第28回目) <p>【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生センター内教職書籍コーナー ・附属中学校技術室 ・図書館(八王子キャンパス) ・教諭能力開発備品倉庫(八王子キャンパス) 	教職課程科
14:10	教職課程概要説明(30分程度)	・視察事項に沿って説明。	学長・副学長 教職課程科
14:40	質疑応答(60分程度)	・視察事項に沿って質疑応答。	教職課程科
15:40	視察側打ち合わせ(30分程度)	(ブレイクアウトルームにおいて)	—
16:10	講評、意見交換(30分程度)		学長・副学長 教職課程科
16:40	終了		

事務局:教務課

工学院大学の視察事項 12月25日(木)

1. 【教員養成に対する理念、設置の趣旨など】(調査票Ⅲ関連)

本学における教員養成の基本理念は、本学全体また学科の理念・目的に基づきながら、科学技術の意義、社会的役割を理解した人間性あふれる実践力を備えた教員を養成することにある。持続型社会をささえる科学技術の社会への普及には、これを支える教員養成の充実が重要な課題であり、本学は理工系教科の教員免許を取得できる大学として、先端的な科学技術の内容をやさしく教えることができるとともに、今日の様々な教育問題を理解しそれに取り組む熱意を持った教員を送り出すことを目指す。社会人への教職への支援も念頭に、本学において行われる専門教育に即した中学校および高等学校の教員養成を行う。(調査票 14 ページ)

- 1-1. 貴学の教職課程において「先端的な科学技術の内容をやさしく教えることができるとともに、今日の様々な教育問題を理解しそれに取り組む熱意を持った教員を送り出すことを目指す」とありますが、それぞれのカリキュラムにどのように反映していますか。個別の授業科目名を例示しつつ御説明ください。
- 1-2. 教員養成に関する貴学の取組の中で、近年新たに始めた取組や、特に特色があると思われる取組などがあれば、取得可能な免許の専門性を確保するという観点、また、学校現場に求められている課題等も踏まえ、御説明ください。

2. 【学生への組織的な指導体制】(調査票Ⅱ関連)

教育職員免許法施行規則において、課程認定を有する大学は、学生への適切な教職指導の努力義務や、大学内の組織間の連携体制整備、自己点検・評価の公表等について定められています。

(参考) 教育職員免許法施行規則(昭和二十九年十月二十七日文部省令第二十六号)

第二十二条の四 認定課程を有する大学は、学生が普通免許状に係る所要資格を得るために必要な科目の単位を修得するに当たっては、当該認定課程の全体を通じて当該学生に対する適切な指導及び助言を行うよう努めなければならない。

第二十二条の七 二以上の認定課程を有する大学は、当該大学が有するそれぞれの認定課程の円滑かつ効果的な実施を通じて当該大学が定める教員の養成の目標を達成することができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする。

第二十二条の八 認定課程を有する大学は、当該大学における認定課程の教育課程、教員組織、教育実習並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

- 2-1. 令和3年5月7日の教育職員免許法施行規則の改正により、令和4年4月から教

職課程を設置する全ての大学は、教職課程を実施するためのカリキュラムや教員組織、施設及び設備の状況等について自ら点検・評価を行い公表することが義務付けられるとともに、複数の認定課程を有する大学は組織間の連携体制を整備することとされています。これらの進捗状況はいかがでしょうか。また、事務担当者への教職課程の基準等に関する理解を促す取組や異動時の引継ぎはどのように行っていますか。

3. 【教育課程・シラバス・教育研究実施組織】（調査票Ⅱ、様式第2号、シラバス関連）

3-1. 教育課程・シラバスについて

- (1) シラバスについて、1回や、1単位の考え方をご教示いただきたい。（授業時間が28回と30回の授業が散見される。）
- (2) (1)と関連して、シラバスについて、集中講義で3日と記載されている授業等（例えば「特別なニーズ教育入門」）が、1日何時間行われている授業か判然としない。単位修得に必要な授業時間が確保されているかわかるように記載すること。
- (3) シラバスの記載内容について、授業科目によってかなり幅がある印象を受ける。特に、教職コアカリキュラムに関連する科目についての全学での点検体制について御説明いただきたい。
- (4) 試験は授業回とは別に実施する必要があることから、試験のみの授業回の設定はできないので、修正すること（シラバスP16、19など）
- (5) 建築学部まちづくり学科、建築学科、情報学部情報デザイン学科の課程など、共通開設が半数以上と比較的多い学部学科等があるように思われる。貴学においては、学科等の目的・性格と免許状との相当関係についてどのように考えているか。

3-2. 教職課程における教員の配置の考え方について御説明ください。

- ・教職専任教員の教育研究業績の分野
- ・実務家教員の比率 など

3-3. 教職課程の不断の見直しを行うだけでなく、各授業科目を担当する教員の資質を確保するためにどのような取組を行っているか御説明ください。また、教員が継続的に研究業績を積むことができるような環境整備に関しても御説明ください。

3-4. 教職課程に関するFD等はどのように実施されているのか御説明ください（特に学習指導要領の改訂や新しい法の施行、制度改正等について）。

4. 【教育実習】（調査票Ⅳ関連）

教育職員免許法施行規則第22条の5において、教育実習の円滑な実施について努力義務が課されています。

(参考) 教育職員免許法施行規則 (昭和二十九年十月二十七日文部省令第二十六号)

第二十二條の五 認定課程を有する大学は、教育実習、心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習、養護実習及び栄養教育実習 (以下この条において「教育実習等」という。) を行うに当たっては、教育実習等の受入先の協力を得て、その円滑な実施に努めなければならない。

4-1. 教育実習の受講資格を満たしていないが教員免許を取得したい学生にはどういった指導を行っているのか御説明ください。

4-2. 障害のある学生について、教育実習及び教育実習以外で配慮していることがあれば御説明ください。教育実習校と連携を取った事例があればあわせて御説明ください。

4-3. 「3. 学校体験活動・学校支援ボランティア活動等の取組状況」に記載ある取組について、参加状況について御説明ください。また、その効果についてどのように評価しているのか御説明ください。

4-4. 学校体験活動を含め、教育実習をより効果的なものとするために、大学として特に工夫している取組があれば御説明ください。

4-5. 教育実習等におけるハラスメントの防止及びその適切な対応等について (令和5年3月29日付4教教人第48号) で教職課程を置く大学には教育実習中に学生がパワハラ等の被害を受けた場合、直ちに学生が相談できる窓口等について周知を求めています。学生にはどのような取組を行っていますか。また、ハラスメントの有無の把握やその後の対応、教育実習の適切な時間の管理について、教育委員会や学校等との調整状況等を含めどのような取組を行っていますか。受け入れ先の学校の指導教員との共通理解を得る方法や指導教員の負担軽減策 (学生個人の評価票の記載内容削減など) の検討状況についても御説明ください。

5. 【学生への教職指導の取組状況及び体制】 (調査票Ⅵ、Ⅰ関連)

5-1. 履修カルテの記載又は活用状況について御説明ください。また、履修カルテを使用することで、学習指導及び進路・生活指導への利点等はあるか御説明ください。

5-2. 教職課程の履修指導では、どのような課題があり、どのような工夫を行っていますか。

①ガイダンス等の履修指導、②履修カルテの活用、③教科に関する専門的事項/教育の基礎的理解に関する科目等の履修方法に関する指導の観点から御説明ください。

5-3. 教育実習等で学生が教師への道を諦める事例がありますが、そのような学生に対して再度教職の道を歩ませるようなフォローやサポートは行っていますか。もし行っているのであれば具体的に御説明ください。

5-4. 教職課程の履修指導以外で、教職を志す学生に対し、組織的・計画的に取り組んでいるものがあれば御説明ください。

5-5. 免許状取得者数、教員就職者数を貴学ではどのように分析していますか。教職課程の在り方や今後の方針について貴学としての考えも含めて、御説明ください。併せて、教職特別課程の現状や、課題・問題点を御説明ください。

工学院大学 教員就職者数（卒業・修了年度別）

2025年3月28日現在

年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
学部	1	4	3	4	11	13	9	4	14	16
大学院	0	3	0	1	1	3	2	0	0	1
教職特別課程	11	4	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	12	11	3	5	12	16	11	4	14	17

6. 【教育委員会等の関係機関との連携・協働状況】（調査票Ⅳ3 関連）

6-1. 教育委員会・学校との連携について取り組んでいるものがあれば具体的に御説明ください。また、どのような取組が特に効果があると感じているか御説明ください。

7. 【その他】

7-1. 令和4年12月19日に中央教育審議会において、「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」が取りまとめられましたが、これを踏まえ貴学で取り組んだものや現在検討しているものがあれば御説明ください。

7-2. 学生から、大学教員の授業に対する評価・要望・感想などに耳を傾ける何らかの取組・工夫をしているか御説明ください。もし取組があれば、これらの評価等に対して、大学や大学教員はどのような改善を図っているのか御説明ください。

7-3. 教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律が令和4年4月1日に施行され、同法第13条第3項で「教育職員の養成課程を有する大学は、当該教育職員の養成課程を履修する学生が児童生徒性暴力等の防止等に関する理解を深めるための措置その他必要な措置を講ずる」こととなっていますが、具体的な取組について検討段階のものも含めて御説明ください。

7-4. 調査票のⅢ3において、科目等履修生の受け入れについて記載されていますが、貴学には教職課程を目的とした科目等履修生がどれくらい在籍されているかご教示ください。

以上

KOGAKUIN UNIVERSITY

大学概要

工学院大学学長 今村保忠
(生命化学科)

1

KOGAKUIN UNIVERSITY

<p>137年 創立 明治20 (1887)年～</p>	<p>7,003名 学生数 学部 6,237名 (1,360名) 大学院 766名 (141名) [留学生 66名]</p>	<p>4学部 15学科 大学院 1研究科 5専攻 <small>※システムデザイン専攻は学生数集計されていない</small></p>
<p>理事長/学長 今村保忠</p>	<p>168 研究室数</p>	<p>42校 海外 協定校</p>
<p>339名 専任教職員数 教員 222名 職員 117名</p>	<p>大学間協定・提携 東京四工大 (芝浦工大/電機大/都研大) 東京薬科大、東京医科大 東京経済大</p>	

※2025年5月1日現在 2

2

KOGAKUIN UNIVERSITY

工学院大学
新宿キャンパス

工学院大学
八王子キャンパス

工学院大学附属
中学校・高等学校

キャンパス間が最速45分
専用のシャトルバスが運行され、研究や課外活動、就職活動にも便利です。
通学の足としても利用されています。

八王子キャンパスに隣接する
附属中学校・高等学校

3

KOGAKUIN UNIVERSITY

社会産業と最先端の学問を幅広くつなぐ「工」の精神

1887年 工手学校創立

我が国初めての私立の工業学校として創立され、「工手」（中堅技術者）を育成することを目的に、日本の工業を支える 働き手を養成する学校としてスタートした。以来、科学技術の発展とともに、工学を中心とする高度な技術を教育・研究する大学として発展し、21世紀工手（各界で活躍する時代に即したエンジニア）の育成に取り組んでいる。

本学の創設に関わった先生

初代学長
初代学長 伊野野 哲

土木の最高權威
東京地下鉄総裁
伊野野 哲

工手学校
初代校長
伊野野 哲

東京駅など
煉瓦建築の大家
伊野野 哲

顧問奨励員
震災復興に尽力
伊野野 哲

4

KOGAKUIN UNIVERSITY

工学院大学 新宿100年のあゆみ

1923年 (大正12年)
震地校舎が開東大震災で被災
淀橋町角舎 日本学園中学校を間借りし、授業再開

1928年 (昭和3年)
淀橋町角舎 新校舎落成
工手学校を工学院と改名改称

1949年 (昭和24年)
新学制 工学院大学としてスタート

1988年 (昭和63年)
現・工学院大学新宿キャンパス竣工

5

KOGAKUIN UNIVERSITY

建学の精神 社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ「工」の精神

1887(明治20)年 工手学校

1949(昭和24)年 工学院大学へ

1987(昭和62)年 工学部

21世紀の社会・産業

多様化・多文化社会
專業の高度化・複雑化
経済活動のグローバル化
顧客が、専攻分野を超えて互に人材

社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ「工」の精神の発揮とグローバル展開

学問の融合から新たな知識・価値を創造
21世紀型ものづくり

工の精神の進化・奇跡

6

KOGAKUIN UNIVERSITY

未来の学園に向けたVISION150

私たちはグローバル化がますます進展する21世紀社会においても、「社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ『工』の精神」を深化・発展させ、「無限の可能性が開花する学園」をめざします。

ビジョン
社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ『工』の精神の発信とグローバル展開

ミッション
社会の発展につながる科学技術分野への創造的な寄与と継続的な貢献

バリュー
「誠実」「創造」「行動」「応用」「発信」「共感」「多様性」「美意識」及び「絆」

7

7

KOGAKUIN UNIVERSITY

進 目
アドミッションポリシー
カリキュラムポリシー
ディプロマポリシー

内 容	実 施 方 針 (目的)
学修成果の評価方針 (アセスメント・ポリシー)	教育課程(カリキュラム)で設定された学習目標の到達(達成)評価に加え、さまざまな学習活動を通して身につけられる汎用的能力などの測定・把握をし、その結果に基づき教育改善を行うことを目的とする。
学生支援方針	すべての学生に誰かかで先生・関心、快活な学生生活を提供し、多様な価値観をもつ人間性成長と自立の realization を目指し学生生活の充実をめざす。
教育研究等環境の整備に関する方針	本学に所属する学生および教職員を含む教職員の教育研究環境の維持管理・整備、競争的研究所等専攻専攻、ディプロマ・アセスメント(TA)、リサーチ・プラットフォーム(RA)、その他最先端教育研究設備の充実に努める。併せて、学内の情報化に基づき、コンプライアンス教育および研究倫理教育に際して、FD・SD活動を通して多様な価値観を認め、適正な教育研究活動が行えるよう体制を整える。
国際化推進の基本方針	全般的な視野から本学の優れた特色、研究分野をさらに国際化させ、そこで生み出された成果を広く発信し、国際社会に貢献することを目指す。
社会連携・社会貢献方針	本学は、「教養」と「研究」に並ぶ第三の使命として、「社会連携・社会貢献」を掲げ、それらを連携によって対応する機能を目標とする。
内部質保証の方針	本学の建学の精神に基づき、教育・目的を達成するため、本学は自らの責任において、教育研究活動が適切な水準にあることを保証し、常時、継続的に向上を続ける。
IR方針	学内外のさまざまなニーズおよび地域の発展、管理・分析ならびに可視化を行い、本学の持続的な大学運営の意思決定、推進および発展につなげることを目指す。

8

8

KOGAKUIN UNIVERSITY

本学の教育研究の目的を踏まえ、学生が身につけるべき以下の能力を修得したものに学位を授与する。

- 基礎知識の修得**
 - 自然科学に関する基礎知識や概念を身につけている。
 - 人、社会および文化に関する基礎的な知識や教養を身につけている。
- 専門分野の知識・専門技術の修得**
 - 学部学科毎に示される専門分野の知識を修得している。
- 汎用的問題解決力の修得**
 - 現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。
 - 課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。
 - 日本語を用いて、自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。
 - 英語を用いて、異文化・多文化の中で基礎的なコミュニケーションができる。
- 道徳的態度と社会性の修得**
 - 自己を律し、継続的に学習して知識や能力を高めることができる。
 - 豊かな人間性を備え、相手を理解・尊重しつづ、チームの成果に貢献することができる。
 - 人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、高い倫理観を持って自らの社会的責任を果たすことができる。

9

9

KOGAKUIN UNIVERSITY

10

10

KOGAKUIN UNIVERSITY

学長：今村保忠

大学執行部

- 副学長 渡部隆史 教授 統括、企画、内務費保証・IR
- 副学長 野澤 康 教授 キャンパスリニューアル、入学広報、就職キャリア支援
- 副学長 滝田ゆき 教授 教学、学生支援
- 学長補佐 朝山龍守 教授 大学院工学研究科長、大学院
- 学長補佐 小林元康 教授 総合研究所所長、研究
- 学長補佐 青木俊忠 部長 事業推進、グローバル、ダイバーシティ

11

11

KOGAKUIN UNIVERSITY

専門性の高い理工系大学ならではの就職を実現するため、「大学での学びや研究を活かしたキャリア形成・就職支援」に取り組む

就職内定率 97.8%	求人企業数 17,244社	大学院進学率 31.2%
第3志望までの企業等への就職率 96.8%		上場企業への就職率 43.0%

- 企業からの評価：真面目でコツコツと出る学生が多い
- 各系列での学びを活かした職種へ就職を今後さらに拡大の方向
- 大学院生支援の強化

12

12

KOGAKUIN UNIVERSITY

- ・体育会
- ・文化会
- ・委員会
- ・学生プロジェクト（大学支援の創造活動）
 - ・工学院大学ソーラーチーム（特別重点支援）
 - ・学生フォーミュラ
 - ・KRP（工学院大学ロボットプロジェクト）
 - ・Birdman Project Wendy
 - ・Science Create Project
 - ・みつばちプロジェクト
 - ・WA-Ropro
 - ・電子ロボットプロジェクト
 - ・VRプロジェクト
- ・工学院大学学生チャレンジ活動奨励金
 - ・工学院ハッカソン
 - ・パワーカー—競技での世界への挑戦
 - ・リサーチプロジェクト
 - ・本工休校教室「本工学院」



3

13

KOGAKUIN UNIVERSITY

Kogakuhin University Alumni Association
KOYUUKAI

校友会（OB会）
 ・学園への協力
 ・在学（校）生への振助
 （学生活動への資金援助、奨励金の支給 等）

工学院大学 後援会
KOGAKUIN UNIVERSITY

後援会（保証人の会）
 ・全国組織（21支部）
 ・学生活動への資金援助
 ・保証人に向けた成績や学校生活に関する個別面談（オンライン）
 「個別面談（1年生：秋頃）」
 「父母懇話会での個別面談（2年生以上：5月～7月頃）」

大学、後援会、校友会は一体となって学生の支援に関わる

1
4

14

KOGAKUIN UNIVERSITY

キャンパスライフバージョン	特長	1・6限授業のオンデマンド化が進む
教育のデジタル化・DX推進	特長	文部科学省「数値・データサイエンス・AI教育プログラム」（リテラシーレベル・応用基礎レベル）に全学部で認定
デジタルツインラボ	特長	文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」を受け、デジタルツインラボを設置
DX実践ラボ	特長	文部科学省「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」を受け、DX実践ラボを設置
航空理工学専攻	特長	航空理工学専攻初、「エアラインパイロット指定校推薦コース」における訓練を修了し、JALが実施する自社養成パイロット採用選考を突破し入社
一級建築士合格者数	特長	一級建築士試験で61名が合格 学校別合格者数で全国6位
学生チャレンジ活動奨励金	特長	2024年度より学生の新たなチャレンジ、現在の課外活動の枠組みを超えるチャレンジを支援
ものづくり学生プロジェクト	特長	みつばちプロジェクト みつばち製品販売（京王グループ） VRプロジェクト IVRC決勝大会に出場 工学院大学ソーラーチームが国内最長のソーラーカーレース「ワールド・グリーン・チャレンジ」で3位入賞

1
5

15

KOGAKUIN UNIVERSITY

教職課程概要

工学院大学副学長 蒲池みゆき
（情報デザイン学科）



6

16

教職課程の状況

免許教科
 数学・理科・技術・工業・情報

教員体制
 専任 4名
 非常勤 18名

職員体制 8名

学生
 教職課程登録学生
 1学年 約100名
 大学院生 8名
 科目等履修生 5名

	併修・兼修	非併修・非兼修	兼修併修・併修兼修
先進工学科	生命化学科	理 科	理 科
	環境化学科	理 科	理 科
	応用物理学科	理 科	理 科
	機械工学科	—	工 業
工 学 部	機械工学科	数 学	数 学・工 業
	機械制御工学科	数 学	数 学・工 業
	電気電子工学科	数 学	数 学・工 業
	まちづくり学科	—	工 業
建築学科	建築学科	数 学	数 学・工 業
	建築デザイン学科	—	工 業
	情報通信工学科	数 学	数 学・情報
情報学科	ソフトウェア科学科	数 学	数 学・情報
	情報デザイン学科	数 学	数 学・情報
	情報科学科（IT/IT系教育学科）	数 学	数 学・情報
工学研究科	機械工学専攻	理 科	工 業
	生命化学専攻	理 科	理 科
	電気電子工学専攻	数 学	数 学・工 業
	建築専攻	数 学	数 学・情報

1
7

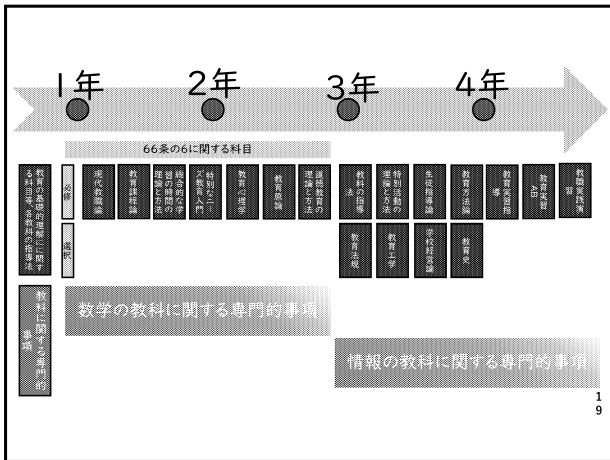
17

教育課程及びその履修方法

- ・教育の基礎的理解に関する科目等、各教科の指導法
 全学共通
- ・教科に関する専門的事項
 必修は1・2年生を中心に配置
 2教科の場合・・・例:情報学部
 数学の教科に関する専門的事項は1・2年生中心
 情報の教科に関する専門的事項は3・4年生中心

1
8

18

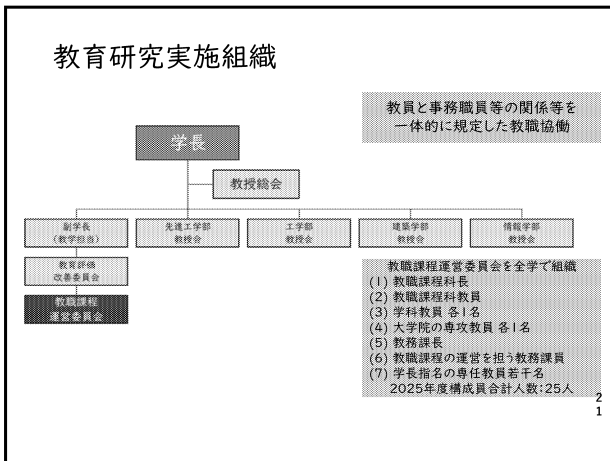


19

履修サポート

- 教職課程オリエンテーション・個別相談会
- 『教職課程履修の手引き』
- KU-LMSを用いたオンラインによるサポート

20



21



22



23



24

教職課程・学芸員課程ニュース

発行 工学院大学教職課程・学芸員課程

2025.3.19 第73号



材料と加工に関する技術：金属加工(2024年度教育実習<中学技術>より) 撮影：尾高進

特集 教育実習・介護等体験・博物館実習

教育実習

生徒のための学びの工夫	矢野桃子	2
失敗から学んだこと	古谷美月	3
授業指導での注意点について	石川虎太郎	4
「先生」と呼ばれること	山縣里紗	5

介護等体験(特別支援学校)

介護等体験での学び	嶋津青葉	7
-----------	------	---

介護等体験(社会福祉施設)

人とのふれあい—思いやりと個人の尊重—	平本優莉奈	8
介護等体験で学んだ3つのこと	石原心優	9

博物館実習

ガス・ミュージアム／郵政博物館	土屋柊登	10
航空科学博物館	吉澤深玖	11

教育実習

生徒のための学びの工夫

矢野桃子

私は、自分が通っていた中学校で教育実習を3週間行った。担当教科は数学で、1年生の一次方程式の授業を5回行った。実習先の中学校は、生徒数が少なく、1学年1クラスしかなかった。そのため、数学以外の授業も見学させてもらうことが多かった。1週目は、全学年の授業見学だった。まずは、授業の全体の流れと授業形態に注目しながら見学をした。1年生の数学の授業は、プリントを使って行われていた。2年生と3年生の数学の授業は、プリントではなく生徒が自身のノートを使ってメモを取っていた。共通していた部分は、どの学年も黒板を使って授業が進められていた点だ。私が1年生の授業をするときは、プリントで進める形にしようと決めた。理由は、普段の形を大きく変えるのは生徒にとって負担になる可能性があると考えたからだ。いつも慣れている勉強方法を変えることは、生徒にとってストレスになりかねない。また、1年生の数学の理解度と数学に対する苦手意識を考えた結果、教師の話をより集中して聴くことができるプリント学習の方が効果的であると考えた。一方で、自分らしさを取り入れるために、黒板を使った授業ではなく、スライドを使った授業にした。この中学校では、生徒一人一人がタブレット端末を持っており、教員がスライドを配信したり、共有したりすることができる。また、生徒はタブレットを使うことに慣れている。よって、タブレットを使った授

業の方が、生徒にとって取り組みやすいと考えた。このようにして、全5回の授業形態を決めた。

1年生の授業を見学していた中で気がついたことがあった。それは、生徒が積極的に話し合いをしようとしていない点だ。最初は、数学に対する苦手意識が影響していると考えていたが、他の教科を見学しているうちに、話し合うことがあまり得意ではないことに気がついた。担任の先生に質問したところ、コロナによる学習環境の変化が原因のひとつであることがわかった。小学校低学年でコロナ禍になり、班になって勉強をすることや、移動して話し合いをすることが行われてこなかったようだ。また、給食も前向きで食べるのが日常となっており、私が中学生の頃と比べて、生徒同士の話し合いの機会が減少していることがわかった。これらの影響により、話し合うことに抵抗があることがわかった。この問題を解決するために、クラスを9個の班に分け、机を合わせて授業を受けてもらうことにした。最初は、話し合いの時間を設けても、話し合いを行わない班の方が多かったが、回数を重ねるごとに、生徒同士話し合ったり、教え合ったりする姿が見られるようになった。

以上のことから、教師は、生徒に対して知識を教えるだけでなく、生徒の姿を観察し、学びやすい環境を整えることも重要であることを学んだ。

(情報学部コンピュータ科学科4年)

失敗から学んだこと

古谷美月

私は3週間の高等学校での教育実習で、授業のしかたや、生徒・同期・教員間の関係性の築き方など、多くのことを学んだ。そのなかでも特に、人に説明をするときには、内容を自分の中で整理し、しっかり理解をしてから話す必要があるということを知り、失敗から学んだ。ここで学んだことを活かし、生活の中でも常に、丁寧にわかりやすく言葉を選ぶことを意識して、力をつけていきたい。

私は、教育実習中、授業の時間配分を間違えてしまい、失敗してしまった授業がある。それは、1年生の探究の授業である。この授業は、生徒が探究のワークや教師の説明、指示を聞きながら、探究における「考え方」を学ぶ内容であった。私は、1学年共通の探究の授業指導案を読み込んだうえで授業は行うように指導されたため、指導案や教材を読み込み、イメージトレーニングしてから授業を行った。しかし、授業内で行うことを生徒に伝える際、うまく伝えることができず、時間内に指示されているところまで終わらなかった。丁寧に説明したつもりだったが、生徒には異なった内容で伝わってしまったからだ。また、このことは情報の授業でも同じことが言えた。パソコンを使用する際、想像している以上に生徒はパソコン操作に慣れていなかった。そのため、キーボード、マウスを使用するにしても、いかに細かく手順を教える必要性があった。

私自身は授業内容を理解しているが、生徒は教師から聞く情報が初めて得る情報である。ゼロの状態から新しいことを伝えることの難しさを痛感した。特に、探究の授業は、私が用意した教材や内容ではなく、口頭での説明が重視されていたため、話を相手にわかりやすく伝えることの難しさも改めて気づかされた。同時に、スライドや資料の効果を痛感した。用意された授業だとしても、私なりの追加教材を用意すればよかったと反省した。このことから、相手に何かを伝える・指示をするときには、より細かく、手順や内容を伝える必要があることを学んだ。さらに、スライドや資料など、耳だけではなく目でも情報を伝えることの重要性も学んだ。

まだ私には、相手にいかに伝えるとき、わかりやすく的確に伝える力が十分でない。説明をするときなどは、想像している以上に細かく説明したり、聴覚情報以外の方法を用いたりすることを日常生活でも心がけ、話すときに効果的な方法を模索し、力をつけていきたい。教師にとって授業は、すでに知っていることを伝えるものであり、内容によっては何回も同じことを行う。しかし、生徒にとっては、1回きりの授業であり、初めて知る内容を得る場である。内容の興味・関心はもちろん、わかりやすく伝えるためにも、1回1回を無駄にしない授業ができるよう、研究していきたい。

(情報学部コンピュータ科学科4年)

授業指導での注意点について

石川 虎太郎

葛飾区立小松中学校での教育実習において私が一番難しいと感じたのは、授業においてどの生徒も聞く授業展開です。技術科の授業で行った失敗や今後活かすことについて書きます。

私は中学校技術科として実習をしました。実習中での授業内容は製図法で、場所は技術室でした。最初の週は指導教員の授業を見学と補助を行いました。この期間にクラスごとに違う生徒観や、指導教員がどのように授業展開していくかを授業ごとにメモしました。また同時並行で次週の授業資料や指導案を作りました。

第二週では実際に授業を行いました。授業では多くの課題が見つかり、それぞれの課題の改善に努めました。最初に失敗したことは授業展開の甘さです。私が行った授業展開では、どのように授業内容を教えるかを考えて、動画教材の提示・グループワーク・実験などをしました。しかし、内容を詰め込み過ぎてしまい、授業時間内に終わらないことや生徒たちに何を教えているのか分からない可能性があることと指導教員からご指摘をいただきました。このことから授業内容を一部変更して教えたい部分を絞り込むことや黒板を使わず、電子黒板に表示するなど工夫を行いました。その結果授業を適切な量や時間で行うことができました。次の失敗は、生徒に対する指示を曖昧であることです。授業は広い場所で行うことから、教室と違って指示が通

りにくいことが課題でした。授業中の板書や実験の指示が後ろまで通っていないことが指導教員からご指摘をいただきました。また、授業中の指示にメリハリがついていないこともご指摘をいただきました。以上のことを踏まえて私は、授業では指示を一つ一つ明確にすることと机間指導をすることを意識して行い、指示を通りやすくすることができました。

第三週では以上の失敗や反省を基に授業や研究授業を行いました。クラスによって違う生徒観も大切にしながら、指示を明確にすることや授業内容が伝わりやすい資料を提示することを意識しました。研究授業では個人個人に気を配る指導をして、指示が明確に徹用にしました。

以上を踏まえて教育実習の経験から、今後どう活かすかについて書きます。教育実習では授業づくりから展開、改善までを行いました。授業づくりでは、教材研究や理解の必要性や授業を生徒が分かりやすく、教員が負担にならない資料作りが大切だと思いました。授業展開では反省を生かして、机間指導や指示の明確性を上げることを目標にしたいです。また、改善では他の教員や生徒にアンケートを取り改善していくことも大切だと学びました。授業以外にも今回の反省を生かせる場面が多々あり、実践していきたいです

(工学部機械工学科4年)

「先生」と呼ばれること

山 縣 里 紗

実習開始前、私は「先生」と呼ばれることに抵抗があった。自分は先生と呼ばれるに値する人間だろうか。想像する度に憂鬱になった。そんな心境で教壇に立つことへの罪悪感もあった。「好きなようにやっていい」という指導教員の言葉は有難かったが、裁量が大きいこともプレッシャーになった。担当集団は1集団で、90分授業とはいえ授業回数はたったの5回きりだったので余計に「いい授業にしなくては」という焦りがあった。

不安と焦りから始まった実習は嵐のようで、3週間という期間は初日から終わりを意識するぐらい短かった。5回の授業の中で私はできる限りの工夫をした。初回はwebアプリを使って手を動かしてもらい、2回目の授業では三角定規を使ったミニゲームで予想以上に盛り上がった。3回目は準備不足でしどろもどろになってしまったが、4回目の前半でやり直し、後半は

野外で計測をした。写真はその時の様子である。校舎までの距離、仰角 θ 、目線の高さ、 $\tan \theta$ の値を用いて校舎の高さを導出した。7階建ての校舎を誤差20cmで求めた生徒には驚かされた。最後の授業でも、webアプリや身体を動かす遊びも取り入れながら、計画していた内容まで進めることができた。

しかし、私はいい授業ができたとは一度も思えなかった。他の先生の授業を見る度、自分の授業に自信がなくなった。ある先生は教科書と黒板のみで進めていたが、数学嫌いの生徒たちが「もっとやりたい!」と大盛り上がりしていた。自分がしてきた“できる限りの工夫”まで“小手先の誤魔化し”に思えてきて、自分の力量のなさ、未熟な自分のまま目の前の生徒たちに相対せざるを得ないことが、とても悔しかった。

けれども教職課程でのこれまでの学びも踏まえて実習をふり返ってみると、そもそも私が「い



図形と計量「三角比」(2024年度教育実習<高校・数学I>より) 撮影:小林誠(静岡県立三島長陵高等学校副校長)

い授業をしたい」と思うこと自体がずれているような気がしてきた。先生として生徒の前に立つ目的はいい授業をすることではないし、生徒たちはいい授業をする人を先生と呼ぶわけではない。また、授業の主体が生徒であるならば、教師一人の力でその質を操作できるものでもないだろう。

それよりも、教師としてそこにいる目的を教師が自覚することの方が大切ではないかと思うのだ。私はどんな教師で、何のためにここにいるのかを明確に持てば、教材としての教師の価値がそこに生まれるのではないか。私は何かを理解するために学ぶことだけでなく、学び続けるために学ぶことこそ大切だと思った。だから、いろんな手を使って学ぶ方法を示すことも大事

にしたかった。そういう先生だからできる授業を私はした。それを解っていることの方が、いい授業ができたかどうかよりも重要なことのように感じている。

今でも顔を出せば生徒たちは私を先生と呼ぶ。先日、ある生徒に名前を忘れてしまったのもう一度教えて欲しいとお願いしたら、「ちゃんと覚えてよ。先生なんだから」と叱られてしまった。自分が何のために、何をしたいくて今生徒の前に立っているのか解っていられるようになったから、今は「先生」と呼ばれることに感謝と幸福を感じ、自然と背筋が伸びる。それが、私が教育実習で授かった一番の教訓である。

(科目等履修生)

介護等体験(特別支援学校)

介護等体験での学び

嶋津青葉

2日間の特別支援学校での体験を終えて、最も印象的だったことは、子ども達は自分の想像以上に大人であり、年齢相応のプライドをしっかりと持っていた点である。体験が始まってすぐは、障がいを持った子ども達と接するにあたり、子ども達が勝手な行動をしたり、けがをしたりしないか心配で過保護になってしまうことが多かった。子ども達の安全を守ることはもちろん大切なことであるが、子ども達の行動を制限しすぎてしまうことは子どもの成長に悪影響を与えてしまう。小学校における学習では、自らの言動による成功や失敗から学びを得て次の行動につなげていくという流れが大切になってくる。子ども達の行動を制限してしてしまうことは、成功や失敗という経験をさせないことになってしまうと感じた。また、子ども達は1日の予定を見て時間を確認し、考えて行動することができているため、教師としてはその行動を見ている程度で良いのだと思った。このことが児童生徒主体の学習につながっているのだと感じた。

また、授業の中でも多くの学びを得ることができた。特に印象的だったことは、クラス全体の雰囲気づくりである。いかに子ども達に学習が楽しいものであるかを感じてもらうかが大切になってくる。久我山青光学園では、教師が子ども達と一緒に授業に取り組んでいる様子が多く見られた。子ども達の楽しさや嬉しさ、大変さ悲しさを教師も一緒に経験し、共に成長

していくという雰囲気が常に学校全体にあった。その結果、子ども達も安心して学習することができ、学びや「できる」という経験が確実に自分の力になっていると子ども達も感じていると思った。授業内容にもたくさんの工夫があった。図工の時間では、目が見えにくい子ども達に対して、毛糸を使った工作をしてもらうことで、毛糸の感触を感じてもらいながら、工作をしていた。大根掘りの行事の前には、大根を直接触れてみたり、匂いを確かめてみたり、すりおろした大根を食べてみたりと、視覚が使えないかわりに嗅覚や触覚、味覚などのさまざまなアプローチで学習を行っていた。いかに児童生徒の学びを発展させるかを常に考えていかなければならないと思った。

特別支援学校での体験は、教育実習のときとは違った環境下であり、慣れないこともたくさんあったが、指導して下さった先生方や温かく迎えてくれた子ども達にとっても助けられた。来年から山梨県で高校情報の教師になることが決まっているため、今回のような実際の教育現場での経験は非常に貴重なものである。今回の体験で得られた学びや気づきを忘れずに良き教師となれるよう日々精進していきたいと思う。また、自分の教育観を改めて見つめてより生徒の成長により影響を与える学習を探し続けていきたい。

(情報学部コンピュータ科学科4年)

介護等体験(社会福祉施設)

人とのふれあい ―思いやりと個人の尊重―

平本 優莉奈

介護等体験を終えて、ふれあうことの大切さや個人の尊重の大切さを学びました。

多くのお話を聴くことができました。若い頃にしていた職業のお話から「今の日本はこうやってつくられたんだ」「今は技術が発展しているけれど、当時はこうだったんだ」と多くの学びがありました。同世代の人との会話では知ることのできない、歴史の教科書でも学ぶことのできないリアルな部分を知ることができました。趣味や特技についてもよくお話されていて深い知識を得ることができました。

レクリエーションでは、個人の尊重を大切に感じる場面が多くありました。例えば、書道のレクリエーションでは、2枚に同じ文字を書くのですが、完成した2枚を利用者の方に見せて「どちらが良いですか」とお伺いしました。音楽のレクリエーションでは、かごに入った楽器を見せて「どれがよいですか」とお尋ねしました。このように自己選択してもらうことで個人の意見をさりげなく大切にしていました。職員の方から「自分で選ばせると言うことが大切」と教えていただいたので、レクリエーションではそのことを意識しました。

その他にも、一人ひとりに合わせた工夫をすることは、当たり前のことですが重要であると思いました。例えばお茶の温度です。先に入れてお渡しするときに冷めるようにする方、なる

べく温かいものがない方など様々でした。食事に関しても飲み込みやすいようにとろみをつけたり、噛みやすいように小さく切ったりと工夫が凝らされていました。食べ物の提供方法は、間違えると死に至ることもあるのでとても慎重にならなければなりません。そのため一人ひとりに合わせた提供は当たり前ですが、お茶の温度といった細かい気遣いから思いやりの大切さを学ぶことができました。

体験3日目には名前を覚えていただき最終日には利用者さんからお声がけくださったり、手をふっていただけたりと、とても楽しく過ごすことができました。お伺いした話題について調べ、その知識を身につけた上で別日にお話ししたりと、自分なりに会話を広げたりした成果だと思います。

介護等体験から多くのことを得て、思いやりや自己選択の大切さを学ぶことができました。学んだことは、介護等体験に限らず、人と接する上でとても重要なことですので、来年度の教育実習はもちろん、日頃の生活から心がけようと思います。

最後になりますが、介護等体験(社会福祉施設)の5日間はとても貴重な時間となりました。受け入れてくださったフェローホームズデイサービスセンターの皆さまに、深く感謝を申し上げます。
(情報学部システム数理学科3年)

介護等体験で学んだ3つのこと

石原心優

社会福祉施設での介護等体験では、「様々な方とのコミュニケーションを通して相手の気持ちに寄り添うスキルを身につける」という目標をあげていた。この目標は達成できたと感じている。とくに相手の気持ちに寄り添い、相手にわかりやすいコミュニケーション方法について学ぶことができた。ご利用者様のなかには、耳が聞こえにくい方が多く、言葉だけでは伝わりづらいと言うことが何度かあった。そのときに、ご利用者様の気持ちを考えると、行動（ジェスチャー）で伝えた方が理解しやすいのではないかと気づいた。職員からもジェスチャーを増やすと良いと指摘され、実践してみると言葉だけのコミュニケーションより多くのことをスムーズに伝えることができた。この目標以外にも様々なことを学ぶことができた。その中の2つについて書く。

まず1つ目は、初対面の方と話をするときに緊張してしまうとそれが相手に伝わりうまく会話のキャッチボールが続かなくなってしまうということだ。自分の緊張が相手に伝わってしまい、うまく会話が成り立たなくなってしまう。このことは子どもは特に影響を受けやすい。よって、なるべく初対面の人でも緊張を和らげるために話しかけ方のテンプレートを少し考えていくと良いと教えていただいた。初対面の方の何

を知りたくて、何を聴いたら良いのかということを中心に考え、どのように話しかけるのかを準備していくことで少しはスムーズに相手のことについて知ることができる。またコミュニケーションでは、質問がととても大切であり、困ったときこそ質問していくべきなのだということが学べた。

2つ目は、声かけの大切さである。体験施設では無理矢理させるということではなく、ご利用者様にあった方法で支援していた。特に食事の介助である。無理矢理口の中に入れるのではなく「娘さんが心配していたから」「一緒に食べるところまで食べてみない」などと相手の方への声かけを積極的に行っていた。この点を見て、声かけはととても大切だと思った。どんなに相手のことを思い行った行動だとしてもそれがいての同意がない場合、良くない行動となってしまう。よって相手になぜその行動をとるのか、しっかりと伝わるコミュニケーション方法を考えて伝えていく必要がある。

今回の5日間の介護等体験を通して、様々なことを学ぶことができた。教員になるために大切にすべきことなど人生の先輩からの教えがたくさんありとても嬉しかった。

(情報学部システム数理学科3年)

博物館実習

ガス・ミュージアム／郵政博物館

土屋 柊 登

実習先：GAS MUSEUM

(2024年8月21日～8月25日
5日間)

郵政博物館資料センター

(2024年9月3日～9月12日
7日間)

(9月6日～9月8日を除く)

所 属：先進工学部 機械理工学科

学籍番号：S5-21041

氏 名：土屋 柊 登

灯実演の見学

8 / 25 (日)：点灯体験の補助、実習課題の
まとめ・発表

・郵政博物館

実習全体を通じて、資料整理業務を中心に取
り組んだ。

9 / 3 (火)：収蔵庫見学、外国切手資料の
整理

9 / 4 (水)：収蔵庫見学、外国切手資料の
整理

9 / 5 (木)：外国切手資料の整理、貸出キッ
トの説明、一般資料(被服資料)
の整理

9 / 9 (月)：外国切手資料の整理、外国記
念切手帳(寄贈品)の整理

9 / 10 (火)：貸出資料の整備補助、外国切
手資料の整理

9 / 11 (水)：写真資料の整理補助、環境保
全活動の説明(収蔵庫の清掃)

9 / 12 (木)：外国切手資料の整理、作業場
の清掃、実習のまとめ

1. 実習館の概要

- ・GAS MUSEUMは、東京ガス株式会社が運営する歴史博物館。展示施設は明治期の建物を移築復元し、都市ガス事業や暮らしと都市ガスの関わりの歴史を紹介する。
- ・郵政博物館は、日本郵政株式会社が運営し、郵便および通信に関する収蔵品(日本最大の約33万種の切手や国内外の郵政に関する資料約400点)を展示・紹介する博物館。

2. 実習内容

・GAS MUSEUM

8 / 21 (水)：施設・常設展・企画展説明、
収蔵庫見学、貸出資料受け渡
しの立ち合い

8 / 22 (木)：映像資料・広報活動説明、館
内展示資料作成、受付業務

8 / 23 (金)：ホームページ・企画展・収蔵
品管理の説明

8 / 24 (土)：収蔵品管理の説明、燃料電池
プログラムの設営・補助、点

3. 実習を終えて

2館での実習を通じて、来館者の目線からは知ることが出来ない博物館のバックヤードにおける学芸員の業務を、様々な体験する非常に貴重な機会となり、今まで獲得した知識や学びを確認することが出来た点で大変良い実習になったと考える。博物館における学芸員の業務は、多岐にわたり、幅広い専門知識が求められる素晴らしい職であると改めて実感した。

航空科学博物館

吉澤 深玖

実習先：公益財団法人 航空科学博物館
(2024年11月26日～12月6日
10日間)

所属：工学研究科 化学応用学専攻

学籍番号：K3-24013

氏名：吉澤 深玖

1. 実習館の概要

航空科学博物館は、成田空港開港に関連し、1977年に地元芝山町の要望の一つとして運輸大臣に提出により建設された。成田国際空港のすぐ近くに位置している。航空の歴史や科学技術、飛行機の構造を学ぶことができ、子供から大人まで楽しめる博物館である。実物の航空機や部品の展示やフライトシミュレーターや操縦体験装置があり、航空技術に触れることができる。また、成田空港を一望できる展望デッキがあり、離着陸する飛行機を間近に見ることができる航空ファンには絶好のスポットといえる博物館となっている。

2. 実習内容

11月26日(火)：開講式、博物館に関する説明、シミュレーション実習、企画部業務説明

11月27日(水)：特別企画の設営準備、総務部業務説明、受付業務実習、小企画展示

11月28日(木)：企画部業務説明、特別企画の設営準備、フライトシミュレーター実習

11月29日(金)：小企画展示制作、格納庫・収蔵庫見学

11月30日(土)：入場整理実習、小企画展示制作、特別企画の設営準備

12月1日(日)：小企画展示制作

12月3日(火)：小企画展示制作

12月4日(水)：小企画展示制作

12月5日(木)：ライブラリー説明、空と大地の歴史館見学、シミュレーション実習

12月6日(金)：特別企画で使う模型を仮に羽田空港へ

3. 実習を終えて

特別企画の設営準備に携わり、ひとつの企画ができるまでの様子を間近に見るといって貴重な体験をすることができた。また、実際に他の場所から資料を借りに行くという貴重な経験をさせていただき、博物館の資料保存に対して信頼の重要性を強く実感した。さらに、小企画展示制作によって、自分の伝えたいことを分かりやすく興味を持ってもらうための工夫などを体験することによって、自分の企画した展示が来館者に届くことを想像すると同時に、展示の背後にある多くの準備や努力の重要性を改めて実感した。

編集後記

人よりたくさんとった単位、毎日のように大学に来ていた夏休み、学科の授業に加えて教職・学芸員課程を乗り切ったみなさん、ご卒業おめでとうございます。これからは、大学で育んだ力をもとに、自らの道を切り拓いていくことでしょう。けれど、ちょっと疲れたり、とてもうれしいことがあったり、誰かと話したくなったりしたら、いつでも大学に立ち寄ってください。工学院大学はいつもみなさんのことを応援しています。(A)

教職課程・学芸員課程ニュース 第73号

2025年3月19日発行

発行 工学院大学教職課程・学芸員課程

〒163-8677 新宿区西新宿1-24-2

27階 2733教職課程研究室

e-mail: abeyoshie@cc.kogakuin.ac.jp

教職課程・学芸員課程ニュース

発行 工学院大学教職課程・学芸員課程

2025.4.1 第74号



(撮影：尾高進)

特集 教職課程・学芸員課程への招待—新入生のみなさんへ—

教職課程・学芸員課程への招待—新入生のみなさんへ—

みえないことをみる	尾高進	2
資格課程での「基礎」と「応用」	内山宗昭	3
言葉にすることで視点が広がる	佐藤那央	4
俯瞰した視点を持つ重要性	大久保公雅	5
仲間と共に学ぶ	嶋津青葉	6
教職課程で見つけた道	田中美羽	7
教職課程を履修してよかったこと	齊藤健人	8
背中を押せる教員に	佐藤駿也	9
志を立てて以て万事の源と為すべし	三浦奎	10
愛があふれる場所で	大月理央	11
博物館と共に歩む未来—学芸員課程で広がる可能性—	吉澤深玖	12
災害時、子どもの声を聴き共に学ぶ教師	安部芳絵	13

みえないことをみる

尾 高 進

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。工学院大学へようこそ。

さて、この文章のタイトルに違和感を感じた人はいるでしょうか。これがみえない「もの」をみる、だったら、何の違和感もなかったことでしょう。少しお付き合いください。

例えば「今日は朝から暑いな、予想最高気温は35度か」という日があったとします。35度というのはいうまでもなく気温のことで、大気の温度を意味します。温度は、そのものを構成している原子や分子の振動の度合いのことですね。

ところが、気温というものは、いってみれば人間が勝手に考え出したものです。気温という考え方がなくても、大気の温度が影響を受けることはありません。しかし、気温という考え方があることによって、私たちは大気の温度の状態をつかみやすくなるわけです。こういう考え方（のラベル）を概念といいます（暑い、や寒いも概念です）。

概念は、人間の感覚に基礎づけられていると同時に、人間が身の回りのものやことをとらえる際に広く用いているものです。気温はほんの一例にすぎません。気温のように、肉眼ではみえないものをとらえるために温度計などの物的な装置が必要なのおなじように、ただみるだけではとらえることが難しいことをとらえるためにも概念（の組み合わせ）が必要です。人によっては概念装置と呼ぶ人もいます。

みえないことをみる、というのは、概念装置によってものごとをとらえることです。その意味で概念は非常に大事なものです。合わせて、もう一つ考えるべきことがあります。今度は教職課程にひきつけてみましょう。学芸員課程も、

学ぶという点では共通していると思います。

学校は子ども・青年に学力をつけることを目指しています。では学力があるとはどういうことか。一般的に言ってそれは成績がよいこと、ちょっと乱暴に言えば、テストの点がよいこと、といってよいでしょう。

テストは問題の集まりですから、その点がよいというのは問題に対してよい解答を示せたということです。私たちは通常、テスト（という概念）によって測った点数を学力というみえないことをみた、とみなしているわけです。

では、現在のテスト（ペーパーテスト）は本当に学力を測っているのでしょうか？中学校の数学に二次方程式がありますね。テストではおそらく解の公式を用いた問題が出されるでしょう。解の公式を用いて問題が解ければ、二次方程式を本当に理解したことになると思いますか。数学の免許取得を目指さない人も、ぜひ考えてみてください。

ここまでの話は、最近、私が考えていることを書いてみました。途中で少し話を急いだので、わかりにくかったかもしれません。質問や意見があったら、ぜひ聞かせてください。

教職課程・学芸員課程は、大きくいえば、学ぶ（正確には自分以外の子ども・青年等が学ぶ）ことについて学ぶところです。そして教職課程・学芸員課程は、本学ではオプションです。少しでも興味があるなら、学んでみませんか。教師や学芸員を目指していなくても一向に構わないのです、学びたい気持ちがあれば。お待ちしています！

（教職課程・学芸員課程、本学教授
odaka@cc.kogakuin.ac.jp）

資格課程での「基礎」と「応用」

内山宗昭

私の教職課程・学芸員課程での担当科目は、「教育原論」「道德教育の理論と方法」「総合的な学習の時間の理論と方法」といった、1、2年生で先ず修得することの多い科目群と、3年生や特に4年生に修得が設定されている、資格課程としては最後の段階にあたる「教育史」「教育実習」「教職実践演習」「博物館実習」などの科目群とがあります。私の担当の範囲で考えても前者の群が「基礎」とすれば、後者は「応用」というべきかと思っております。後者は実際に実習へ行っ、その経験を総括するような段階ということになります。総括という意味は「教育実習」後に互いの経験をふりかえりまとめるということでもあり「教職実践演習」という科目が最後に位置しています。学芸員課程の場合も学外実習を行う4年次での「博物館実習」は、3年次での「博物館実習」で学内演習を行った上で実際に学外の博物館等で行うもので、その後、実際に実習を総括する意味で「博物館実習報告会」を実施します。学芸員課程の場合それは「博物館実習」の一環になっています。

新入生からみれば、まずは最初の方に接することが多いということでもあり、当面この最後の段階の話は目標としてイメージしてみることになり、留まるのかもしれない。私の担当科目に限れば、1、2年生時に接して、そのあと直接的にはだいぶ間隔があいて、4年生で再び接するという場合もありえます。もっとも学生感覚としては、修得年度は必修的に学年指定されている場合と、履修年度に幅がある場合とがあ

りますので皆同じとはいえませんし、履修するクラスも、前期か後期か、通年か、クォーター例えば2Qか3Qか、また集中授業か、で感覚的にはずいぶん多様な観があるようです。教職課程・学芸員課程はその点夏期集中授業の設定が大きく関わっておりまして、そこをどのように時間割計画するかがキーポイントになる場所です。各自のステップはそのようなわけで必ずしも一様ではないわけです。

ともあれ、段階に多少のずれがあったとしても、資格課程でも「基礎」と「応用」の関係はあるわけで、ステップを踏んでゆくということも大事なところではないかと思っております。「基礎」段階で地道な指導計画の作成の基本や教育意見の記述などに取り組んだ学生が、実習においても成果を上げて報告をするのを目にしては、そうした連続性も確かに感じてきたところでは、とはいえ、途中で急展開(発展)して成果を上げてゆく場合もありますから、そこは学びの面白いところでもあるわけです。「基礎」においては、実地からはやや間接的に見える事柄もこの機会に修得しておくんだというちょっとした積極性が逆に必要なのかもしれない。「基礎」のここでの意味には、教育への見方・観点を増やすこと、指導案でも、このような設定があるのかと視野を広げることにあるのではないかと思っております。では、まずはあまり構えることなく始めましょう。

(教職課程・学芸員課程、本学教授)

言葉にすることで視点が增える

佐藤 那央

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。2025年度に教員になる佐藤那央です。皆さんは、これから自由に自分のための学びを育む4年間、院進学含め6年間となることでしょう。教職課程を取られるか迷われている方も居られることと思います。そこで、私が教職課程で得た学びを紹介させていただきます。

私がこの4年間の教職課程を通して得た力は言語化する力です。この言語化する力とは、自分の考え、無意識な偏見、悩みを言葉にする力のことを指します。これは、教職課程及び教育活動で生じる「ゆらぎ」を深く考えることにより、得ることができました。皆さんはまだ「ゆらぎ」という言葉に慣れていないと思われます。「ゆらぎ」とは、自分の価値観や通常と考えることが揺れ動く事柄を意味します。皆さんも他者との交流の中で自分が正しいのか分からなくなる経験はないでしょうか。教職課程や教育活動ではこの「正しさ」が自分視点でなく、生徒や支援を受ける人にとって良いものか考える必要があります。そのため教職課程では色々な視点から考える授業が多く、自分が見えていなかった考えの輪郭を言葉で描き、少しずつ見える化していく実感を得ることができます。

他に教職課程は、学部学科の異なる学部生と考えを共有する機会が多くあります。大学で自分と違う学部の人と話す機会を講義にて行えることはめったにありません。自分と異なる学問

を歩まれている方の考えはきっと、あなたの見えない普通が見えるようになるきっかけとなると思います。この機会が、私の言葉に色彩をつけてくれました。そして新しい概念が生まれることもありました。

これらより、私は4年間の教職課程において視点が増えました。それは教員になるならに関わらず、私が困難に陥ったときの解決に大いに役立ちました。私は大学を卒業後、就職する道を選びましたが、この選択に迷いがなかったわけではありません。とても不安で、自分の選択が正しいのか分からなくなりました。そんなとき、この視点の多さによって、客観的に考えることができるようになりました。

この先、就職活動や色々な方との出会いと別れ、あなた様が悩まれるそんな時に様々な視点から考えたことを言語化する力は大いに活用できます。

大学では、何を学ぶかで視野の広さに大きな差が生まれます。これを見てくださっている方があなたの学びであなたの歩む道を作っていく、そんな学びのある大学生活になることを願い、応援しています。

(2024年度情報学部システム数理学科卒業生、
2025年4月より東京都教諭<中高数学>)

瞰した視点を持つ重要性

大久保 公雅

みなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活は色とりどりでワクワクしていると思います。サークルに友人関係、自分が学ぶ専門など4年間で多くの学びや経験を得ると思います。その中で個人的に4年間の生活で得たこととして「俯瞰した視点を持つ」ことです。入学当初はコロナ禍でもあり講義が基本的に遠隔メインであったので対面で話したり考えを共有したりすることが少なかったのが印象的です。しかしながら、教職の授業では遠隔でありながらも生徒同士で意見を共有したり、話す機会が多い印象がありました。話すことでその人が何を考えているのか、何を主張したいのかをはっきりと学べることが自分の成長にもつながったと思います。

4年間履修していた中で段々と自分の意見や考えだけでなく、相手方の考えを自分から予想したりすることが増えたと思います。増えたことで一番実感を得られたのは教育実習です。実習では中学生を見ていたこともあり、子ども達が何を考えているのか、何を思っているのかを判断することができたと思います。例えば、生徒同士で喧嘩した時も仲裁に入り、お互いがしっかりと話し合える状況を作り、何が良くて何が良くなかったかをしっかりと理解させることを

しました。その経験はこれからにも活かせると思いますし、大事なことだと改めて感じました。

「俯瞰した視点を持つ」ことは決して簡単にできることではないと思います。常日頃からコミュニケーションしていく中でお互いの意見が合わないことも少なからずあると思います。そこで、自分の考えだけでなく、他人が今どう考えているのかを注視していることでより広い視点を持つことができると思います。特に教職課程では生徒間だけでなく、先生方とも交流する機会が多いので色々経験できますし、知識を蓄えることができると思います。教員を目指すうえで教育実習や介護等体験（中学教員も目指すなら）も体験すると思います。ぜひ教職課程を履修するうえで一つ“核”となるものを持って取り組んでほしいと思います。“核”というのは何でもいいです。信念であったり目標であったりと、何かを持つことで自分のモチベーション維持にもなりますし、何事にも取り組めると思います。

最後になりますが、大学で学べる範囲や専門性は高校よりも広くなります。自分が学びたいことに対してとことん追求し、様々な場面で活躍してほしいと思います。

(2024年度情報学部システム数理学科卒業生、
2025年4月より東京都教諭<中高数学>)

仲間と共に学ぶ

嶋津青葉

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

2024年度で工学院大学情報学部コンピュータ科学科を卒業し、山梨県高校情報科で採用をいただいた嶋津青葉と申します。これから始まる大学生活に楽しみを感じると共に、大きな不安も感じていると思います。大学生活では、将来について具体的に考える機会が多く、大学で学ぶ内容、就職や卒業後の進路について悩む場面が多くなります。

この冊子を読んでいただいている皆さんには、大学生活での学びとその後の進路の選択肢として、教職課程があることをぜひ覚えていただきたいと思います。教職課程と聞くとうまく授業を展開する方法を学ぶイメージが強いのと思います。教職課程では、教科の知識を学ぶだけでなく、人との関わり方を考え、自分自身を見つめ直すことができます。なぜならば、教師という仕事はただ生徒に勉強を教える職業ではなく、生徒と共に学んで成長していく職業であるからです。時には生徒と一緒に喜び、時には生徒の悲しみに共感しながら生徒の自己実現に貢献していくことが教師として大切になってきます。教職課程では人の気持ちを考えた行動や自分と様々な人の価値観・教育観を理解することを通して人として大きく成長することができます。

そして、私が教職課程を履修して最も良かったと感じることは、一緒に学ぶ仲間ができたことです。教職課程では、4年間という長い時間をかけて学科の授業に加えて多くの事を学んで

いきます。教職課程でしか学べない内容に面白さを感じつつも、時には大変だと感じて立ち止まってしまうことがあるかもしれません。しかし、教職課程を通して知り合った仲間と助け合いながら学ぶことで大きな壁も乗り越えることができました。学科や学部を越えた幅広い人との交流ができることで、自分の中で新たな気づきや発見が生まれてきます。苦楽を共に乗り越えてきたからこそその仲間、そしてその友情の深さを感じる点に私は教職課程の魅力を感じました。

最後になりましたが、大学生という新たなスタートラインに立ち様々な感情が渦巻いている皆さんに伝えたいことがあります。それは、自分自身に誇りを持って大学生活を過ごしていただきたいということです。それは、自分の成長や努力を認識して大切にする姿勢を持ってほしいという意味です。皆さんはこれまでにたくさんの挑戦をしてきて、数えきれないほどの壁を乗り越えてきたと思います。そして、この経験こそが今の皆さんの成長に繋がっています。それは、成功だけでなく、失敗や挫折も含めて、その全てが皆さんの成長の証であると思っています。ぜひこれまでの自分の努力や成長に自信を持って、自分の考えで行動して、実りある大学生活を送ってください。皆さんのこれからのご活躍を心より応援しています。

(2024年度情報学部コンピュータ科学科卒業生、
2025年4月より山梨県教諭<高校情報>)

教職課程で見つけた道

田中美羽

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

私は2024年度に先進工学部生命化学科を卒業した田中美羽と申します。この春から、小学校の理科専科教諭として働き始めます。皆さんの中には、教職課程の履修を迷っている方もいるかもしれません。「教員になるかまだ分からない」「忙しくて大変そう」そんな不安を抱くのは当然のことだと思います。今回は、私が教職課程を履修する中で感じたことをお伝えし、少しでも教職について前向きに考えるきっかけになれば嬉しいです。

私自身、大学入学時から教員という進路を意識していたため、迷わず教職課程を履修しました。ただ、「必ず教員になる」と決めていたわけではなく、一般企業への就職も視野に入れながら進めていました。そのため、「進路はまだ決まっていなくても、教職に少し興味がある」という気持ちで履修を始めても、学んでいくうちに、自分の進みたい道が見えてくると思います。

また、「忙しくて大変そう」という印象を持たれることもあります。実際は普段の時間割が極端にきつくなることはありません。授業は土曜日や長期休暇中にも開講されており、通常の授業時間外で履修できるよう工夫されています。特に夏季集中講義は、短期間で長時間行うため大変に感じるかもしれません。しかし、仲間と励まし合いながら乗り越えることで、達成感や連帯感が得られ、今ではその時間が良い思い出

になっています。

教職課程では、教育の基本や指導法だけでなく、人との関わり方や物事の捉え方についても深く学ぶことができます。印象に残っている授業の一つに、子どもに関わる事件を題材にしたものがありました。最初に事件の概要だけを知り、自分の感じたことを考えたあと、背景まで知ったうえで改めて考えを整理するという内容でした。表面的な情報だけで判断せず、その背景に目を向けることの大切さを学びました。これは教育の場に限らず、今後の人生においても大切な視点だと感じました。

こうした経験を重ねるうちに、「もっと子どものことを知りたい」「子どもたちの力になりたい」という思いが自然と強くなっていきました。気づけば、教職は私にとって“選択肢の一つ”から“やりたいこと”へと変わっていきました。教職という仕事には、明確な“正解”があるわけではありません。でもだからこそ、自分の思いや工夫がそのまま子どもたちに届く、温かくてやりがいのある仕事だと思います。

少しでも「教えることって楽しそう」「子どもに関わる仕事っていいな」と思っている方がいたら、ぜひ教職課程に挑戦してみてください。自分の“好き”や“得意”が、子どもたちの未来繋げていける素敵な選択だと思います。

(2024年度先進工学部生命化学科卒業生、
2025年4月から東京都教諭<小中理科>)

教職課程を履修してよかったこと

齊藤 健人

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから4年間の大学生活の中で様々なことを経験し、成長することができるようにたくさんの方に挑戦してみてください。工学院大学では教職課程の授業を履修することで、理科や数学、情報などの教員免許を取ることができます。少しでも教員という仕事に興味がある方は教職課程を履修し教員免許の取得を目指してほしいです。

私が教職課程を履修してよかったと思う理由は大きく2つあります。1つ目は同じ教職課程を履修している学生と友達になることができたことです。教職課程は学部学科関係なく様々な人と関わる機会が多くあるため、自然と友達が増えました。たくさんの人と関わることで自分自身の意見や考えを深めたり、広げたりすることができました。また、教育実習や実験などで忙しくて大変な時もおたがいに励まし合っただけで乗り越えることができました。このような経験ができたのも教職課程を履修したからだと思います。

2つ目は教職課程の安部先生に紹介していただいた世田谷区のこどもの居場所支援事業のスタッフとして働くことができたことです。子供の居場所支援事業には貧困家庭、片親家庭、不登校、特別支援級など様々な背景を持つ中学生が通っています。そこで大人と子供の上下関係

ではなく、ユーススタッフという対等な関係で子供たちと活動を共にし、関わっていました。子どもたちと関わっていく中で、「Iメッセージ」という主語を自分にして話す方法や、相手の気持ちに寄り添って話を聞く「傾聴」、子どもたちが自分の気持ちを「言語化」できるようなサポート、福祉におけるアセスメントのために活動中での様子の情報共有をすること、活動を通して生じるどうしたらいいんだろうというわからないさや不安などの「ゆらぎ」との向き合い方など教職課程の中で学んだことを実践の場で経験することができました。この経験は自分が大学生活を通して一番成長できたことだと思います。

教職課程は学科の科目とは別に授業を受けるため、土曜日や夏休みに授業があつて忙しくなることもあります。しかし、教職課程を通して得た経験は私にとってとても大切なものになりましたし、そのおかげで2025年度から東京都で教員として働くことができます。教職課程には先ほどの安部先生の他にも教員免許取得や教員採用試験などをサポートしてくれる素敵な先生方がたくさんいらっしゃいます。大丈夫!

教職課程の履修を迷っている方の背中を押せていたら幸いです。皆さんの大学生活が充実したものになることを心から願っております。

(2024年度先進工学部応用化学科卒業生、
2025年4月より東京都教諭<中高理科>)

背中を押せる教員に

佐藤 駿 也

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。先進工学部環境化学科でみなさんと入れ違いで卒業する佐藤駿也です。入学前は教職が取れることも知らなかった身ですが、晴れて4月から中学校理科の教員としてデビューすることになりました。小学校の頃からの夢でしたが、元々私は特段優秀だったわけではありません。思い返せば大学に入る前までは「向いてないと思う」「なれないよ」と、何になりたいか聞かれた時、進路希望を書いた時、ふとした会話の時、何度聞いたかわからないくらい言われていました。半ば諦めかけていたそんな私が教員になることができた教職課程を紹介させていただきます。

教職課程の科目は卒業の単位とは別に単位を取得することで教員免許を取得することができます。そのため、必然的に授業が増えます。学科の勉強だけでも大変なのにバイトや課外活動も含めて両立なんてできるのかと思っていました。しかし、教職の授業は一つ一つが楽しくかつ実践的で全く苦ではありませんでした。教職課程の授業を受けたことで学校という存在を生徒時代にはできなかった視点から多角的に見ることができ、教員になる上で必要な知識とその実践方法で確実に目標へ近づいている感覚を得ることができました。もちろん両立も上手くいき、学園祭実行委員会の役職やアルバイトでのリーダーも務めきることができました。やりたいことをたくさん詰め込んだ学生生活になりましたが、教員になっても活かせる経験を数多く

体験することができました。

教職課程を履修して一番良かったことは何よりも教職の仲間たちとの出会いです。同じ目標を持つ仲間との出会いで採用試験までのモチベーション保つことができたこと、そして自信を持って教員になりたいと言えるような環境にいられたことが何よりも嬉しかったです。この時にはもう「向いてないと思う」なんて言葉を聞くことはなくなりました。応援してくれる人がいたことが自信を失っていた自分の背中を押してくれました。

最後に、私はまだまだ努力しないとイケないことばかりですが、教職課程での経験を糧に今後は生徒と一緒に学び続ける姿勢を大切にしていきたいです。ここまで様々なことがありましたが、過去のマイナスな言葉も含めて無駄なこととは何もなかったと思っています。私は「向いていない」と言われてきた分「大丈夫」「君ならできる」と自信を持って言えるような教員になりたいと考えています。新生活に不安もあると思いますが、大学生活を充実させるためにも何か一つでもいいので一歩踏み出してチャレンジしてみてください。私のチャレンジの一つでもあった教職課程には免許という形だけでなく真に教員になれる環境が整っています。迷っている人がいたらぜひ教職課程に取り組んでみてください。陰ながら応援しています！

(2024年度先進工学部環境化学科卒業生、
2025年4月から東京都教諭<中高理科>)

志を立てて以て万事の源と為すべし

三浦 奎

新入生の皆さま、御入学おめでとうございます。そして、教職課程または学芸員課程の履修を検討してくださり、有難うございます。私は令和6年度先進工学部応用物理学科を卒業し、本年4月より東京都公立学校の理科教諭を務めます。

おそらく皆さんの中には、学校の教師や博物館などの学芸員になりたいという目標を掲げていることから教職課程、若しくは学芸員課程を履修することでしょう。しかし、その目標はどの程度具体的に考えているのでしょうか。教師になりたいという思いはあるものの、将来像が明確でなく、目標が抽象的になっている人もいないのでしょうか。私もその一人でした。高校時代に、友達と天文学に関する知識を語り合うことが楽しかったことや祖父が小学校の校長だったことから、将来教師になりたいと思いました。当時は、どのような教師になるかがはっきり決まっておらず、具体的な目標を掲げることができませんでした。しかし、大学入学後に教職課程を履修し、様々な授業を受けていくと、教育制度や子供たちの現状・法律、学校教育の歴史的変遷、さらに子供たちの発達と心理学的なアプローチなどの多岐にわたる知識を得ることが出来、自分はどんな教師になりたいのか、そのイメージが鮮明になりました。さらには、教職課程で出会った仲間と意見を交わす機会があり、教育について考えていることや経験を仲間と共有することで、自分を振り返る機会となり、また多角的な視点を持つことの大切さ

を学びました。そこで私は、必要な場面で批判的に考える力を養い、他人の意見を正しく判断する力も身につけました。私は、この教職課程を通して教員は、教えるだけではなく子供一人一人のアイデンティティを大切に、それぞれの実力の向上を支援することが重要であることを学ぶことが出来ました。よって、今年より東京都の教諭となる私は子供一人一人が基礎知識をしっかりと蓄え、自身のポテンシャルを積極的に発揮して自らの力で成長できるように全面的に支援できる教員を目標にしています。

この様に、教職課程を履修することで自分がどのような教師を目指すのかを具体的に考え、その志を定める貴重な時間となります。教師を目指さない場合でも、多様な視点を養い、判断力を鍛え、自分を見つめ直す機会となるため、将来の目標を立てていく中で非常に有意義です。幕末の思想家である吉田松陰は、「志を立てて以て万事の源と為す」という言葉を残しています。つまり、目標を明確に持つことで、自身の将来のビジョンが定まるのです。したがって、教職課程は単なる資格取得の場ではなく、自分自身の成長と未来を考える貴重な機会となるのです。ここで得た学びと仲間との対話が、皆さんの将来を形作る大きな力となるでしょう。

改めて、入学おめでとうございます。多くを学び、のびのびと実り多い大学生活を送ってください。

(2024年度先進工学部応用物理学科卒業生、
2025年4月より東京都教諭〈中高理科〉)

愛があふれる場所で

大月理央

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。

今、お祝いの文を書くにあたり、憧れの「教員」になるための一歩を踏み出した十数年前の自分を思い出しています。皆さんも、これからめざす「なりたい自分」に期待を膨らませているのではないのでしょうか。

私が教員という職業を意識し始めたのは、中学2年生の頃です。学校が大好きで、友達も先生も大好きでした。特に化学（当時のカリキュラムでは【理科1】でした）の先生が大好きで、彼が見ている景色を私も見たい！…という乙女心が、化学を学ぶ一番のきっかけでした。

本格的に「教員になるぞ！」と決意したのはそれから数年後。高校生になり、大学を選ぶタイミングでした。学校という空間で感じてきた温かさや楽しさを、今度は私が作る側になりたい…そう思い、この工学院大学に入学し、教職課程を履修しました。

さて、突然ですが、皆さんはご自身の人生で大切にしているもの、譲れないものはありますか？

中学・高校時代の私は、学校という空間が大好きでした。勉強も苦手、運動も苦手、決して完璧ではない私を、ありのまま受け止め、寄り添ってくれる空間。今振り返ると、そこには「愛」があったのだと気づきます。学校が愛に溢れる場所だったからこそ、自分らしく過ごし、他の誰でもない「私」の未来に向かって一歩を踏み出すことができました。

私にとって譲れないもの、それは「愛」です。生徒が自分らしくいられること、生徒がなりた

い自分に向かって安心して一歩を踏み出せること。そのために、学校がそんな空間であることを常に願っています。そしてそんな空間を創るために、一緒にもがき、支え合える仲間と共にある今がとても楽しい…そう感じながら教壇に立っています。

現在私は、千葉県の私立高校に勤務しています。時には生徒と言い争いになることも、同僚や上司からこっぴどく叱られて落ち込むこともあります。部活動や保護者対応で悩むことも、やっぱりたくさんあります。かつての私が思い描いていた「理想の教員像」と今の私では、少し違う場所に立っているかもしれません。それでも、同僚と生徒と、学校という空間で、思い描いていた以上の愛を共有できていると実感しながら、とても充実した教員生活を送っています。

皆さんも、大学生活を通じて、自分が大切にしたいものを見つけたり、より深めたりしていくことでしょうか。そして、それは思いもよらない形で未来へとつながるかもしれません。

どんな道を選んでも、どんな未来が待っていても、自分らしくいることを大切にしてください。そしてもし、その先に「教員」という道があったなら…そのときは、一緒にもがき、支え合える仲間が増えることを心強く思います。頑張りましょう。

これから始まる皆さんの大学生活が、充実したものになることを心より願っています。

（本学卒業生、千葉英和高等学校教諭〈理科〉）

博物館と共に歩む未来—学芸員課程で広がる可能性

吉澤深玖

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活は高校までと違い、自由なことが増え、授業や日常生活の中で、自分で選択肢を決める機会が増えます。今、この文章を読んでいる皆さんの中には、学芸員課程や教職課程を選ぶかどうかで迷っている方もいるかもしれません。「教職はわかるけど、学芸員ってなんだろう？」と思う方もいるかもしれません。学芸員とは、博物館や美術館などで働き、展示物を管理したり、研究したり、来館者に知識を伝える役割を持つ職業です。もしかしたら、ゲームが好きな方なら、どうぶつの森に登場する博物館のフータを思い浮かべると、少しイメージが湧くかもしれません（もちろん、工作中に居眠りはしませんが(笑)）。こうして考えてみると、「学芸員」と聞いてピンとこなかったとしても、実は身近に感じることができる職業かもしれません。

私は大学院進学を考えていたこともあり、「在学中だからこそできることをしよう」と思い、4年生から興味があった学芸員課程を履修し始めました。授業は現役の学芸員の先生が行ってくださるため、とても面白く興味深い内容となっています。普段の授業の内容だけでなく、企画展の話や、先生の中には自分が働いている博物館に閉館後に見学させてくださる方もいらっしゃいます。閉館後の博物館見学は普段できな

い体験なので、とてもドキドキしたのを今でも覚えています。

また、学芸員実習では、実際に学芸員としての実務を体験し、専門的な知識や技術を学ぶことができます。私は成田空港の近くにある航空科学博物館で学芸員実習を行いました。小規模な企画展示の制作を行い、現在もその展示が公開されています。実習先では、普段なかなかできない貴重な体験をたくさんすることができます。

私の文章を読んで、少しでも学芸員課程に興味を持っていただけたら嬉しいです。また、これまで博物館にあまり行ったことがない方も、この機会に行ってみようかなと思っていただけたら嬉しいです。さらに、工学院大学では上野にある国立科学博物館の大学パートナーシップに参加しており、学生は無料で入館できます。ぜひ、大学生活の中で訪れてみてください。

最後に、大学生活は本当に一度きりの貴重な時間です。学業だけでなく、いろんなことに挑戦して、思いっきり楽しんでください！たくさんの新しい経験を積んで、素晴らしい時間を過ごしてほしいと思います。あなたの大学生活が充実したものになることを心から願っています。

(先進工学部環境化学科 2023年度卒業生、
化学応用学専攻修士課程)

災害時、子どもの声を聴き共に学ぶ教師

安部 芳絵

宮城県石巻市は、東日本大震災最大の被災地と呼ばれます。2025年2月、約1年半ぶりに石巻市子どもセンターらいつを訪れました。震災後の石巻市で、「まちのためになにかしたい」という子どもたちの想いは、「子どもまちづくりクラブ」の活動となりました。石巻市子どもまちづくりクラブのメンバーが2011年夏に描いた「夢のまちプラン」が形になったのが、石巻市子どもセンターらいつです。公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（以下、SCJ）とサントリーホールディングス（株）により復興支援として建設・寄贈されました。

建物の企画・デザイン段階から子どもの意見を全面的に取り入れたらいつは、2014（平成26）年1月に児童館としてオープンして以来、子ども参加で運営されています。中学生が考案したらいつの愛称は、英語で rights（権利）と lights（ひかり）の2つの意味を持ち、「子どもの権利の拠点として、未来の希望のひかりとして子どもセンターが存在する」という願いが込められています。

子ども参加は、らいつの中だけにおさまりません。石巻市は、こども計画の策定に当たって「こども・若者委員」から意見を聴くワークショップを行い、施策へ反映する方向性を打ち出しました。震災に先立つ2009年に東北初の子どもの権利条例を制定していたとはいえ、子どもの権利を柱とした子ども参加を市全体で推進するようすには驚かされます。あの未曾有の大震災からわずか14年、子どもセンターらいつを核として、まち全体が子どもとともに歩んでいこうとしています。

これに対して、能登半島地震後の子どもの声は聴かれているでしょうか。SCJが実施した『2024年能登半島地震子どもアンケート～震災から半年 いま伝えたい子どもたちの声～（アン

ケート結果報告書完全版）』を見てみます。「支援物資はいろいろな方からいただいているが、半島で人口が少ないため復興がむずかしいと思っています。」（輪島市、中2、女）、「自分の町はボランティアが来てない。自分はほったらかしにされてると思う。」（輪島市、小4、男）、「能登を忘れないで欲しい。」（珠洲市、中2、男）。半年経過しても壊れたままの道路、崩れたままの家が放置される日常、なかなか進まない復興への憤りや疑問、支援物資はあるが支援者が足りないようす。「ほったらかしにされている」「見捨てられている」と子どもが感じる状況は、子どもの声が聴かれていないことを示しているのではないのでしょうか。

アンケートの感想には、「大人と話し合うきかいいをつくってみたい。」（珠洲市、小6、男）、「大人や社会に伝えたいことについて、改めて考えてみたいと思った。」（能登町、中2、女）、「もっと子どもの意けんを聞いてほしい。」（能登町、中2、男）のように、復興のまちづくりに向けて大人とともに歩んでいきたいという声もありました。

中学校・高等学校の教育現場では、主体的・対話的で深い学びの重要性が叫ばれています。子どもが主体となって言語活動をするとき、それを聴く教師の存在が不可欠です。日常でできないことは、災害のような非日常で実践できません。学校の日常で子どもの声を聴くことのできる教師は、災害時であっても子どもの声を聴く教師となりえます。本学教職課程では、頻発し激甚化する災害のなかにあっても、子どもの声を聴き、共に学ぶ教師をめざします。あなたも一緒に、そんな教師をめざしませんか。

ご入学おめでとうございます。

（教職課程・学芸員課程、本学教授）

編集後記

ご入学おめでとうございます。教職・学芸員課程の学びを通して、仲間と共に学んでみませんか。学科だけでは経験できない、あなたの人生を豊かにする出会いが教職・学芸員課程にあります。(A)

教職課程・学芸員課程ニュース 第74号

2025年4月1日発行

発行 工学院大学教職課程・学芸員課程

〒163-8677 新宿区西新宿1-24-2

27階 2733教職課程研究室

e-mail: abeyoshie@cc.kogakuin.ac.jp

教職課程・学芸員課程行事日誌（2025年度）

2025. 4. 1 教職・学芸員課程登録案内
4. 1-30 教育実習オリエンテーション<3年度生対象>（オンデマンド形式）
4. 3 教育実習説明会<4年度生対象>
4. 3-5 履修面談指導
4. 4,5 教職・学芸員課程登録
4. 7 授業開始
6. 16 教職課程運営委員会第1回
7. 12 教員採用試験直前講座
7. 31 教員採用試験直前講座
8. 1 介護等体験オリエンテーション
8. 4-8. 30 教職・学芸員課程夏期集中授業
9. 11-19 教育職員免許状一括申請案内（オンデマンド形式）
12. 6 学芸員課程 2025年度博物館実習報告会第1回
12. 8 教職課程運営委員会第2回
12. 20 教員採用試験合格者体験談
12. 25 文部科学省現地視察
12. 26 工学院大学教師会シンポジウム
-
2025. 1. 13 少年院見学
1. 13 学芸員課程 2025年度博物館実習報告会第2回 及び
2026年度博物館実習（学外実習）オリエンテーション
2. 12 教員採用試験キックオフ講座
2. 15-28 介護等体験登録オリエンテーション（オンデマンド形式）
3. 19 学位授与式 教員免許状・学芸員資格証明書交付
3. 26 教職・学芸員課程講師会

教職課程・学芸員課程データ

2026年3月1日現在

■教職課程新規登録者数

年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
学部	115	110	143	108	75	96	89	99	98	98	99
※	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
大学院	3	4	6	6	6	4	3	5	5	3	9
教職特別課程	27	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	145	140	149	114	81	100	92	104	103	101	108

※…()は第2部学生数。学部の内数。

■教育実習者数

年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人数	67	70	59	54	52	61	48	46	48	52	61

■教員免許申請件数(延べ数)

年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人数	95	99	101	92	101	130	98	93	108	110	114

※2022年度は予定

■教員就職者数(卒業年度)

年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
学部	1	4	3	4	7	2	4	1	8	16	未定
大学院	0	3	0	1	1	1	1	0	0	1	未定
教職特別課程	11	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	12	11	3	5	8	3	5	1	8	17	未定

■学芸員課程新規登録者数

年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人数	35	39	36	48	35	20	10	21	14	15	25

■博物館実習者数

年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人数	8	17	7	10	12	13	18	9	8	7	15

■学芸員資格取得者数

年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人数	8	17	7	10	11	14	16	8	7	8	15

編集後記

28号発刊に至りました。PDF版を中心に公開させて頂きました。ご寄稿賜りました先生方大変ありがとうございました。これも例年のことで、いつもお断りして恐縮ですが、掲載順は編集の都合によりますためご了承お願い申し上げます。本年度は文部科学省の本学教職課程視察がありましたので関連資料を掲載させて頂きました。(U)

執筆者

尾高 進	教職課程科教授	教職課程科長(学芸員課程兼務)
安部 芳絵	教職課程科教授	教職課程・学芸員課程幹事
内山 宗昭	教職課程科教授	
浜野 兼一	教職課程非常勤講師	
竹谷 尚人	教職課程非常勤講師	
澤田 俊也	大阪工業大学准教授	
大月 理央	私立千葉英和高等学校	
山岸 和樹	神奈川県立川崎工科高等学校	
山川 泰宏	東京都立小山台高等学校	
岩崎 賢司	横浜市立浦島丘中学校	
堀内 宏基	神奈川県立横浜修悠館高等学校	
早川 和希	横浜市立笹下中学校	
森田 賢	東京都立青山高等学校	
松田 悠	中央区立晴海中学校	
小淵 一樹	東大和市立第四中学校	

工学院大学教職課程学芸員課程年報 第28号

2026年 3月 15日 発行

発行 工学院大学教職課程学芸員課程

〒163-8677 新宿区西新宿 1-24-2

(安部芳絵研究室)

e-mail: abeyoshie@cc.kogakuin.ac.jp

